福岡市埋蔵文化財調査報告書　第532集

博　多　59

－博多遺跡群第91次、第93次調査報告－

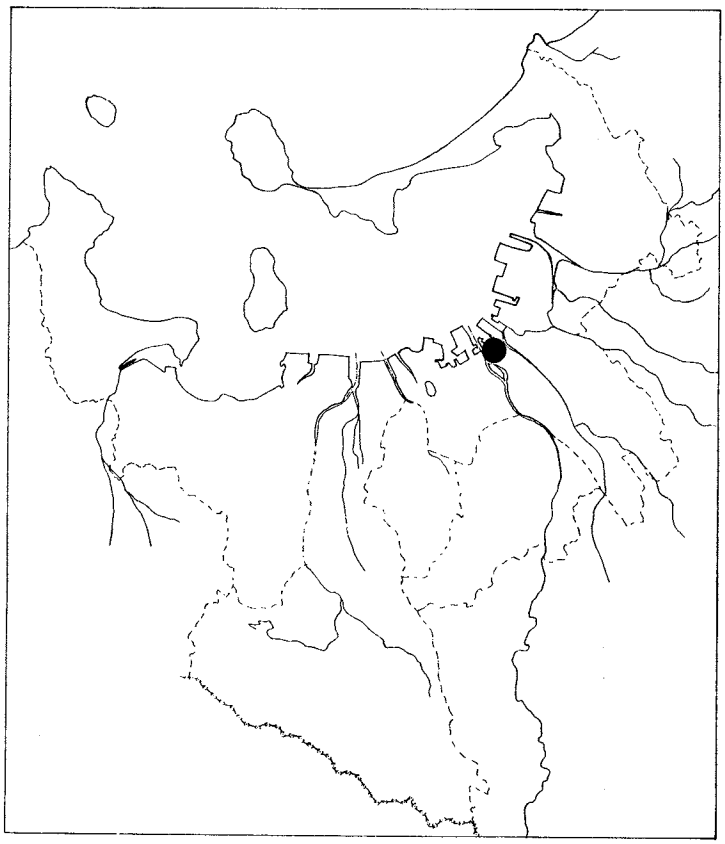
1997

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第532集

博　多　59

－博多遺跡群第91次、第93次調査報告－



遺跡略号　HKT－91
　　HKT－93
調査番号　9532
　　9545

1997

福岡市教育委員会

序　文

九州の北岸に位置する福岡市域はその地理的条件により、大陸や朝鮮半島からさまざまな文化を受容し栄えてきました。とりわけ、博多遺跡群は古代から中世・近世を通じて繁栄した国際都市であります。

福岡市教育委員会では、開発に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録による保存に努め後世に残そうと考えています。

本書は博多遺跡群第９１次調査、第９３次調査の成果を報告するものです。

本書が埋蔵文化財の保護と知識を深める一助となり、また研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後に、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対し、心から謝意を表す次第であります。

平成９年３月31日

福岡市教育委員会

教育長　町　田　英　俊

例　言

1．本書は、1995年度に行われた民間開発に伴い、福岡市教育委員会が調査を実施した博多遺跡群第91次・93次調査の報告書である。調査の担当は加藤隆也である。
2．本章に使用した遺構の実測は加藤隆也が、遺物の実測図は加藤、入江のり子が行った。製図は加藤、入江が行った。
3．本章に使用した遺構、遺物の写真は加藤が撮影した。
4．遺構の呼称は記号化し土坑をＳＫ、井戸をＳＥ、柱穴をＳＰ、溝をＳＤとした。
5．本章で用いる方位は全て磁北である。
6．本章の執筆・編集は加藤が行った。
7．第２章Ⅲについては西南大学教授　磯 望氏から玉稿をいただいた。
8．出土遺物のうち、陶磁器については「博多出土陶磁分類表」（福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告－博多－福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集　別冊　福岡市教育委員会　1984）に基づいて記述した。
9．本報告に係るすべての出土遺物・記録類（図面・写真・スライドなど）は、報告終了後、福岡市埋蔵文化財センターにおいて、収蔵・管理・公開される予定である。

遺跡調査番号	9532		遺 跡 略 号	ＨＫＴ－91	
調査地地番	博多区下川端町134番地		分布地図番号	天神49	
開 発 面 積	99.53㎡	調査対象面積	67㎡	調査実施面積	67㎡
調　査　期　間	1995年11月１日～11月８日				

遺跡調査番号	9545		遺 跡 略 号	ＨＫＴ－93	
調査地地番	博多区古門戸町83番外７筆		分布地図番号	千代博多48	
開 発 面 積	670.46㎡	調査対象面積	465㎡	調査実施面積	465㎡
調　査　期　間	1995年12月１日～1996年２月５日				

本　文　目　次

第１章　第91次調査の記録

Ⅰ　はじめに …… 1
　1　調査に至る経緯 …… 1
　2　調査の組織 …… 1
Ⅱ　調査の記録 …… 2
　概要 …… 2
　1　土坑（ＳＫ） …… 2
　2　井戸（ＳＥ） …… 4
　3　柱穴（ＳＰ） …… 6
　4　出土銅銭・遺構確認他 …… 8
　5　小　結 …… 10

第２章　第93次調査の記録

Ⅰ　はじめに …… 11
　1　調査に至る経緯 …… 11
　2　調査の組織 …… 11
Ⅱ　調査の記録 …… 12
　概要 …… 12
　1　第１面の調査 …… 13
　　(1)　土坑（ＳＫ） …… 13
　　(2)　柱穴（ＳＰ） …… 25
　2　第２面の調査 …… 28
　　(1)　土坑（ＳＫ） …… 28
　　(2)　柱穴（ＳＰ） …… 34
　　(3)　溝（ＳＤ） …… 41
　　(4)　井戸（ＳＥ） …… 45
　　(5)　包含層・遺構確認他 …… 54
　　(6)　トレンチ調査 …… 54
　3　小 結 …… 58

Ⅲ　博多遺跡群93次発掘調査地の地形と地質 …… 磯　望（西南学院大学）　65

挿　図　目　次

91次調査

Fig. 1　第91次調査地点周辺図（1/2,000）…… 1
Fig. 2　第91次調査地点位置図（1/500）…… 2
Fig. 3　第91次調査区遺構配置図（1/100）…… 3
Fig. 4　ＳＫ－01実測図（1/20）…… 4
Fig. 5　ＳＫ－01出土遺物実測図（1/3・1/4）…… 5
Fig. 6　ＳＥ－01実測図（1/40）…… 6
Fig. 7　ＳＥ－01出土遺物実測図（1/3）…… 7
Fig. 8　ＳＰ出土遺物実測図（1/3・1/4）…… 8
Fig. 9　出土銅銭拓影（1/1）…… 9
Fig.10　遺構検出時出土遺物（1/3）…… 9

93次調査

Fig.11　第93次調査地点周辺図（1/2,000）……11
Fig.12　第93次調査地点位置図（1/500）……12
Fig.13　第１面遺構配置図（1/100）…… 折り込み
Fig.14　ＳＫ－01～08実測図（1/40）……14
Fig.15　ＳＫ－09～14実測図（1/40）……15
Fig.16　ＳＫ－15～24実測図（1/40）……16
Fig.17　ＳＫ－25～36実測図（1/40）……17
Fig.18　ＳＫ－37～41実測図（1/40）……18
Fig.19　ＳＫ－01～02出土遺物実測図（1/2・1/3）……21
Fig.20　ＳＫ－03～13出土遺物実測図（1/3）……22
Fig.21　ＳＫ－14～36出土遺物実測図（1/3・1/4）……23
Fig.22　ＳＫ－37～39出土遺物実測図（1/3）……24
Fig.23　ＳＰ－12～60、403～436出土遺物実測図（1/3）……26
Fig.24　ＳＰ－440～457出土遺物実測図（1/3）……27
Fig.25　第２面遺構配置図（1/100）……折り込み
Fig.26　ＳＫ－42～55実測図（1/40）……30
Fig.27　ＳＫ－56～67実測図（1/40）……31
Fig.28　ＳＫ－68～78実測図（1/40）……32
Fig.29　ＳＫ－79～85実測図（1/40）……35
Fig.30　ＳＫ－86～97実測図（1/40）……36
Fig.31　ＳＫ－98～110実測図（1/40）……37
Fig.32　ＳＫ－47～56出土遺物実測図（1/3）……38
Fig.33　ＳＫ－66～91出土遺物実測図（1/3）……39
Fig.34　ＳＫ－95～109出土遺物実測図（1/2・1/3）……40
Fig.35　ＳＰ－138～331出土遺物実測図（1/3・1/4）……42

Fig.36　ＳＰ－333、334、503～572出土遺物実測図（1/3）……43
Fig.37　ＳＰ－575～600出土遺物実測図（1/3）……44
Fig.38　ＳＤ出土遺物実測図（1/3）……45
Fig.39　ＳＥ－01、02、07実測図（1/60）……46
Fig.40　ＳＥ－03、04、05実測図（1/60）……47
Fig.41　ＳＥ－06、08、09実測図（1/60）……48
Fig.42　ＳＥ－01出土遺物実測図１（1/2・1/3）……49
Fig.43　ＳＥ－01出土遺物実測図２（1/3）……50
Fig.44　ＳＥ－01出土遺物実測図３（1/3・1/8）……51
Fig.45　ＳＥ－02、03、09出土遺物実測図（1/3）……52
Fig.46　93次調査出土銅銭拓影（1/1）……55
Fig.47　包含層出土遺物実測図１（1/3）……56
Fig.48　包含層出土遺物実測図２（1/3）……57
Fig.49　トレンチ調査出土遺物実測図（1/3）……58

図　版　目　次

第91次調査

ＰＬ．１　(1)　ＳＫ－01遺物出土状況（南東から）　(2)　ＳＥ－01検出状況（南東から）
ＰＬ．２　第91次調査出土遺物

第93次調査

ＰＬ．３　(1)　Ａ区第１面全景（北東から）　(2)　Ａ区第２面全景（北東から）
ＰＬ．４　(1)　Ｂ区第１面全景（北西から）　(2)　Ｂ区第２面全景（北西から）
ＰＬ．５　(1)　ＳＫ－01遺物出土状況（南東から）　(2)　ＳＫ－02検出状況（南西から）
(3)　ＳＫ－34検出状況（北から）　(4)　ＳＫ－45遺物出土状況（北東から）
ＰＬ．６　(1)　ＳＫ－79検出状況（南西から）　(2)　ＳＫ－89、90完掘状況（東から）
(3)　ＳＫ－98、100検出状況（南東から）　(4)　ＳＫ－110検出状況（西から）
ＰＬ．７　(1)　ＳＥ－01上面獣骨出土状況（南東から）　(2)　ＳＥ－01検出状況（南東から）
(3)　ＳＥ－02検出状況（南東から）　(4)　ＳＥ－３，４，６，７検出状況　（南西から）
ＰＬ．８　(1)　ＳＥ－03検出状況（北から）　(2)　ＳＥ－06検出状況（北から）
(3)　ＳＥ－07検出状況（北から）　(4)　トレンチ調査掘削状況（西から）
ＰＬ．９　出土遺物１
ＰＬ．10　出土遺物２

本文写真目次

Ph. 1　91次作業風景 …… 9
Ph. 2　91次調査全景 …… 10
Ph. 3　SK－41側面（北から） …… 18
Ph. 4　SK－03遺物出土状況（南東から） …… 24
Ph. 5　B区第1面遺構検出作業風景 …… 25
Ph. 6　SP－06検出状況（南東から） …… 27
Ph. 7　SP－18検出状況（西から） …… 27
Ph. 8　SK－98検出状況（南西から） …… 38
Ph. 9　A区第2面柱穴検出状況（南東から） …… 44
Ph. 10　SE－05検出状況（南西から） …… 48

表目次

Tab. 1　93次調査出土遺物観察表1 …… 59
Tab. 2　93次調査出土遺物観察表2 …… 60
Tab. 3　93次調査出土遺物観察表3 …… 61
Tab. 4　93次調査出土遺物観察表4 …… 62
Tab. 5　93次調査出土遺物観察表5 …… 63
Tab. 6　93次調査出土貨幣一覧 …… 64

第１章　　第91次調査の記録

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経緯

1995年７月25日、博多区下川端町134番地における立体駐車場建設に伴う埋蔵文化財課事前審査願書が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの博多遺跡群の北側に位置している。福岡市教育委員会が、これを受けて1995年９月27日に試掘調査を実施した。現況は宅地で、調査の結果、地表下約3.4ｍの砂丘層上面にて遺構が確認された。よって、面積67㎡を対象に記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は1995年11月１日～同年11月８日まで行った。

2　調査の組織

調査主体　福岡市教育委員会　教育長　尾花剛（前）　町田英俊（現）
調査総括　文化財部長　　後藤直
　　埋蔵文化財課長　荒巻輝勝
　　埋蔵文化財課第２係長　山口譲治
調査庶務　埋蔵文化財課第１係　内野保基　西田結香
調査担当　埋蔵文化財課第２係　加藤隆也
試掘調査　山崎龍雄　池田祐司
発掘作業員　小山隆　三原章司　尾崎康子　賀山道子　柴田勝子　柴田春代　辻美佐江　土斐崎初栄
　　原幸子　高橋茂子

Fig. 1　第91次調査地点周辺図（1/2,000）

Ⅱ　調査の記録

概　要

調査地点は、博多遺跡群の中でも北側に位置する。調査面積が狭小であるため地山面である黄褐色砂層の堆積方向や傾斜方向などは調査地内においては不明である。また、調査開始前の土留め工事などのため土層の観察は行えなかった。今回の調査は黄褐色砂層上面の１面のみの調査となった。

1　土坑（ＳＫ）

土坑状のものは不定形のものを含み幾つかみられたが地山の汚れなどもあり、掘方が明確にみられたのはＳＫ－０１のみである。

ＳＫ－01（Fig. 4、ＰＬ．1）

調査区南西に位置し、ＳＥ－01を切る。長軸1.85ｍ、短軸1.1ｍ、深さ0.4ｍを測り、平面は隅丸長方形を呈する。遺物の出土状況などから廃棄土坑と考えられる。時代は遺物から15世紀代と思われる。

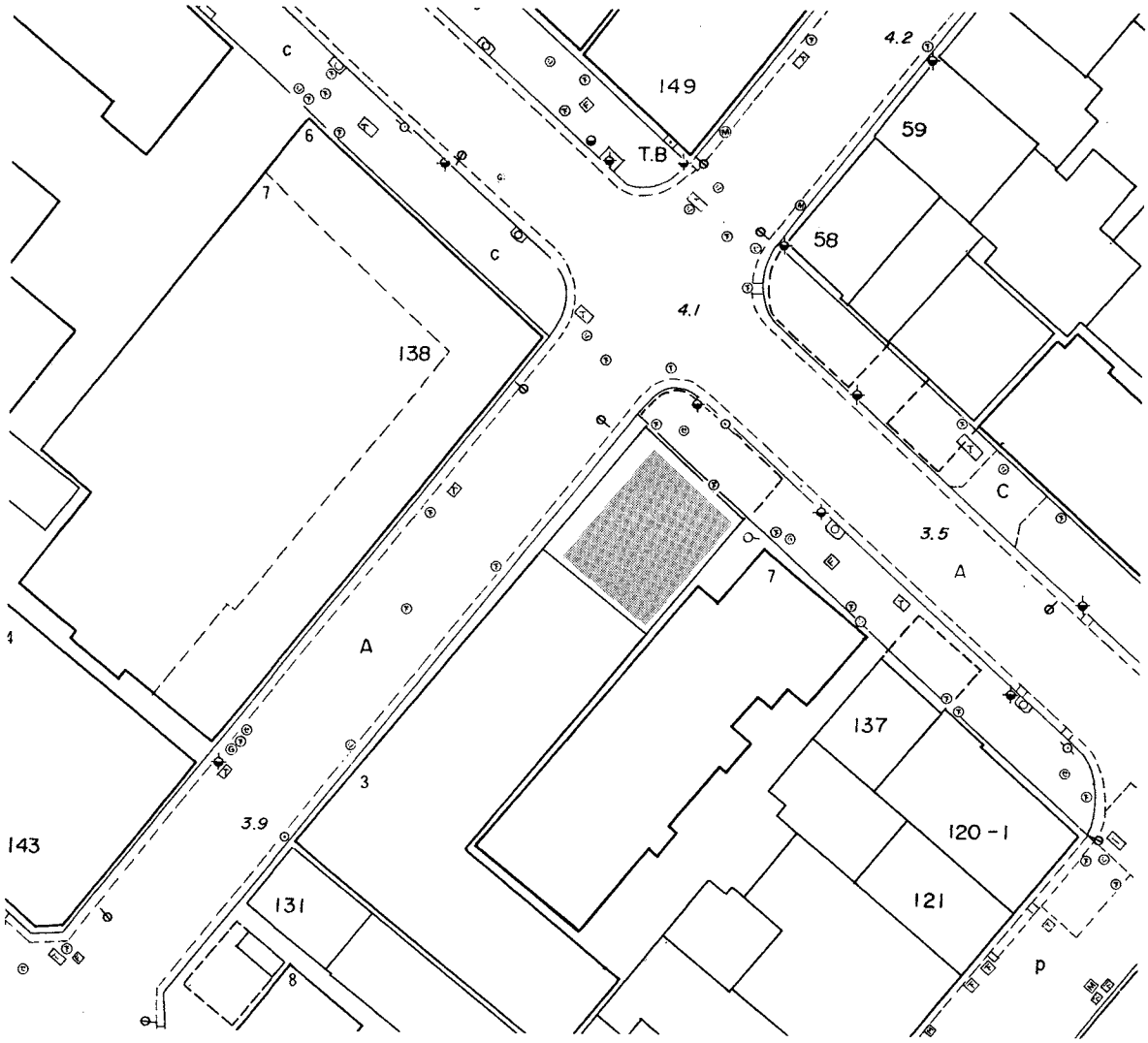


Fig. 2　第91次調査地点位置図（1/500）

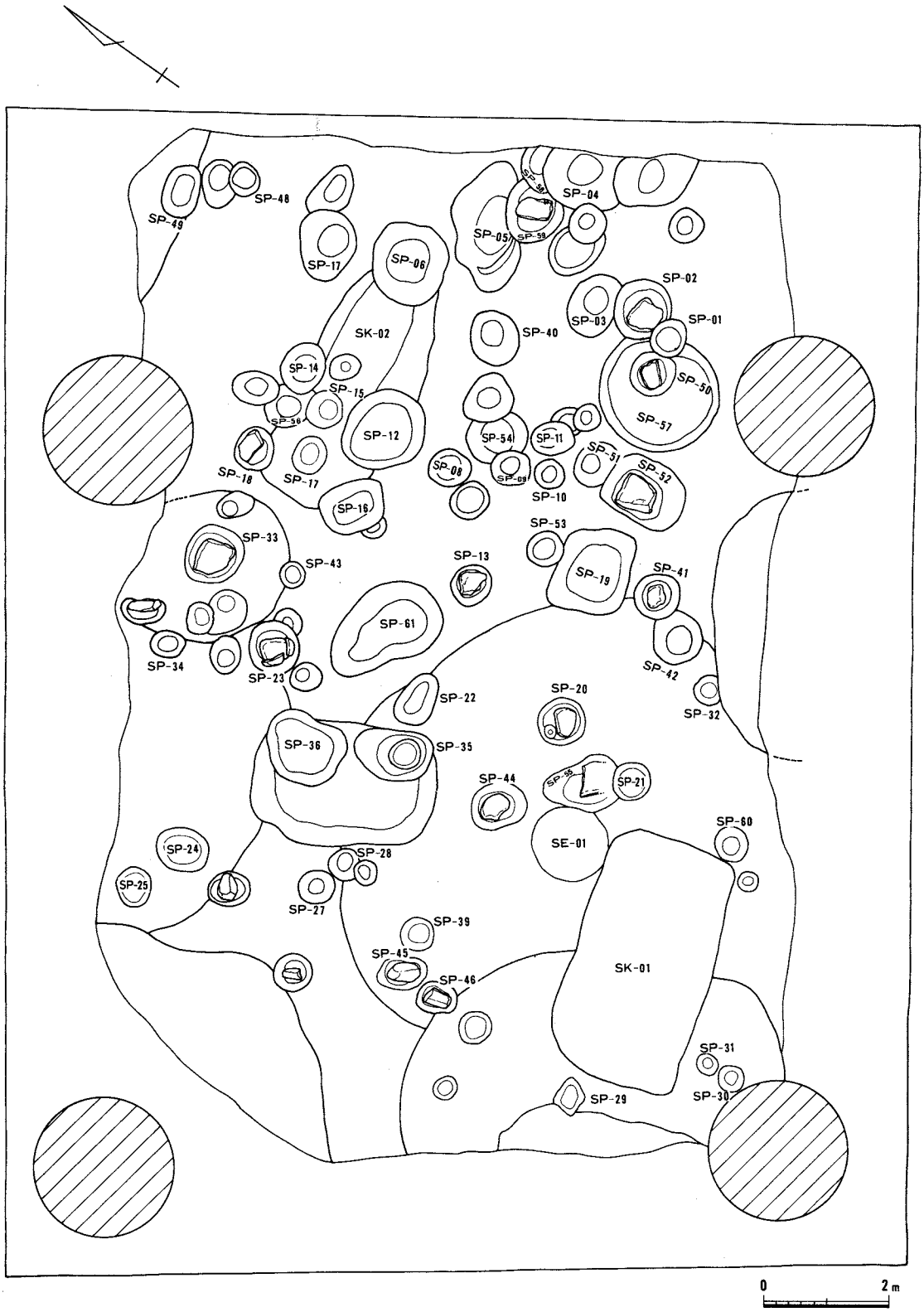


Fig. 3　第91次調査区遺構配置図（1/100）

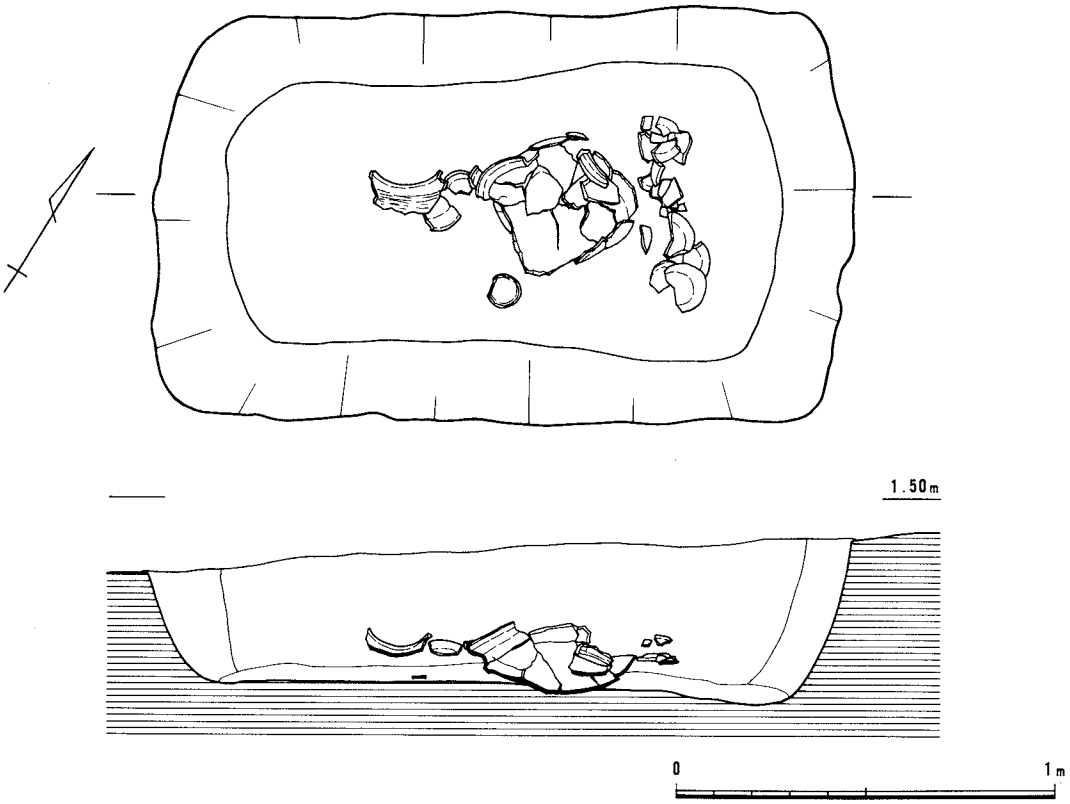


Fig. 4　ＳＫ－01実測図（1/20）

出土遺物（Ｆｉｇ．５、ＰＬ．２）

1～**6**は土師器小皿である。底部外面の切り離しは、すべて糸切りである。**1**は口径8.0cm、底径6.2cm、器高1.5cmを測る。**2**は口径7.8cm、底径6.0cm、器高1.3cmを測る。胎土中に雲母がみられる。**3**口径7.6cm、底径6.6cm、器高1.2cmを測る。**4**は口径8.4cm、底径7.0cm、器高1.4cmを測る。**5**は口径7.8cm、底径4.8cm、器高1.3cmを測る。**6**は口径8.2cm、底径6.2cm、器高1.5cmを測る。**7**～**14**は土師器坏である。底部外面の切り離しは、すべて糸切りである。**7**は口径12.4cm、底径8.2cm、器高2.6cmを測る。**8**は口径12.7cm、底径8.0cm、器高2.6cmを測る。**9**は口径11.6cm、底径8.0cm、器高2.8cmを測る。**10**は口径12.3cm、底径7.8cm、器高2.5cmを測る。**11**は口径12.6cm、底径9.1cm、器高2.5cmを測る。**12**は口径12.3cm、底径8.2cm、器高2.6cmを測る。**13**は口径12.4cm、底径7.6cm、器高2.9cmを測る。**14**は口径12.5cm、底径8.4cm、器高3.1cmを測る。**15**は壺である。最大径は胴部のやや上部にあり、口縁は上方にまっすぐのびる。口径22.0cm、底径13.0cm、器高31.3cmを測る。内外面ともにハケ目と横ナデによる器面調整をおこなっており、胎土は焼成が不良のためか瓦質であり、色調は黒灰色を呈する。

2　井戸（ＳＥ）

報告するものは１基のみであるが調査区南西隅、北西隅などに井戸の掘方状の落ちが確認されたが調査区外にのびるため井戸である確証は得られなかった。

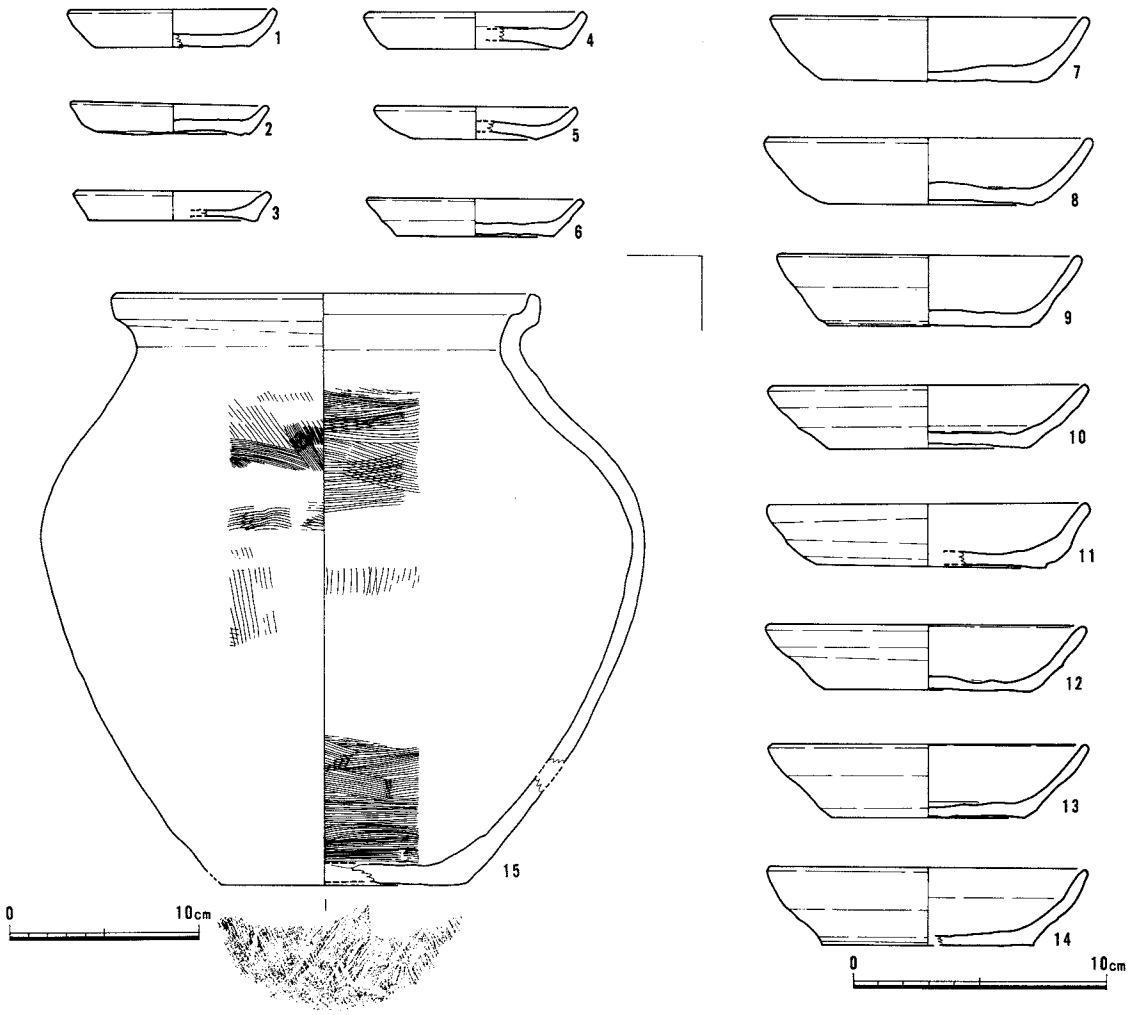


Fig. 5　ＳＫ－01出土遺物実測図（1/3・1/4）

ＳＥ－01（Fig. 6、ＰＬ. 1）

調査区南西にて確認された。ＳＫ－01に切られる。地山面における径は7.7ｍを測り、中央部に木桶による井戸枠がみられた。木桶は下部の２段が残存していた。上の桶は現存で幅約10㎝、厚さ２～５㎝を測る板材がみられた。下の桶は現存で幅９～10㎝、厚さ５～７㎝の板材がみられた。調査時にタガは残存していなかった。また、現在の湧水レベルは海抜0.35ｍであった。所属時代はＳＫ－01に切られるが、出土遺物にあまり時代差がみられない。時代は１５世紀代と思われる。

出土遺物（Fig. 7、ＰＬ. 2）

井戸枠内から出土した遺物は**25**の坏と**29**の合子である。**16**～**18**は土師器小皿である。底部外面の切り離しは、すべて糸切りである。**16**は口径7.6㎝、底径5.2㎝、器高1.3㎝を測る。**17**は口径7.8㎝、底径5.8㎝、器高1.5㎝を測る。**18**は口径7.5㎝、底径5.8㎝、器高1.1㎝を測る。**19**～**27**は土師器坏である。底部外面の切り離しは、すべて糸切りである。**19**は口径12.4㎝、底径8.2㎝、器高2.4㎝を測る。**20**は口径12.8㎝、底径8.0㎝、器高2.5㎝を測る。**21**は口径12.6㎝、底径9.8㎝、器高2.7㎝を測る。**22**は口径12.2㎝、底径9.0㎝、器高2.6㎝を測る。**23**は口径12.4㎝、底径8.2㎝、器高2.9㎝を測る。**24**は口径12.8㎝、底径9.3㎝、器高2.8㎝を測る。**25**は口径12.9㎝、底径8.0㎝、器高2.7㎝を測る。**26**は口径11.8㎝、底径8.1㎝、器高2.7㎝を測る。底部外面に板状圧痕が残る。**27**は口径12.8㎝、底径8.0㎝、器高2.6㎝を測る。底部外面に板状圧痕がみられる。**28**は瓦質の高台付坏である。底径6.4㎝を測り、黒灰色

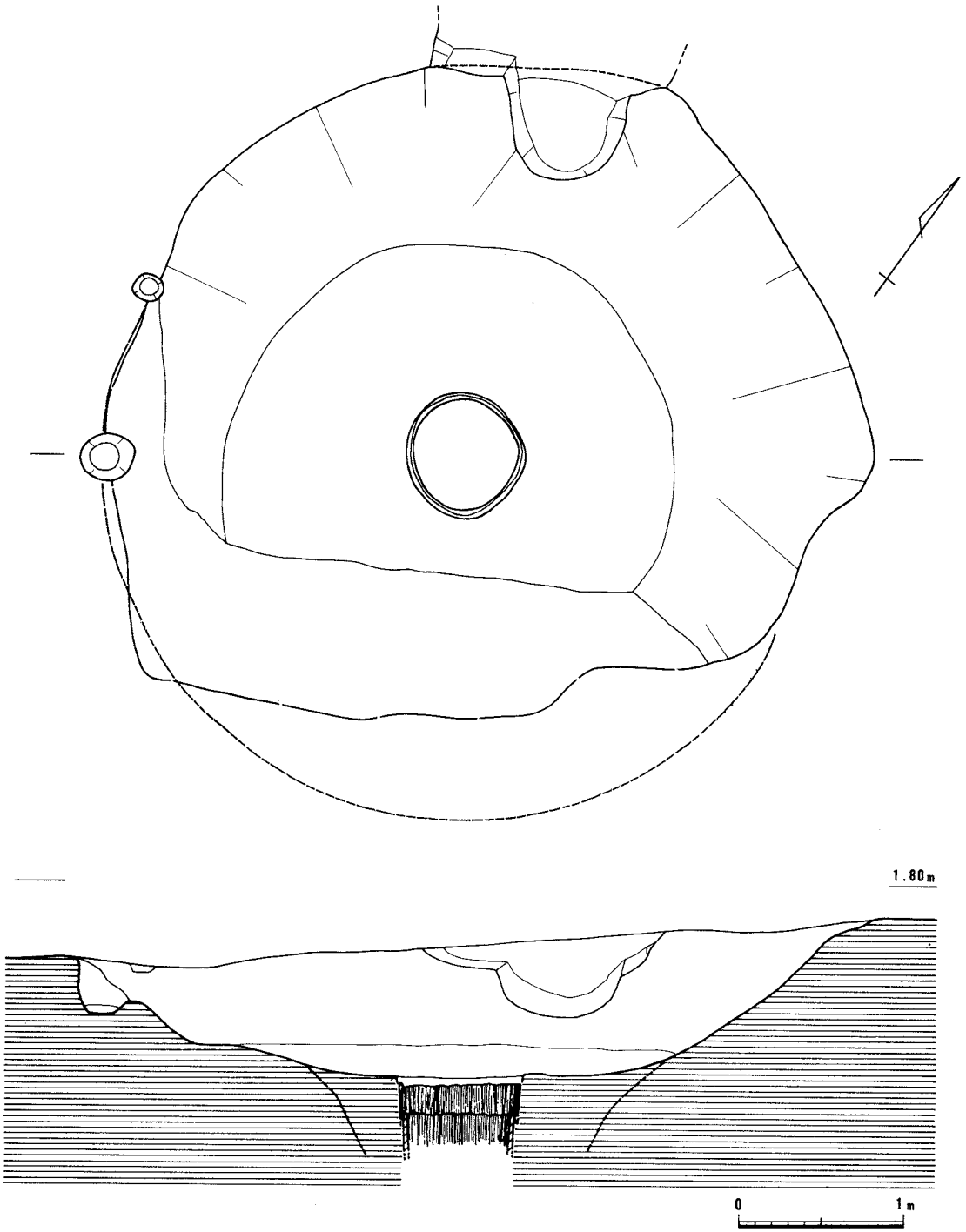


Fig. **6**　ＳＥ－01実測図（1/40）

を呈する。**29**は青白磁の合子の蓋である。釉はガラス質で白灰オリーブ色を呈する。

3　柱穴（ＳＰ）

今回の調査において、56穴のピットを検出した。埋土は大きく分けて黒褐色砂質土と灰褐色砂質土のものがあるが、明瞭には分かれないものも多くあった。また、根石などの石を敷くものも10穴

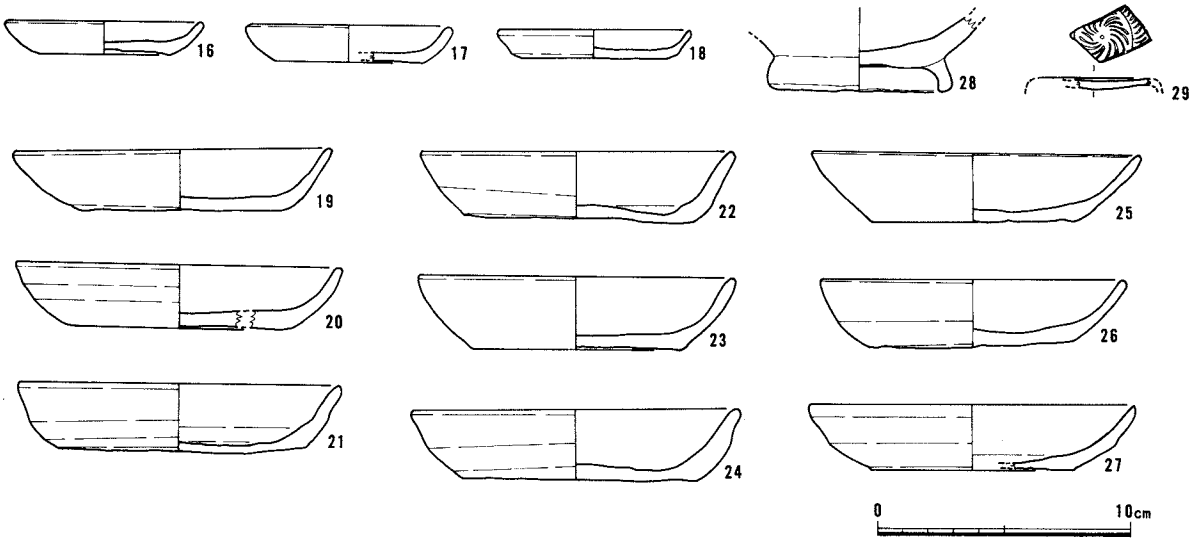


Fig. 7　ＳＥ－01出土遺物実測図（1/3）

以上みられたが、建物として規模等が復元できるものは調査面積が狭く特定できなかった。

出土遺物（Fig. 8）

30はＳＰ－02から出土した象嵌青磁である。小片であるため器形は不明である。**31～36**はＳＰ－05出土の遺物である。**31～35**は土師器の坏である。底部外面の切り離しは糸切りである。**31**は口径11.6cm、底径8.0cm、器高2.9cmを測る。底部外面に板状圧痕が残る。**32**は口径11.6cm、底径8.5cm、器高2.3cmを測る。底部外面に板状圧痕がみられる。**33**は底径8.6cmを測る。底部外面に板状圧痕がみられる。**34**は底径8.9cmを測る。**35**は口径13.0cm、底径9.1cm、器高2.9cmを測る。底部外面に板状圧痕が残る。**36**は白磁碗である。内面見込みにスタンプ文があり、釉色はうすいオリーブ色を呈する。高台径4.2cmを測る。**37～39**はＳＰ－07から出土したものである。**37**は土師器小皿である。口径7.4cm、底径5.6cm、器高1.3cmを測る。**38**は口径8.2cm、底径6.5cm、器高1.6cmを測る土師器小皿である。**39**は口径12.5cm、底径8.8cm、器高2.6cmを測る土師器坏である。**40**はＳＰ－16から出土した土師器坏である。口径11.4cm、底径7.6cm、器高2.6cmを測る。**41**、**42**はＳＰ－25から出土した遺物である。**41**は口径8.0cm、底径6.6cm、器高1.3cmを測る。土師器小皿である。**42**は高台径6.4cmを測る。高台付坏である。**43**はＳＰ－33から出土した土師器坏である。口径12.8cm、底径9.2cm、器高2.7cmを測る。**44**はＳＰ－35出土の滑石製石鍋である。口径16.9cmを測る。**45**、**46**はＳＰ－43から出土した。**45**は口径8.8cm、底径7.0cm、器高1.3cmを測る土師器小皿である。底部外面に板状圧痕がみられる。**46**は口径12.4cm、底径9.0cm、器高2.7cmを測る土師器坏である。**47**、**48**はＳＰ－54出土の土師器小皿である。**47**は口径8.2cm、底径6.0cm、器高1.4cmを測る。底部外面に板状圧痕が残る。**48**は口径8.6cm、底径5.6cm、器高1.7cmを測る。**49**はＳＰ－46から出土した砥石である。４面の使用面がみられる。**50**、**51**はＳＰ－49から出土した遺物である。**50**は口径7.8cm、底径6.0cm、器高1.4cmを測る土師器小皿である。**51**は口径12.0cm、底径8.2cm、器高2.3cmを測る土師器坏である。**52**はＳＰ－55から出土した国産陶器の捏鉢である。口径29.3cm、高台径19.3cm、器高22.1cmを測る。

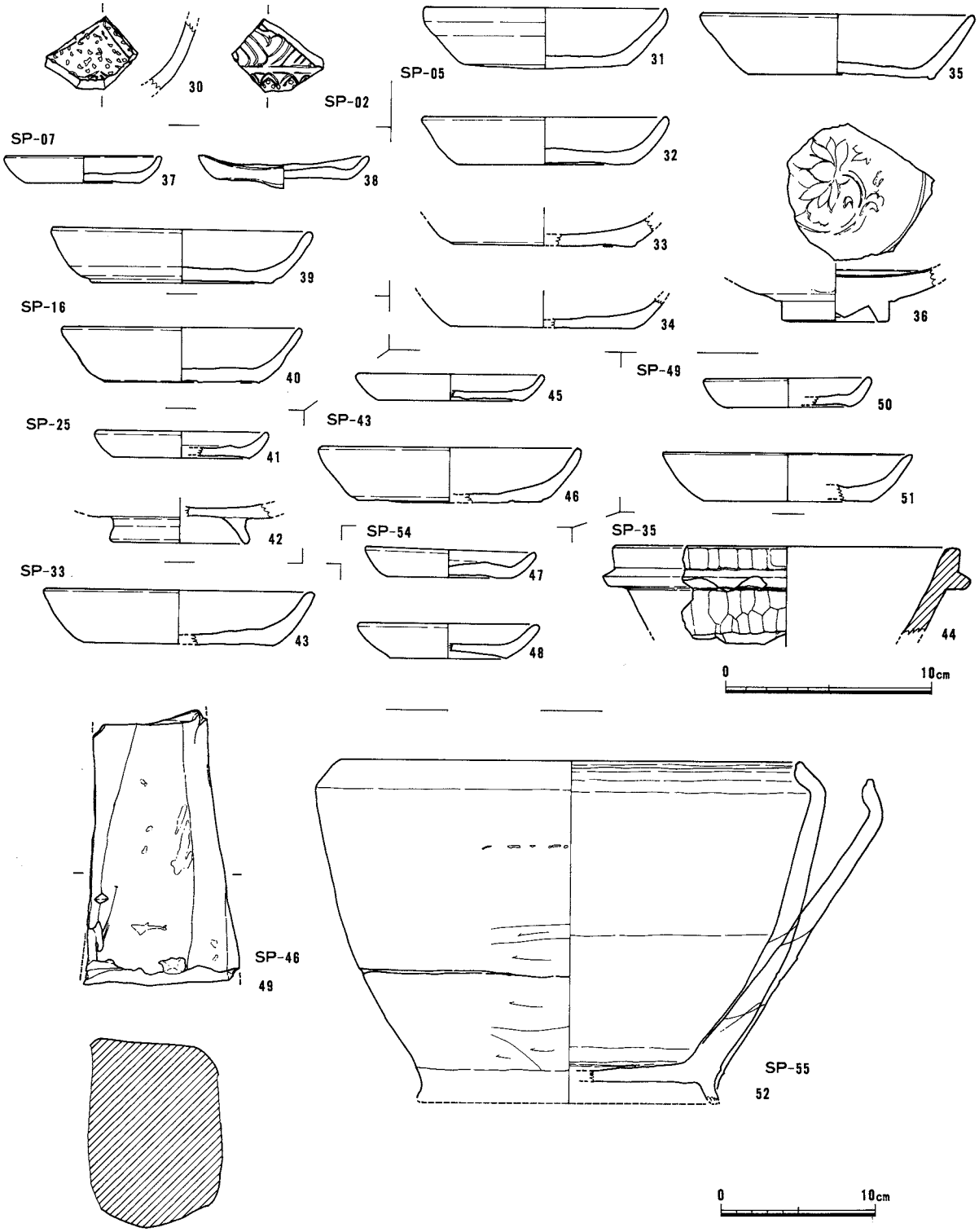


Fig. 8　ＳＰ出土遺物実測図（1/3・1/4）

4　出土銅銭・遺構確認他

出土銅銭（Ｆig. 9）

53はＳＥ－01出土の銅銭である。外径2.5cm、外縁厚0.13cmを測る。**54**はＳＰ－24出土で外縁厚0.12cmを測る。**55**は遺構検出時に出土した。外径2.44cm、外縁厚0.15cmを測る。

遺構確認時出土遺物

ここにとりあげる遺物は上層の残土から出土したものと、遺構検出作業時に出土した遺物である。

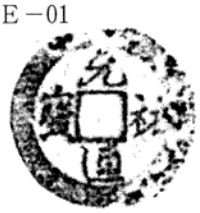
ＳＥ－01	ＳＰ－24	遺構検出面
 53	54	55
元祐通寶	□觀通□	熙寧元寶
1086年初鋳	不　明	1068年初鋳

Fig. **9**　出土銅銭拓影（1/1）

出土遺物（Fig. 10）

56、**57**は土師器小皿である。**56**は口径8.4cm、底径6.2cm、器高1.3cmを測る。底部外面に板状圧痕が残る。**57**は口径6.5cm、底径4.2cm、器高1.9cmを測る。**58**～**60**は土師器坏である。**58**は口径12.7cm、底径8.8cm、器高2.8cmを測る。**59**は口径13.0cm、底径7.6cm、器高2.8cmを測る。底部外面に鉄滓が付着している。**60**は口径12.4cm、底径8.0cm、器高3.0cmを測る。底部外面に板状圧痕がみられる。**61**は残存長3.7cmを測る土錘である。

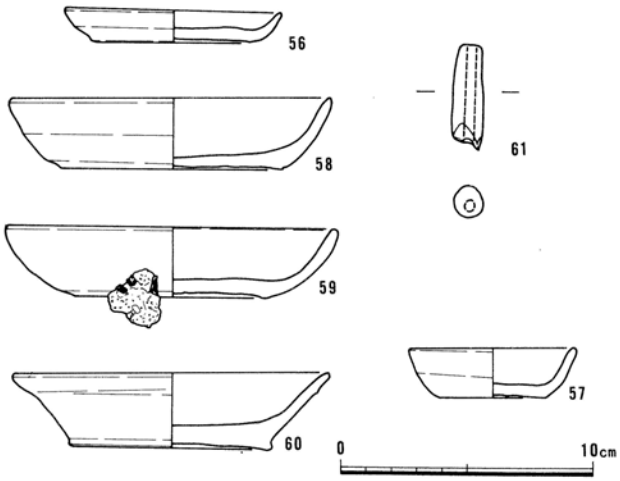
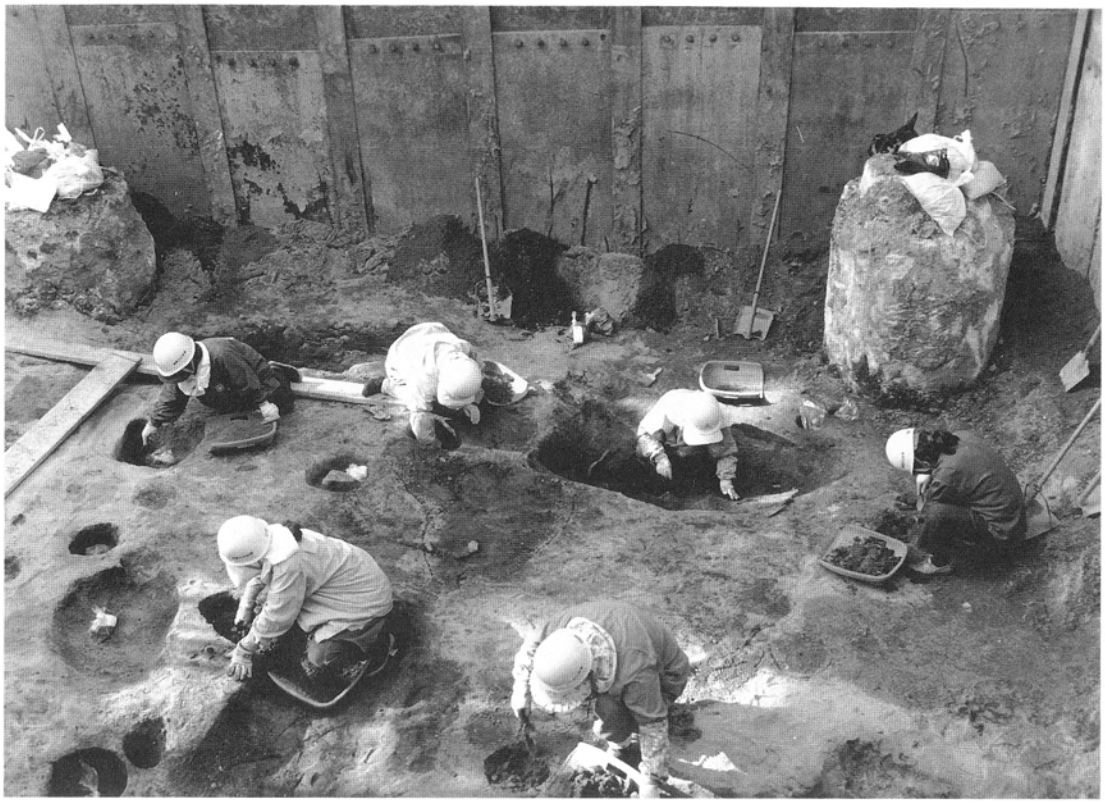


Fig. **10**　遺構検出時出土遺物（1/3）



Ph. **1**　91次作業風景

5　小 結

今回の調査地点は博多において最も海寄りに位置する。この地は11世紀末ごろの海岸線（河口部）にあたると考えられており、調査地の北側、現在の昭和通りあたりが微高地の頂点で、調査地に向けて低くなると推定されている。

砂層上面で15世紀代の井戸、土坑、柱穴などの生活遺構を検出した。井戸は桶組みのもので、現在の湧水点（海抜0.35m）の下にまでのびていた。土坑は廃棄土坑と思われ、壷、小皿、坏などが中央部に廃棄されていた。検出当初は平面形が隅丸長方形を呈することから土坑墓の可能性も考えられたが、同時期の周辺の状況と遺物の出土状況から廃棄土坑とした。柱穴は博多遺跡内ではよく見られる砂層を基盤とする底面に平たい礫を敷いたものが複数確認されたが調査面積の限界から建物の規模、方向などは特定できなかった。

調査地内において、検出面の砂層は海抜1.3mでほぼ平坦であり、南側に傾斜する状況はみられなかった。また、検出遺構においても15世紀を大きく遡るものは検出されず、井戸の調査による砂層の観察においても遺構はみられなかった。このようなことから、微高地の南側が陸地化する時期は、急速な砂層の成長による陸地化がみられる微高地海側に比べ、遅れるものと考えられる。

Ph. 2　91次調査全景

(1)　SK-01 遺物出土状況（南東から）

(2)　SE-01 検出状況（南東から）

第91次調査出土遺物

第２章　　第93次調査の記録

Ⅰ　はじめに

１　調査に至る経過

1995年６月20日、博多区古門戸町83番外７筆における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財課事前審査願書が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの博多遺跡群の北側に位置している。福岡市教育委員会が、これを受けて1995年10月11日に試掘調査を実施した。現況は宅地で、調査の結果、地表下約2.0ｍの黄茶褐色砂質土上面と20～30㎝下位の黄褐色砂層上面にて遺構が確認された。よって、面積465㎡を対象に記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は1995年12月１日～1996年２月５日まで行った。

２　調査の組織

調査主体　福岡市教育委員会　教育長　尾花剛（前）　町田英俊（現）
調査総括　文化財部長　　後藤直
　　埋蔵文化財課長　荒巻輝勝
　　埋蔵文化財課第２係長　山口譲治
調査庶務　埋蔵文化財課第１係　内野保基　西田結香
調査担当　埋蔵文化財課第２係　加藤隆也
試掘調査　山崎龍雄　池田祐司
発掘作業員　尾崎康子　賀山道子　楠本純次　小山隆　高橋茂子　辻美佐江　栃本伸一　三原章司
　　大塩皓　甲斐生耕　石橋テル子　岡部静江　金子由利子　清原ユリ子　下司昭枝
　　小松冨美　真田弘二　坂本ハツ子　佐藤テル子　指山歌子　指山浩子　柴田タツ子
　　柴田常人　島崎昭二　吉川春美　西尾タツヨ　堀ウメ子　堀川ヒロ子　松井フユ子
　　水野由美子　門司弘子　遠藤貞子　寺嶋道子

Fig. 11　第93次調査地点周辺図（1/2,000）

Ⅱ　調査の記録

概　要

今回の調査地点は「息の濱」とよばれる海側の地区に位置する。地山面である黄褐色砂層は調査区内ではほぼ平坦であり、北側への傾斜はみられない。

調査は試掘の成果から、地山の黄褐色砂層の上に約20～30㎝堆積する黄茶褐色砂質土の上面を第1面、地山の上面を第2面とすることとした。

重機により表土約2ｍを剥ぎ取った。その時点で東側に約13ｍ×9ｍ、西側に約7ｍ×6ｍの現代建物の地下室による攪乱が確認された。調査地はＬ字形をしており、排土の処理を考え、まず調査区西側の約2/3をＡ区として第1面、第2面の調査をおこなった。その間、調査区東側約1/3のＢ区は排土置き場として使用し、Ａ区調査終了後排土を搬出しＢ区の第1面、第2面の調査を行った。また、井戸はＡ区、Ｂ区両区とも第2面調査終了後掘削と図化作業をおこなった。

つまり作業は、Ａ区第1面→Ａ区第2面→Ａ区井戸→Ｂ区第1面→Ｂ区第2面→Ｂ区井戸→トレンチ調査の手順である。

今回の報告は調査の手順に従わず、Ａ区・Ｂ区の第1面検出遺構、Ａ区・Ｂ区の第2面検出遺構、第1面・第2面検出井戸の順序とする。

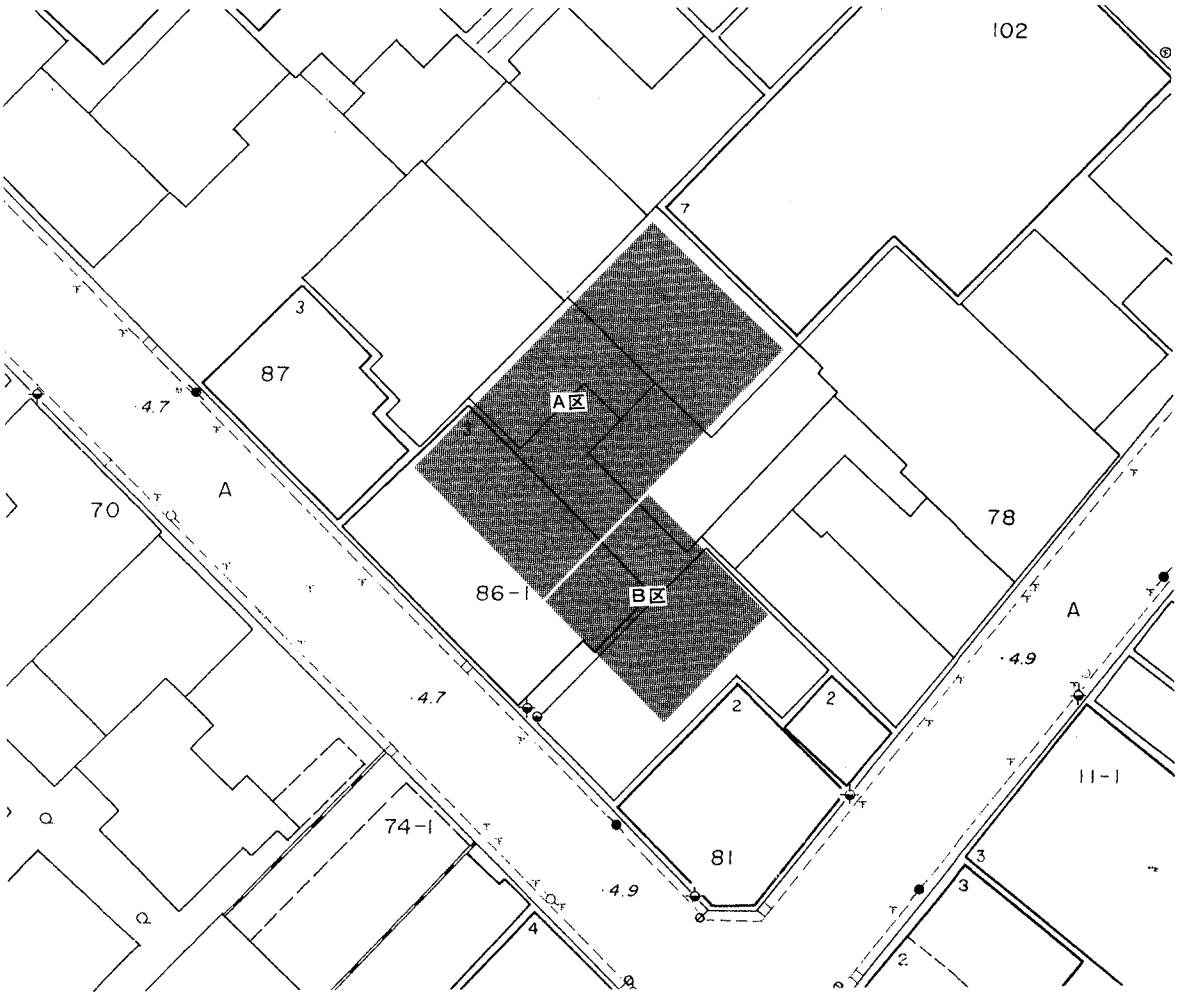


Fig. 12　第93次調査地点位置図（1/500）

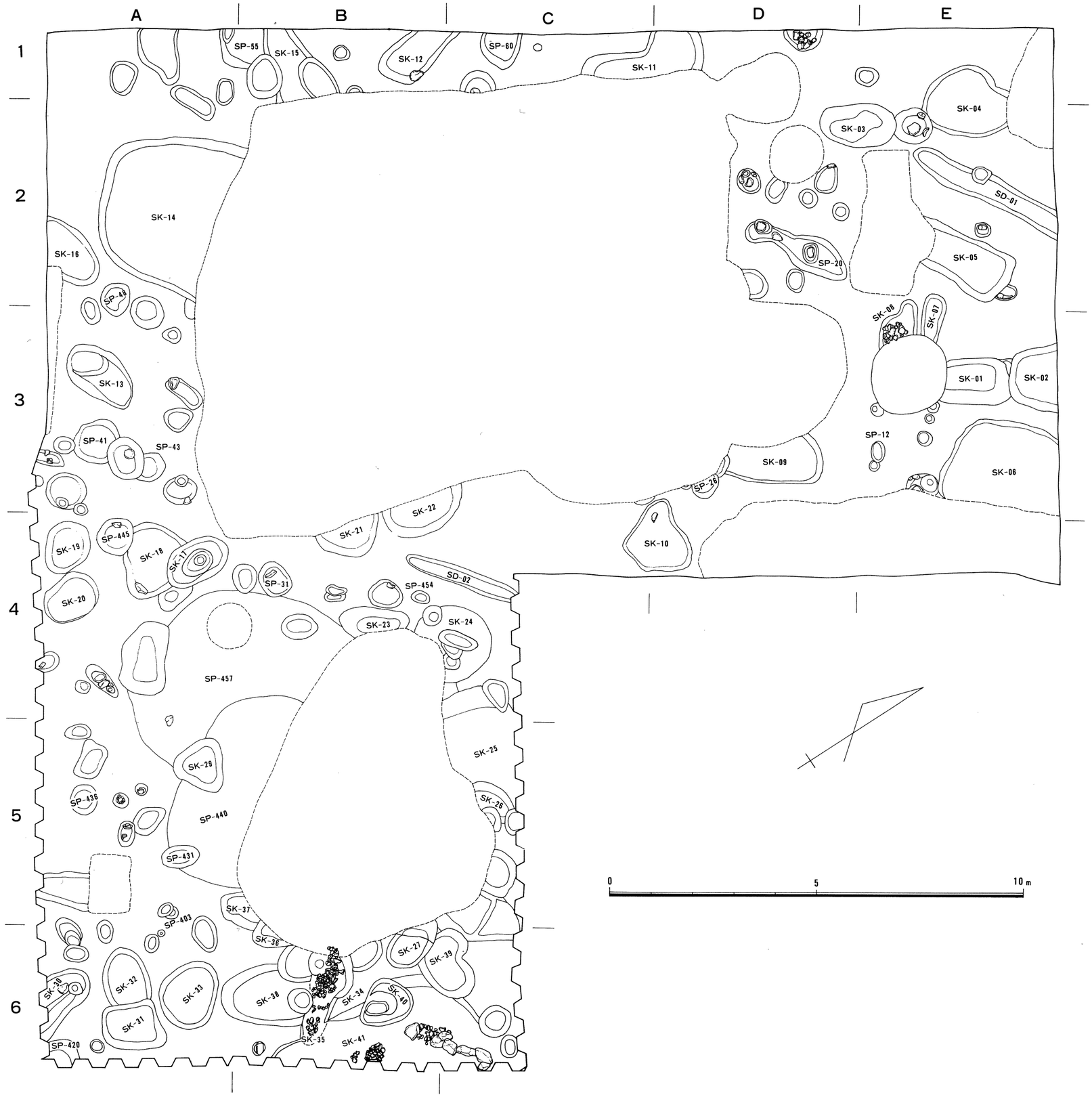


Fig. 13 第1面遺構配置図（1/100）

1　第１面の調査

(1)　土坑（ＳＫ）

ＳＫ－01（Fig. 14、ＰＬ. 5）

Ａ区北側にて検出された。北側はＳＫ－02に、南側は現代攪乱に切られる。短軸は1.1ｍ、深さ70㎝を測り、底面は平坦である。近世に属する遺構である。

出土遺物（Fig. 19）　**1**は唐津の水指である。

ＳＫ－02（Fig. 14、ＰＬ. 5）

ＳＫ－01の北側に位置し、遺構は北側調査区外へのびる。深さは80㎝を測り、底面は平坦である。遺構の時代は出土遺物から18世紀後半以降と思われる。

出土遺物（Fig. 19、46）　**2～9**は土師器小皿である。**10**は龍泉窯系青磁香炉、**11**は白磁碗、**12**は白磁壺、**13～19**、**22**は伊万里染付、**20**は染付碗、**21**は染付小碗である。**23～25**は鉄製品である。**23**は残存する長さは12.1㎝、幅1.7㎝、厚さ0.8㎝を測り、２本の突出部をもつ。**24**は残存長11.4㎝、幅1.4㎝、厚さ0.5㎝を測る。**25**は断面の長軸0.4㎝、短軸0.3㎝を測る。

ＳＫ－03（Fig. 14）

Ａ区北側に位置する。長軸は1.85ｍ、短軸1.05ｍを測り、平面は楕円形を呈する。底面は南側がやや低い。時代は遺物から18世紀後半以降と思われる。

出土遺物（Fig. 20）　**26**は土師器小皿である。**27～35**は染付である。**30**、**31**は伊万里のものである。

ＳＫ－04（Fig. 14）

Ａ区南側に位置し、北側を攪乱に切られる。短軸1.7ｍを測り、平面は不定形を呈する。遺構の時期は遺物から18世紀後半と思われる。

出土遺物（Fig. 20）　**38**、**39**は土師器の小皿であり、**38**は灯明皿として使用されたと思われ口唇部にススが付着している。**40**は土師器の坏である。**41**は白磁碗、**42～44**は染付で**42**、**43**は伊万里のものである。

ＳＫ－06（Fig. 14）

Ａ区北東隅に位置し、東側は攪乱に切られ、遺構は北側調査区外へのびる。深さは約10㎝を測り、底面は平坦である。遺構の時期は出土遺物から18世紀代のものである。

出土遺物（Fig. 20）　**45**は黒色土器Ｂの坏である。**46**、**47**は土師器の坏である。**48**は白磁の碗で九州産陶磁であろうか。

ＳＫ－07（Fig. 14）

Ａ区北側に位置し、南側は現代攪乱に切られる。短軸は約50㎝、深さは約10㎝を測り、床面は平坦である。

出土遺物（Fig. 20）　**49**は天目の碗である。

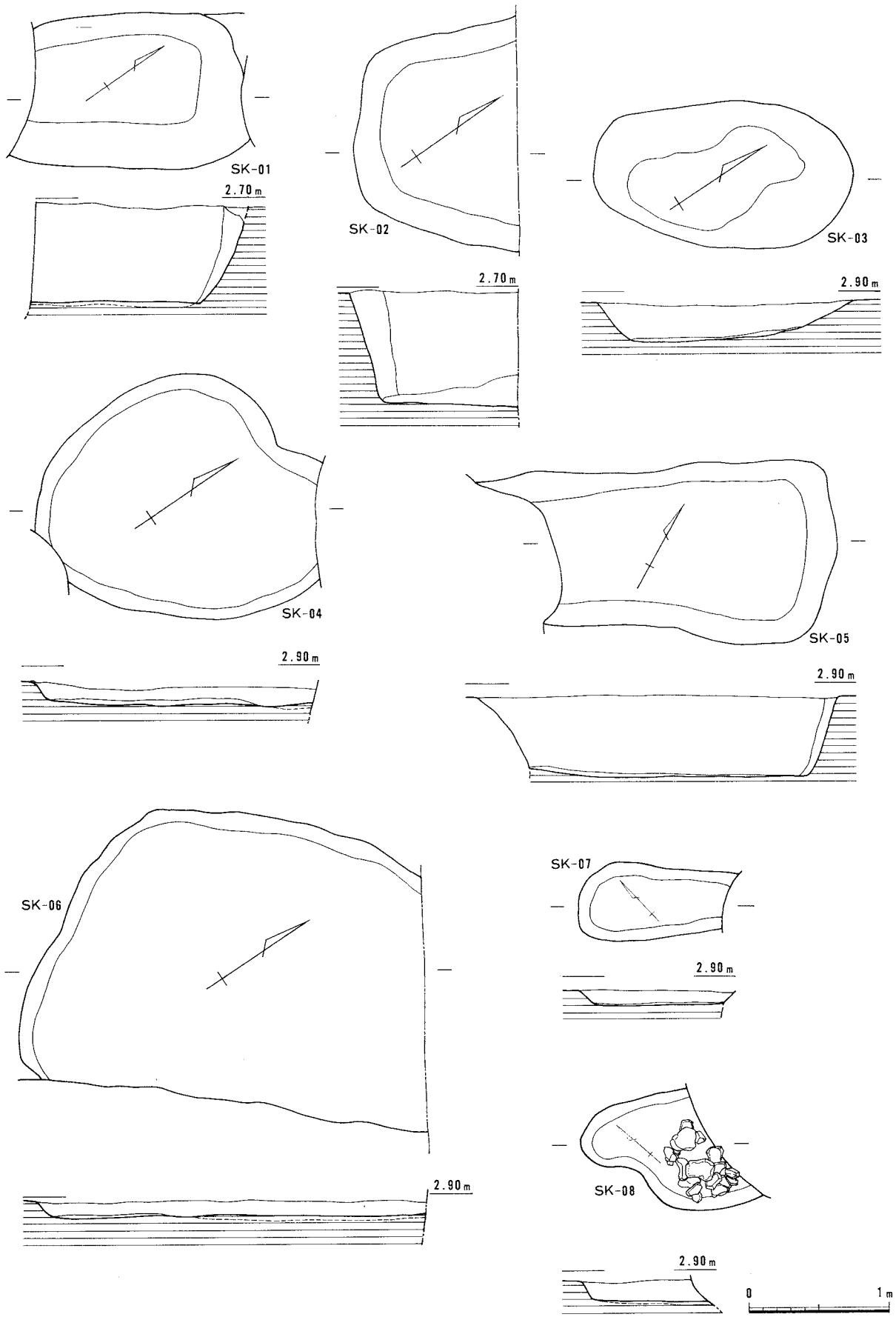


Fig. **14** ＳＫ－01～08実測図（1/40）

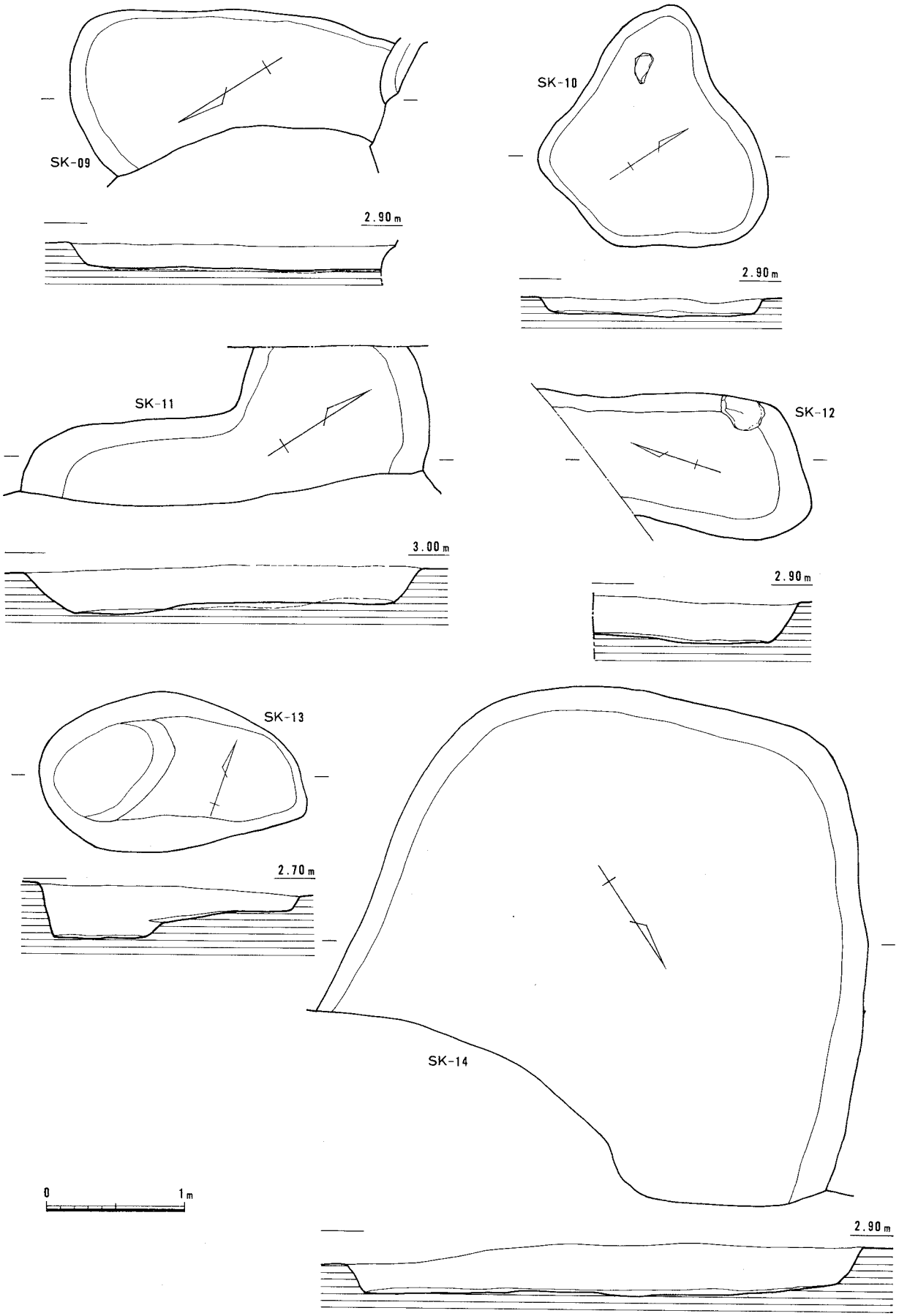


Fig. **15** ＳＫ－09～14実測図（1/40）

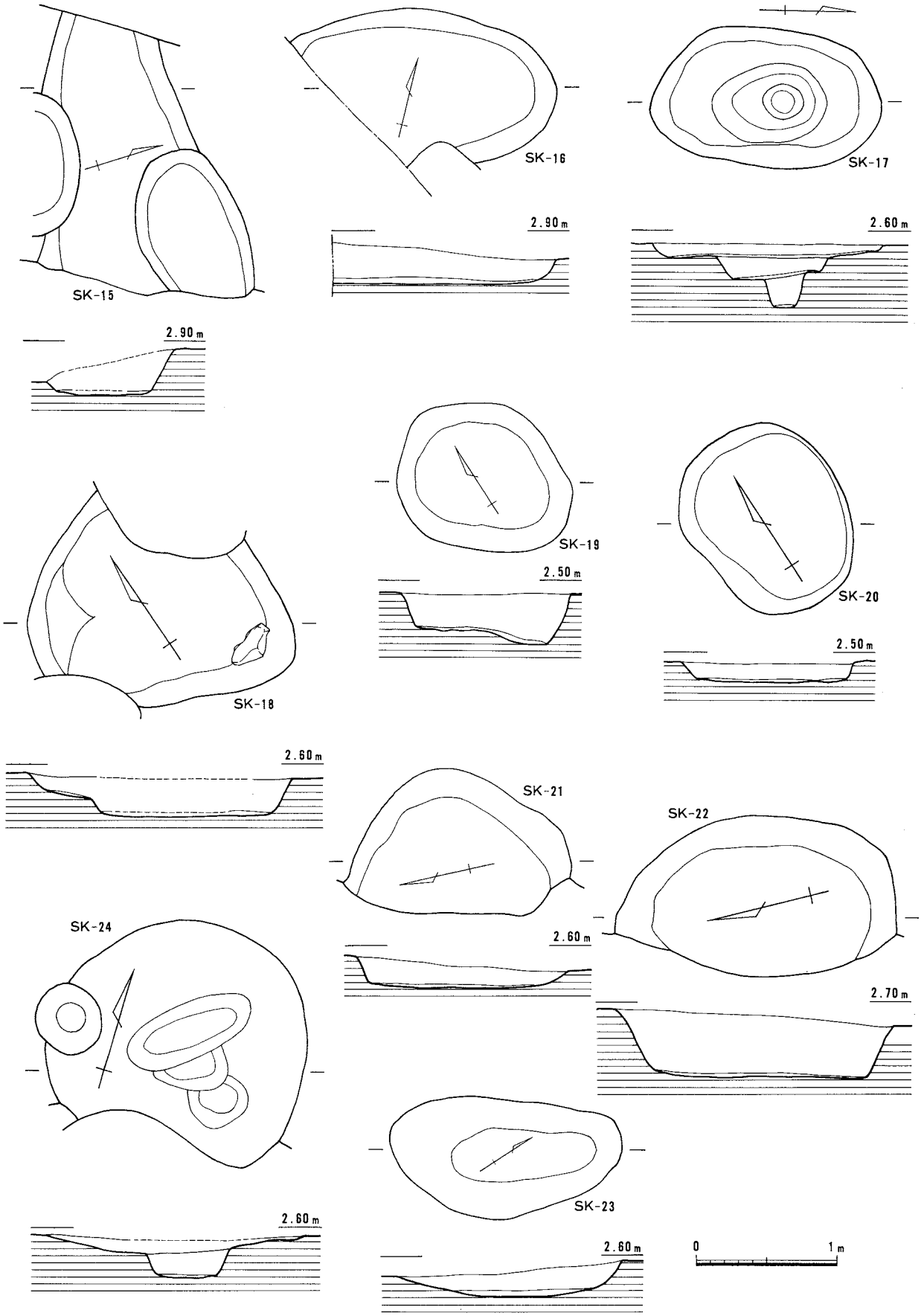


Fig. **16** ＳＫ－15～24実測図（1/40）

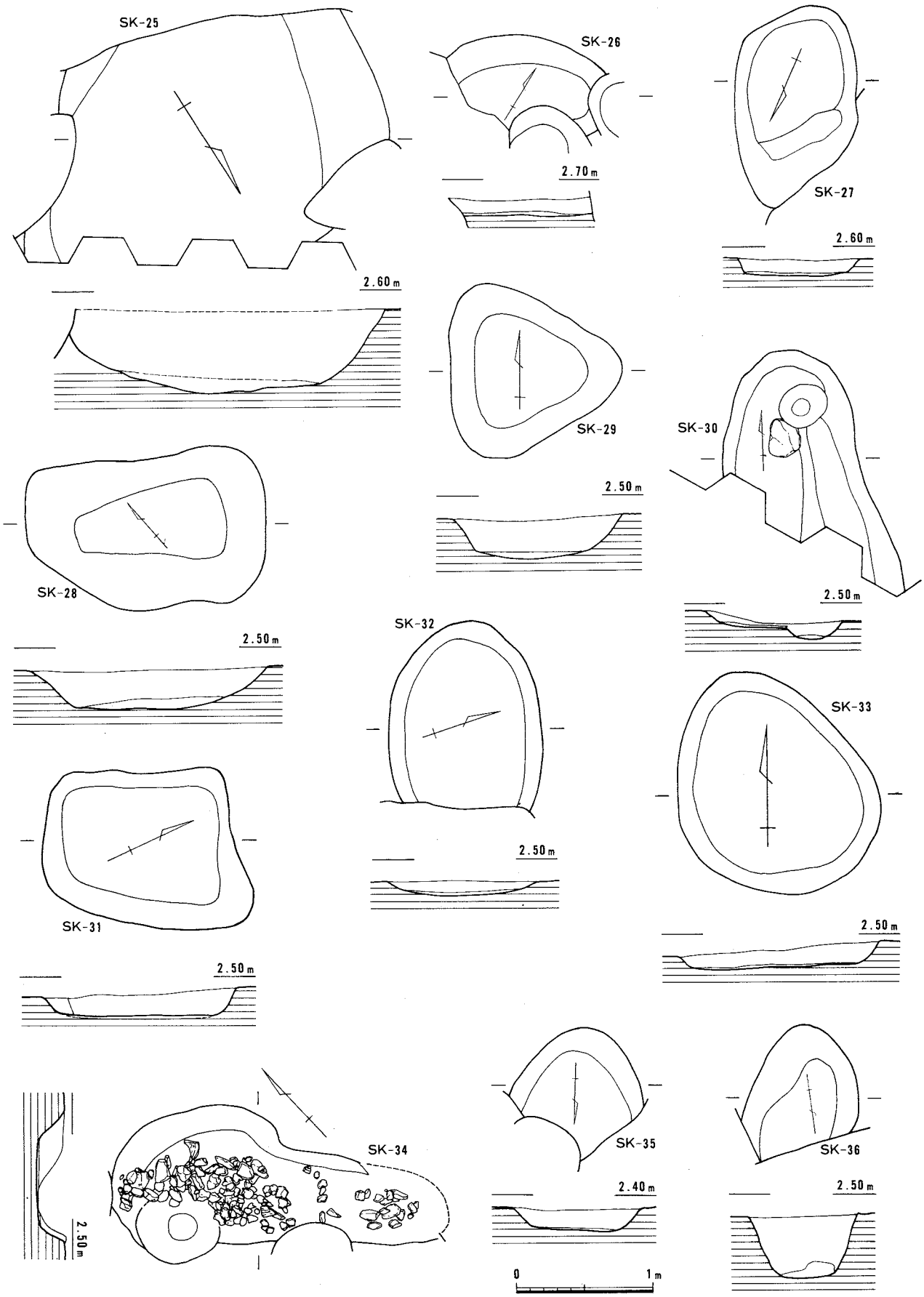


Fig. **17** ＳＫ－25～36実測図（1/40）

SK-37

2.50m

SK-38

2.50m

SK-39

2.50m

SK-40

2.60m

SK-41

SK-40

2.80m

SK-34

0 1m

Fig. **18** ＳＫ－37～41実測図（1/40）

Ph. **3**
ＳＫ－41側面
（北から）

ＳＫ－08（Ｆｉｇ．14）

ＳＫ－07の南西側に位置し、南側は攪乱に切られる。５㎝～20㎝の集石がみられる。

出土遺物（Ｆｉｇ．20）　**50**は土師器の坏である。

ＳＫ－09（Ｆｉｇ．15）

Ａ区北東部に位置し、西側は攪乱に切られる。平面形は不明である。深さは約17㎝を測り、底面は平坦である。

出土遺物（Ｆｉｇ．20）　**51**は鬼瓦の破片である。残存する幅は12.6㎝を測る。

ＳＫ－10（Ｆｉｇ．15）

Ａ区東側にて検出された。平面は長軸1.7ｍ、短軸1.6ｍの不定形を呈し、深さは約10㎝を測る。

出土遺物（Ｆｉｇ．20）　**52**は土師器の小皿、**53**は土師器の坏である。

ＳＫ－13（Ｆｉｇ．15）

Ａ区南側に位置する。長軸1.9ｍ、短軸1.1ｍを測り、底面は西側が約15㎝一段低くなっている。時期は14世紀代と考える。

出土遺物（Ｆｉｇ．20）　**54**、**55**は土師器の坏である。

ＳＫ－14（Ｆｉｇ．15）

Ａ区南側に位置する。北東側は攪乱に切られる。平面は不定形を呈し、深さは約35㎝を測る。時期は16世紀代と思われる。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**56**は土師器小皿である。**57**～**59**は土師器の坏である。坏口径の平均は13.2㎝である。**60**は陶磁器、**61**は石製品で球形を呈し、5.1㎝を測る。**62**は軒平瓦。**63**は飾りの瓦で、直径19.6㎝を測る。背面に吊すための取っ手が付き「須」の字と思われる。

ＳＫ－16（Ｆｉｇ．16）

Ａ区南側に位置する。遺構の西側は調査区外にのびる。底面はほぼ平坦である。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**64**は土師器小皿の転用と思われ、立ち上がりを打ち欠き円盤状を呈する。

ＳＫ－17（Ｆｉｇ．16）

Ａ区南側に位置する。平面は長軸1.65ｍ、短軸1.0ｍを測る長楕円形を呈する。底面は三段に落ちがあり、柱穴の可能性もある。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**65**は土師器小皿、**66**は土師器坏である。

ＳＫ－21（Ｆｉｇ．16）

Ａ区東側に位置し、西側は攪乱に切られる。平面形は不明であるが、底面は平坦である。遺構の時期は出土遺物から14世紀代と考えられる。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**67**は土師器小皿であり、口縁部の内外のにススがみられる。**68**～**73**は土師器坏である。坏口径の平均は13.0㎝を測る。**72**、**73**の口縁部にはススの付着がみられる。

ＳＫ－22（Ｆｉｇ．16）

ＳＫ－21の南側に位置し、西側は攪乱に切られる。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**74**は土師器小皿。**75**は土師器坏である。

ＳＫ－24（Ｆｉｇ．16）

Ｂ区北側に位置する。南側を攪乱に切られる。平面は径約1.8ｍの円形を呈すると思われる。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**76**はベトナム産の白磁碗である。

ＳＫ－25（Ｆｉｇ．17）

Ｂ区北側に位置する。南西側は攪乱に切られ、北東は調査区外へのびる。底面は中央部がやや低い。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**77**は土師器小皿、**78**は土師器坏である。

ＳＫ－31（Ｆｉｇ．17）

Ｂ区南側に位置し、長軸1.4ｍ、短軸1.1ｍを測る隅丸長方形を呈する。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**79**、**80**は土師器小皿、**81**は土師器坏である。

ＳＫ－33（Ｆｉｇ．17）

Ｂ区南側に位置する。長軸1.7ｍ、短軸1.4ｍの不定形を呈する。遺構の年代は出土遺物から14世紀と思われる。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**82**～**85**は土師器の坏である。坏口径は13.0～10.2㎝を測る。**85**は坏ｂである。**86**は瓦質の煮沸器である。

ＳＫ－34（Ｆｉｇ．17、46、ＰＬ．5）

Ｂ区南東部に位置する。長軸2.5ｍを測り、溝状を呈する。底面には５㎝～15㎝の集石がみられる。

出土遺物（Ｆｉｇ．21）　**87**は白磁碗のⅣ類。**88**は褐釉陶器。**89**は青白磁合子の身。

ＳＫ－36（Ｆｉｇ．17）

Ｂ区南側に位置し、北側は攪乱に切られる。平面形は不明である。深さは45㎝を測る。遺構の時代は遺物から16世紀代と考える。

出土遺物（Ｆｉｇ．22）　**90**は土師器の鍋である。

ＳＫ－37（Ｆｉｇ．18）

Ｂ区東側に位置し、ＳＫ－36、攪乱に切られる。平面形は不明である。深さは30㎝を測る。

出土遺物（Ｆｉｇ．22）　**91**は土師器小皿。**92**～**94**は同安窯系青磁碗のⅡ類である。

ＳＫ－38（Ｆｉｇ．18）

Ｂ区南側に位置する。ＳＫ－33、34に切られる。底面は中央部がやや深い。

出土遺物（Ｆｉｇ．22）　**95**は土師器小皿。**96**～**98**は龍泉窯系青磁碗であり、**96**、**97**、**98**はⅠ類である。**99**は同安窯系青磁の碗Ⅱ類、**100**は同安窯系青磁Ⅱ類の平底皿。**101**は白磁壺。**102**は陶器Ｂ群の長壷、**103**は陶器の鉢である。

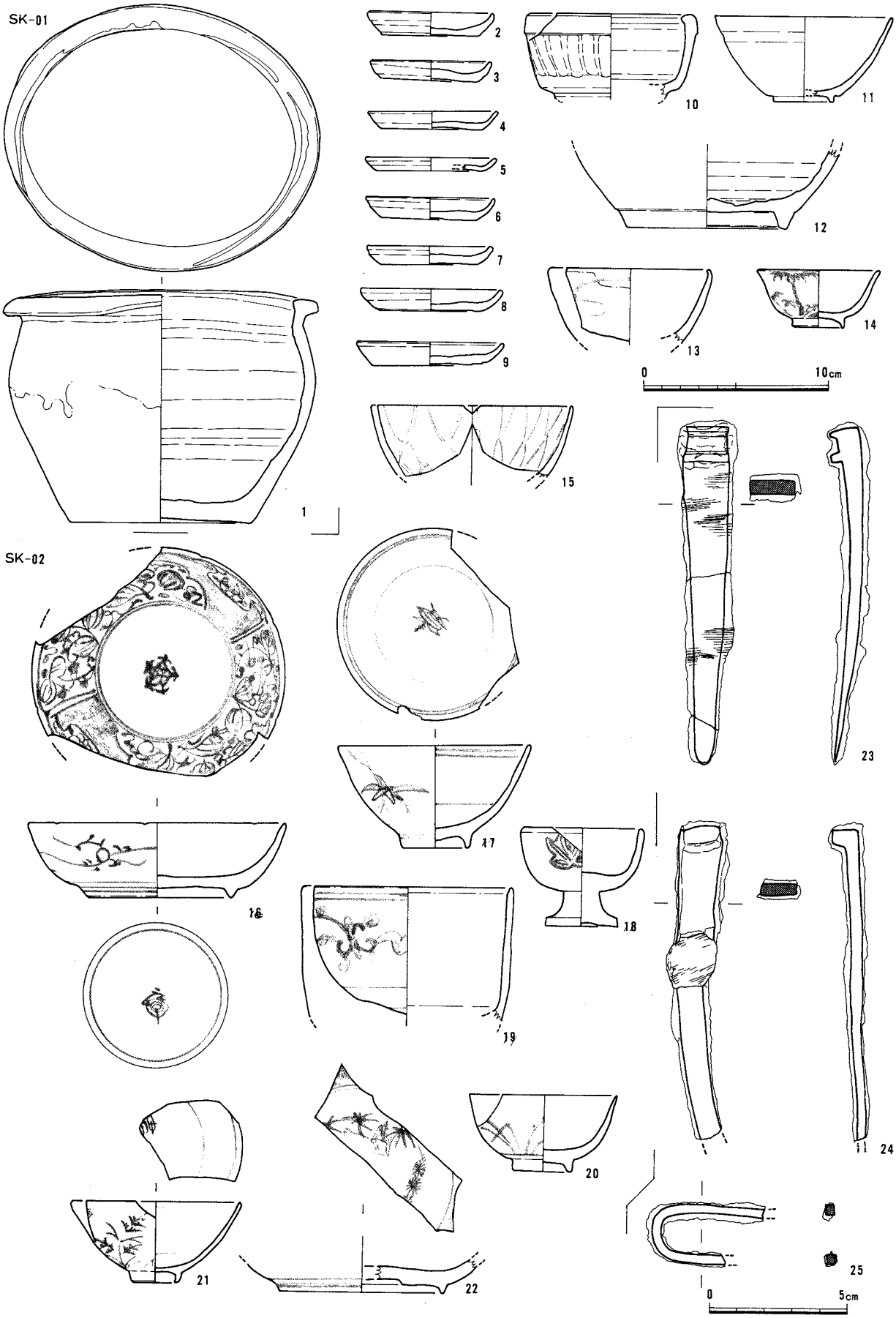


Fig. **19**　ＳＫ－01～02出土遺物実測図（1/2・1/3）

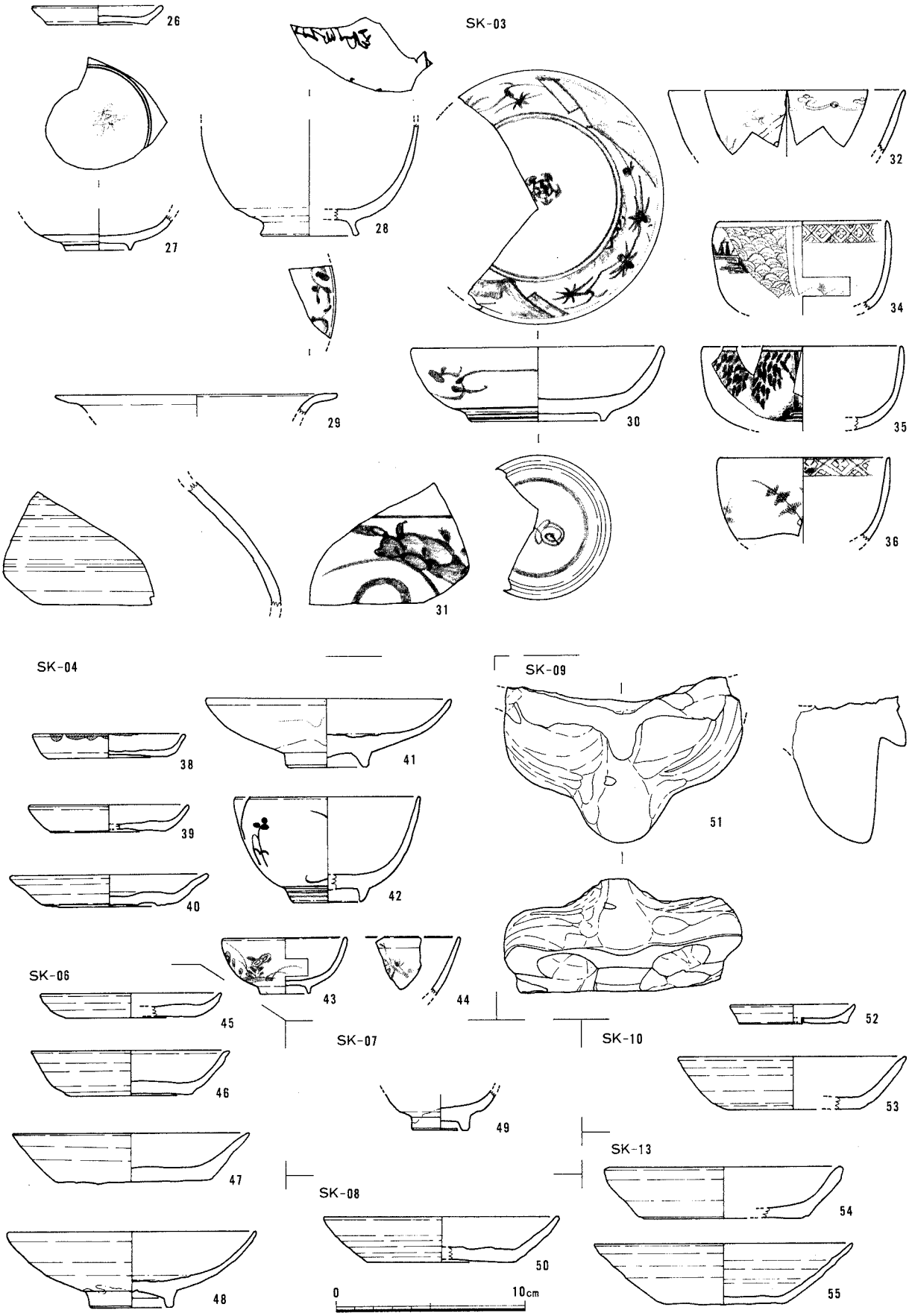


Fig. **20** ＳＫ－03～13出土遺物実測図（1/3）

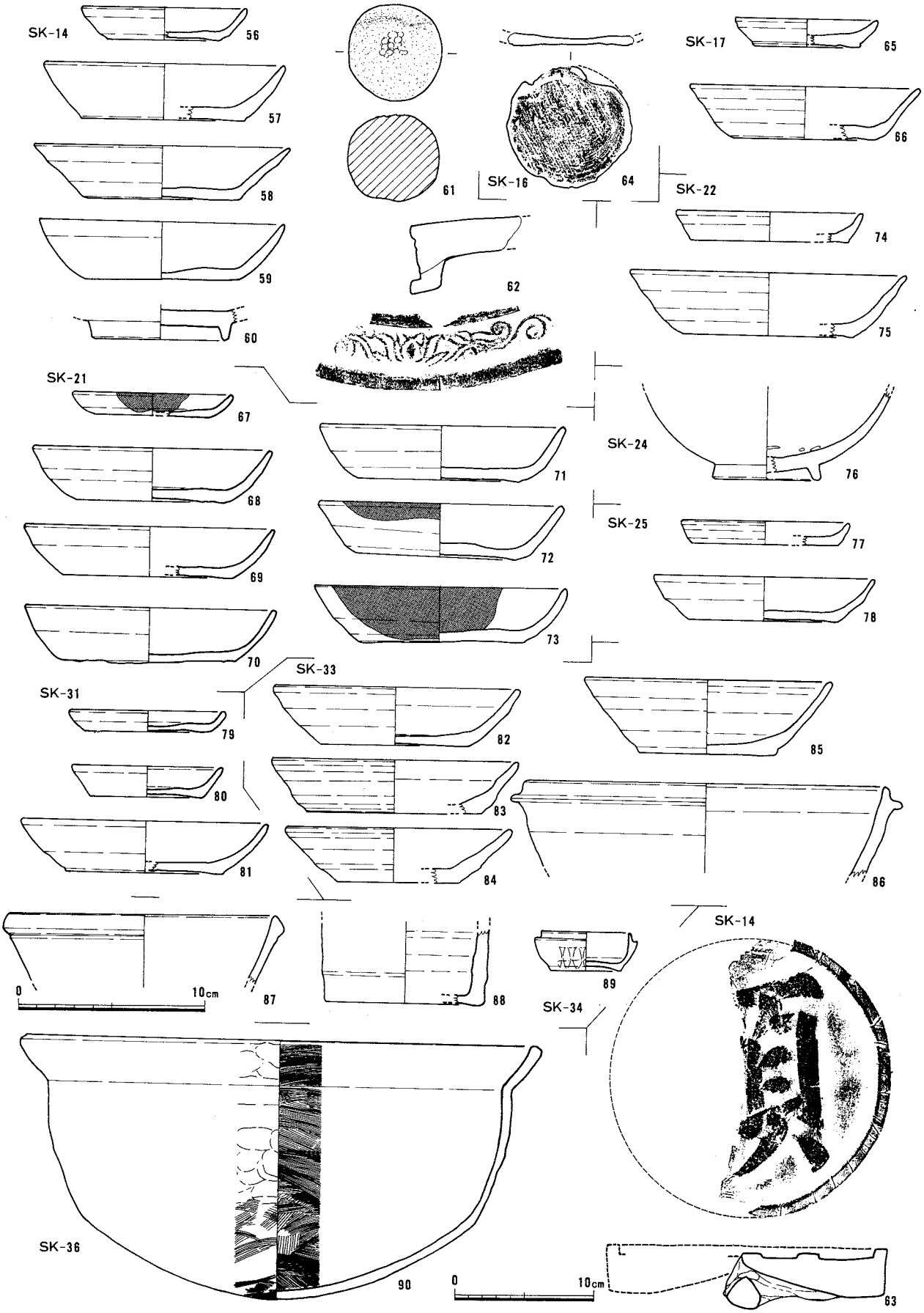


Fig. **21** ＳＫ－14～36出土遺物実測図（1/3・1/4）

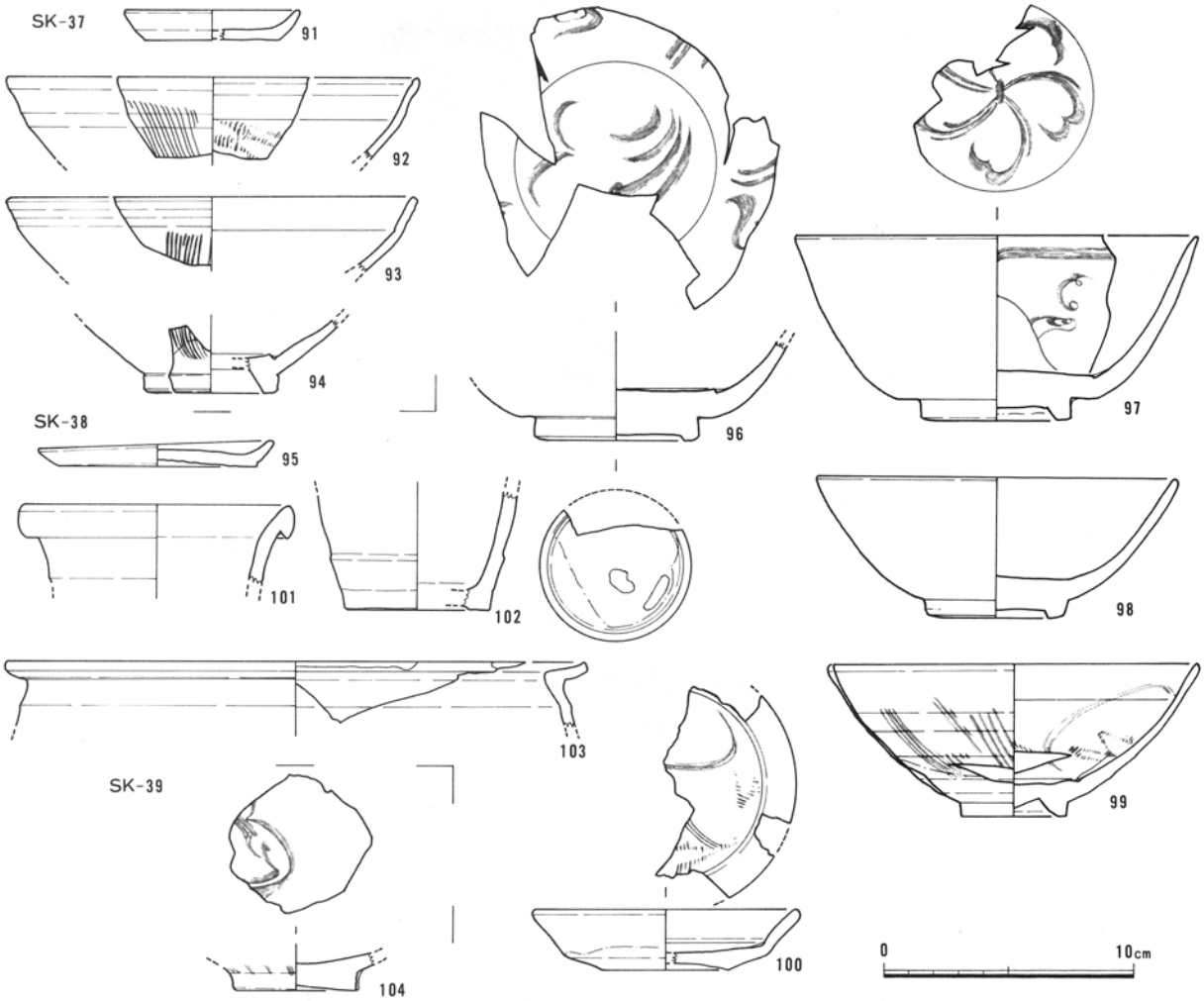


Fig. **22**　ＳＫ－37～39出土遺物実測図（1/3）

Ph. **4**
ＳＫ－03遺物出土状況
（南東から）

ＳＫ－39（Ｆig. 18）

Ｂ区東側に位置する。平面は不定形を呈し、深さは約15㎝を測る。

出土遺物（Ｆig. 22、46）　**104**は青白磁の碗である。

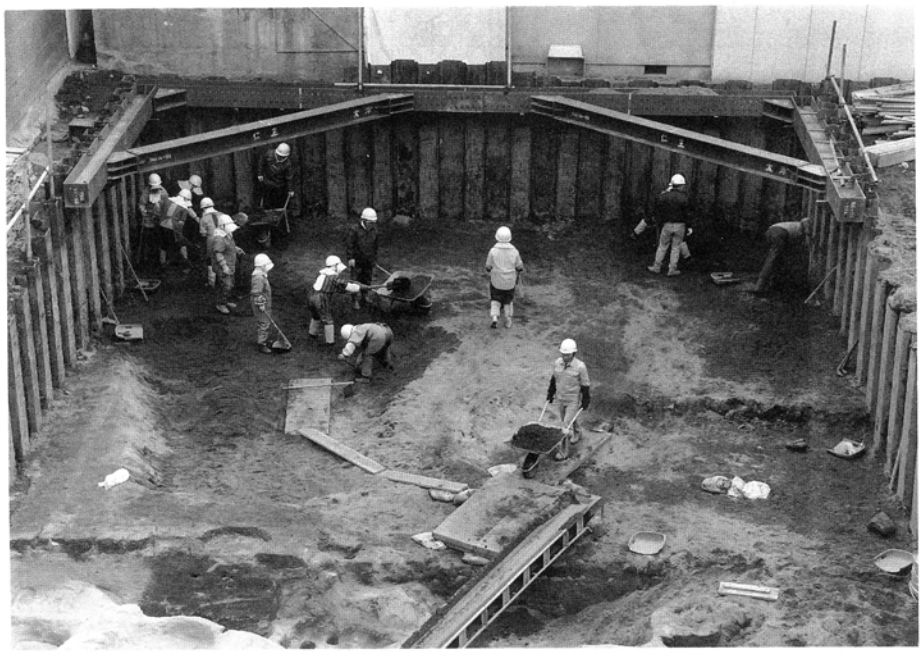
ＳＫ－41（Ｆig. 18）

Ｂ区南東隅にて検出された。遺構は南東側の調査区外にひろがる。積石列と集石がみられる遺構である。その規模と性格は不明である。

(2) 柱穴（ＳＰ）

出土遺物

（Ｆig. 23）　**105**はＳＰ－12出土の土師器の小皿である。**106**はＳＰ－20出土の土師器の坏である。**107**、**108**はＳＰ－26出土の土師器小皿と朝鮮半島製の壷である。遺物の時代は17世紀前半頃である。**109**、**110**はＳＰ－31出土の土師器小皿と李朝の碗である。**111**～**113**はＳＰ－41から出土した。**111**、**112**は土師器小皿、**113**は瓦質の蓋である。**114**はＳＰ－43からのもので黒褐釉の小壺である。**115**はＳＰ－48出土の中国製陶器の破片である。**116**～**119**はＳＰ－55出土遺物である。**116**～**118**は土師器の小皿である。**119**は土師器の坏で内外面に墨書がみられる。内面は解読できないが、外面には“鶴松”の字がみられる。祭祀に用いられた遺物である可能性が強い。時代は近世に属すると思われる。**120**～**122**はＳＰ－60から出土した。**120**は陶器Ａ群の鉢である。**121**、**122**は染付の碗である。**123**～**127**はＳＰ－403の遺物である。**123**は土師器の坏である。**124**は同安窯系青磁Ｉ類の平底皿。**125**、**126**は青磁の碗である。**127**は瓦質の擂鉢である。遺物の時代は15世紀代であろう。**128**はＳＰ－413出土の陶器Ａ群の壷である。**129**はＳＰ－420から出土した土師器小皿である。**130**はＳＰ－431、**131**はＳＰ－436出土の土師器小皿である。



Ph. 5
Ｂ区第１面
遺構検出作業風景

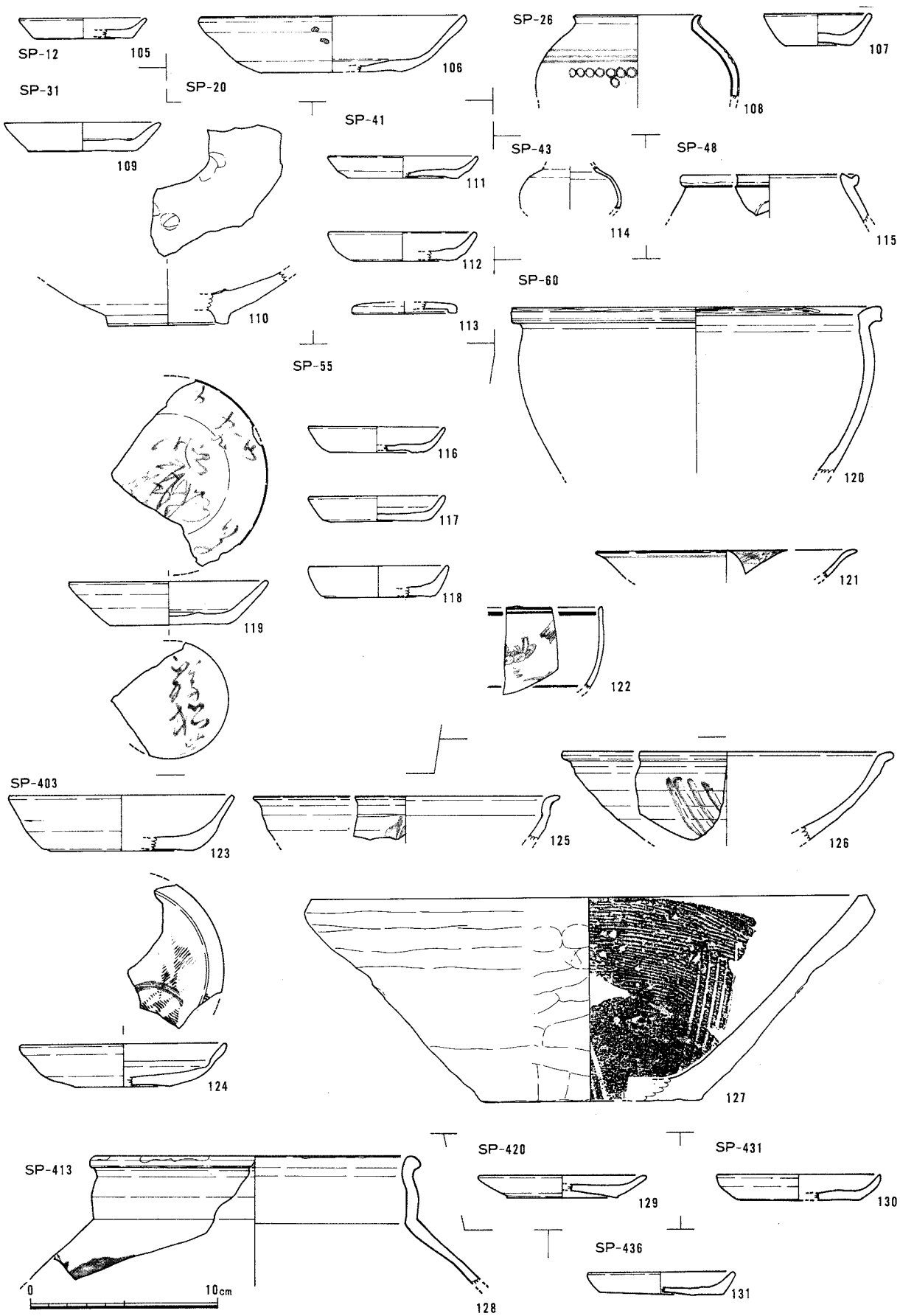


Fig. **23** ＳＰ－12～60、403～436出土遺物実測図（1/3）

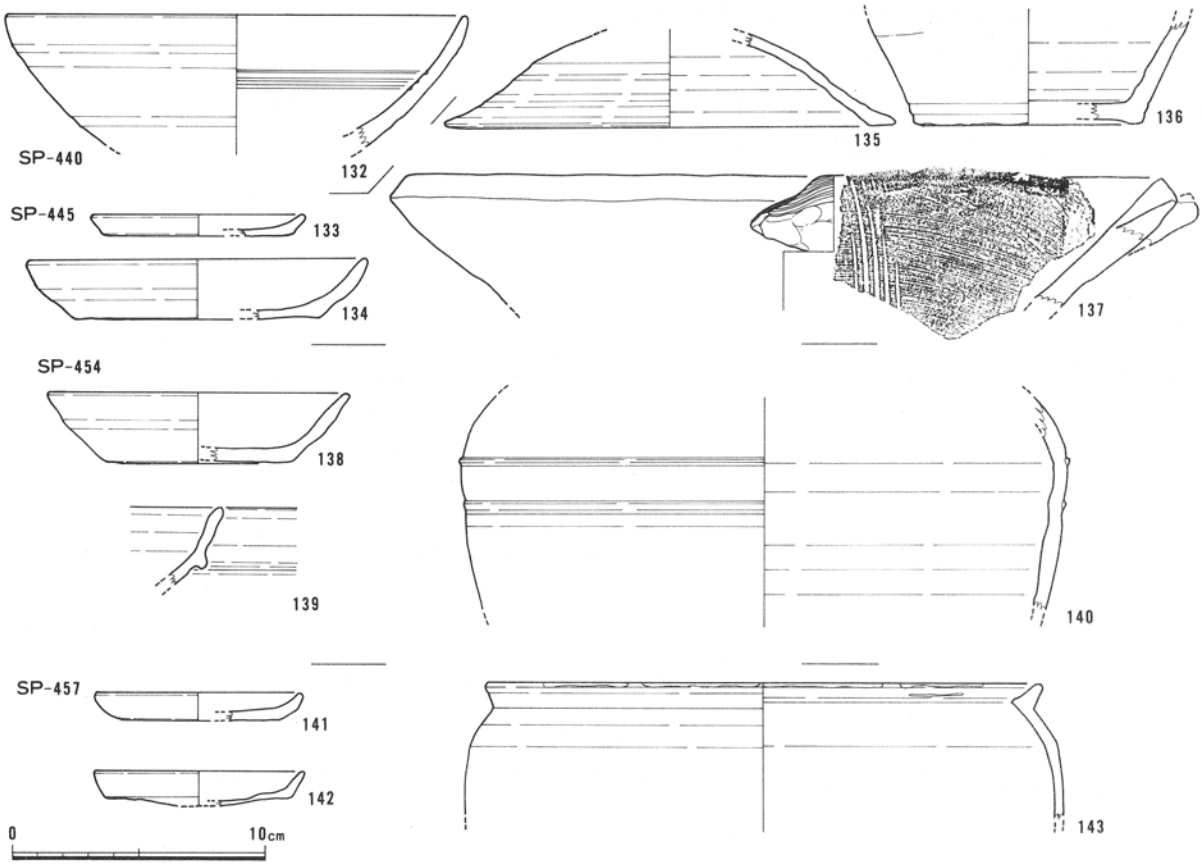
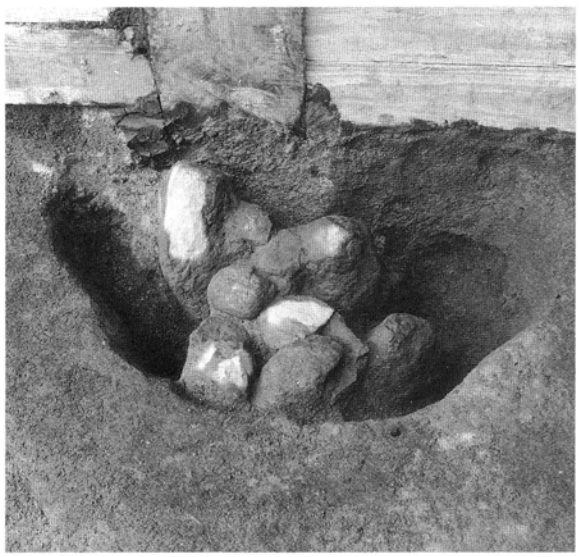
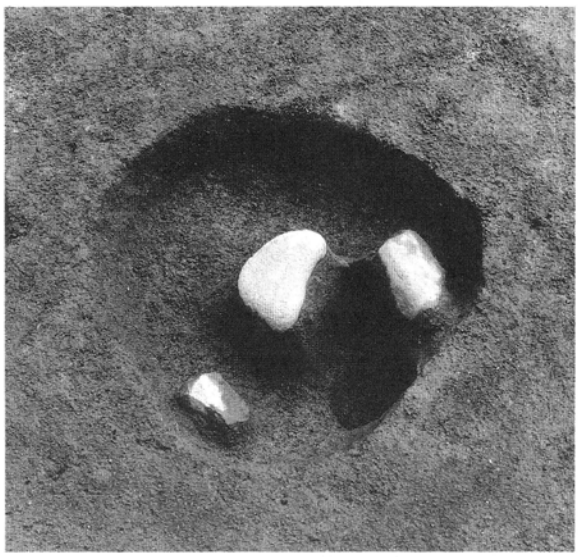


Fig. **24**　ＳＰ－440～457出土遺物実測図（1/3）



Ph. **6**　ＳＰ－06検出状況（南東から）



Ph. **7**　ＳＰ－18検出状況（西から）

（Fig. 24）　**132**はＳＰ－440出土の李朝の碗である。**133**～**137**はＳＰ－445から出土した。**133**は土師器小皿、**134**は土師器の坏である。**135**、**136**は陶器Ａ群の蓋と軍持である。**137**は瓦質の擂鉢である。**138**～**140**はＳＰ－454出土遺物である。**138**は土師器の坏で、口唇部にススの付着がみられる。**139**、**140**は陶器の鉢と壷である。**141**～**143**はＳＰ－457出土である。**141**、**142**は土師器小皿、**143**は陶器Ｂ群の鉢である。　　銅銭出土（Fig. 46）

2　第２面の調査

(1)　土坑（ＳＫ）

ＳＫ－47（Fig. 26）

Ａ区北側に位置する。長軸1.25ｍ、短軸70㎝、深さ約50㎝を測る。

出土遺物（Fig. 32）　**144**、**145**は土師器の小皿。**146**は土師器の坏である。

ＳＫ－53（Fig. 26）

Ａ区北側に位置する。長軸2.2ｍ、短軸1.4ｍを測る。底面は北側が一段落ちて、約35㎝低くなっている。

出土遺物（Fig. 32）　**147**、**148**は土師器の小皿である。**149**は天目の碗である。**150**は伊万里の皿、**151**は染付の碗である。

ＳＫ－54（Fig. 26）

Ａ区北側に位置し、ＳＫ－53に切られる。深さは約70㎝を測る。

出土遺物（Fig. 32）　**152**は土師器の坏である。

ＳＫ－56（Fig. 27）

Ａ区北側に位置し、ＳＫ－57に切られ、南西側を攪乱に切られる。平面は不定形を呈し、東側に径約50㎝のピットがみられる。遺構の時代は出土遺物から17世紀初頭頃と考えられる。

出土遺物（Fig. 32）　**153**、**154**は土師器の小皿と坏である。**155**は明代染付、**156**は青磁の大鉢である。

ＳＫ－66（Fig. 27）

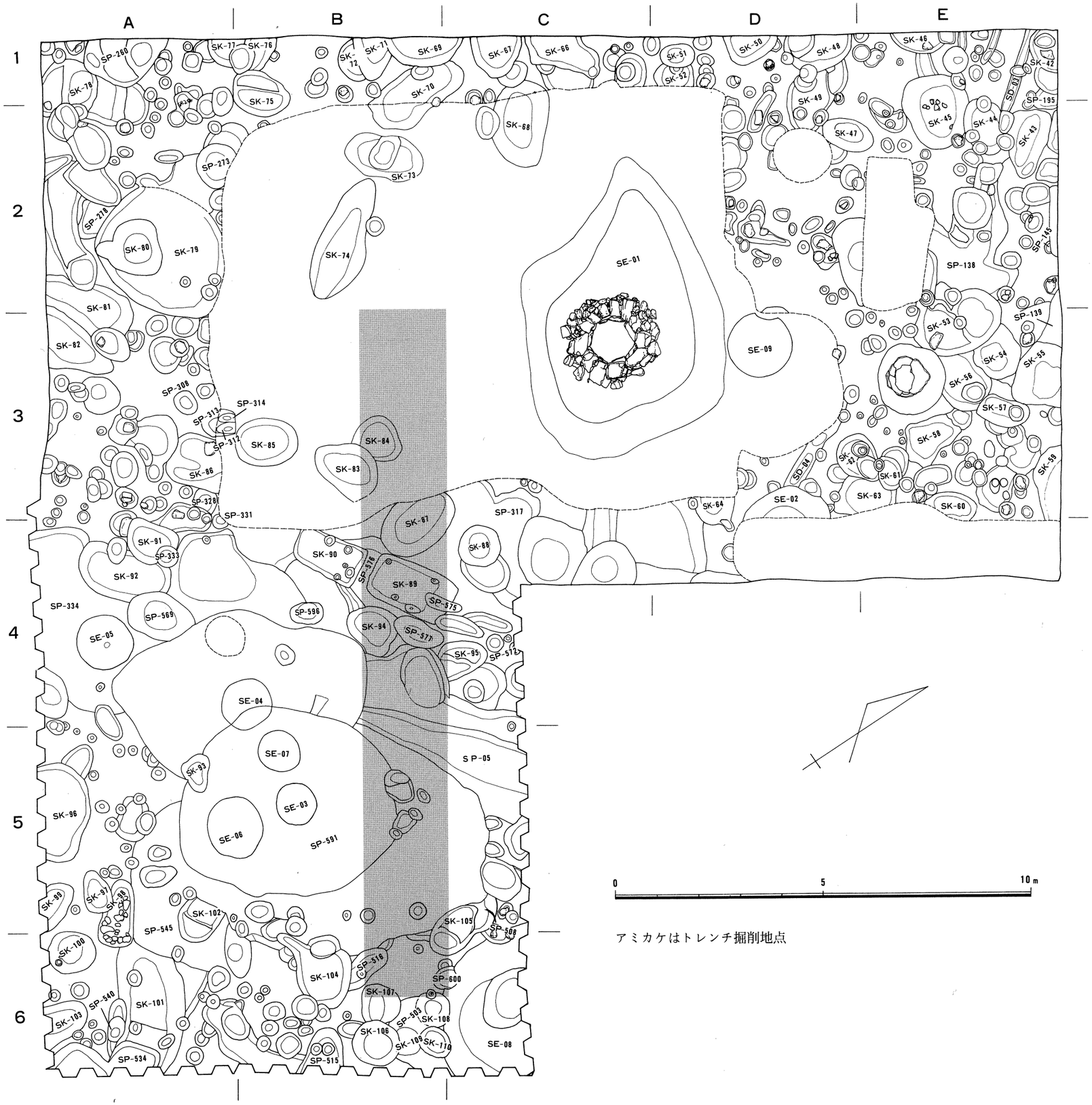
Ａ区西側調査区端に位置する。遺構の北西側は調査区外へのびる。平面形は不定形を呈する。

出土遺物（Fig. 33）　**157**、**158**は土師器の小皿である。

ＳＫ－67（Fig. 27）

Ａ区西側調査区端に位置する。遺構の北西側は調査区外へのびる。深さは約60㎝を測り、底面は中央部がやや低くなる。

出土遺物（Fig. 33）　**159**は土錘である。残存する長さは5.1㎝、断面直径は2.0㎝を測り、穴の直径は0.7㎝を測る。



アミカケはトレンチ掘削地点

Fig. **25** 第２面遺構配置図（1/100）

ＳＫ－68（Fig. 28）

Ａ区西側に位置し、長軸2.1m、短軸1.3mの長楕円形を呈する。遺構の南東側は攪乱に削られる。遺構の時期は14世紀後半ごろと考えられる。

出土遺物（Fig. 33）　**160**、**161**は土師器の小皿である。**162**～**171**は土師器の坏である。**172**は不明滑石製品である。残存する長軸は12.8cm、短軸は8.2cm、厚さ0.9cmを測る。

ＳＫ－70（Fig. 28）

Ａ区西側に位置し、ＳＫ－69に切られる。長軸2.4m、短軸1.0mを測る。

出土遺物（Fig. 33）　**173**、**174**は土師器の小皿と坏である。

ＳＫ－78（Fig. 28）

Ａ区西側隅に位置する。長軸2.6mを測り、底面は中央部に向けて階段状に段をもつ。

出土遺物（Fig. 33）　**175**は土師器の小皿。**176**は陶器皿である。

ＳＫ－79（Fig. 29、ＰＬ. 6）

Ａ区南西側に位置しＳＫ－80に切られる。長軸3.5m、短軸2.9mの不整楕円形を呈する。遺構の時期は13～14世紀ごろと思われる。

出土遺物（Fig. 33）　**177**は土師器の小皿、**178**、**179**は土師器の坏である。**180**は陶器Ｂ群の四耳壷である。

ＳＫ－85（Fig. 29）

Ａ区南側に位置し、長軸1.5m、短軸1.15mの楕円形を呈する。

出土遺物（Fig. 33）　**181**は同安窯系青磁Ⅱ類の碗である。**182**は白磁Ⅵ類の碗である。**183**、**184**は陶器の壷と陶器Ａ群の盤である。

ＳＫ－87（Fig. 30）

Ａ区南側に位置する。長軸1.95m、短軸1.3mを測り、平面は楕円形を呈する。

出土遺物（Fig. 33）　**185**は土師器の小皿。**186**は龍泉窯系青磁のⅢ類の坏である。

ＳＫ－89（Fig. 30、ＰＬ. 6）

Ａ区南東側に位置し、ＳＫ－90と長軸の方向をあわせる。長軸の方位はN－60°－Ｅをとる。長軸2.05m、短軸1.2mを測り平面は隅丸長方形を呈する。墓壙の形態をもつが鉄釘など、遺物はみられない。

ＳＫ－90（Fig. 30、ＰＬ. 6）

Ａ区南東側に位置し、長軸の方位はN－60°－Ｅをとる。長軸1.7m、短軸90cmを測る。ＳＫ－89と同じ性格が考えられるが、遺物は出土していない。

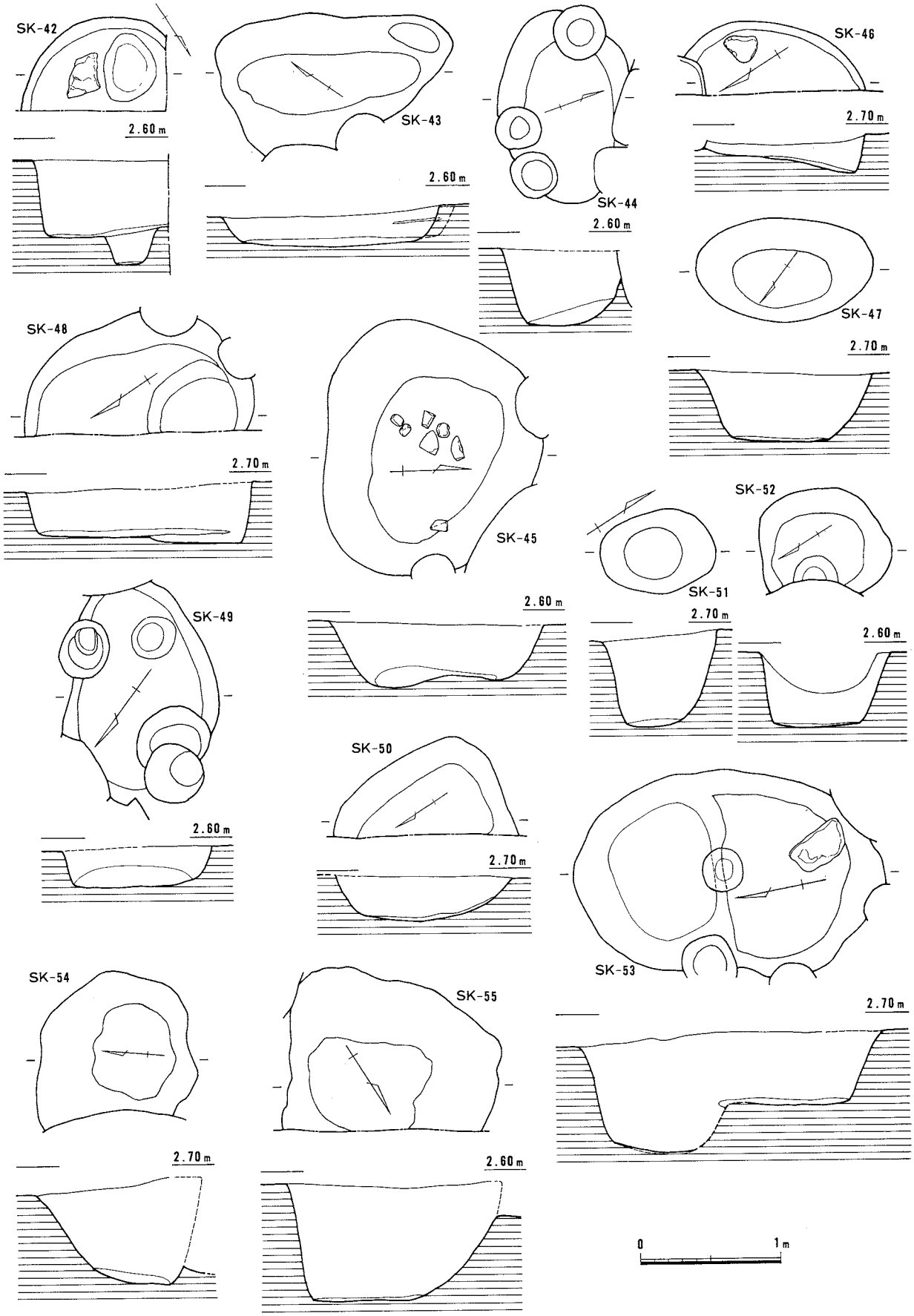


Fig. **26** ＳＫ－42～55実測図（1/40）

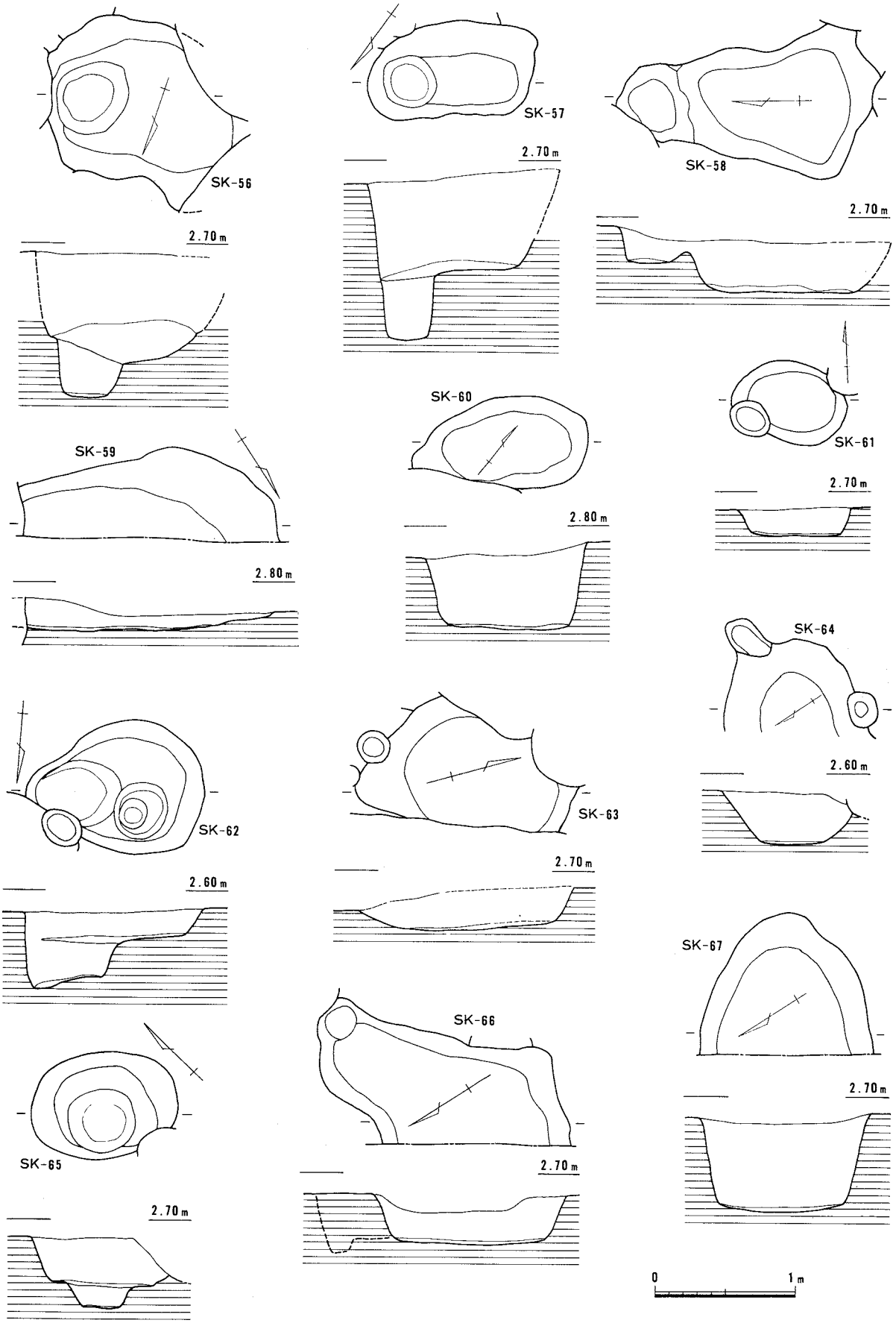


Fig. **27** ＳＫ－56～67実測図（1/40）

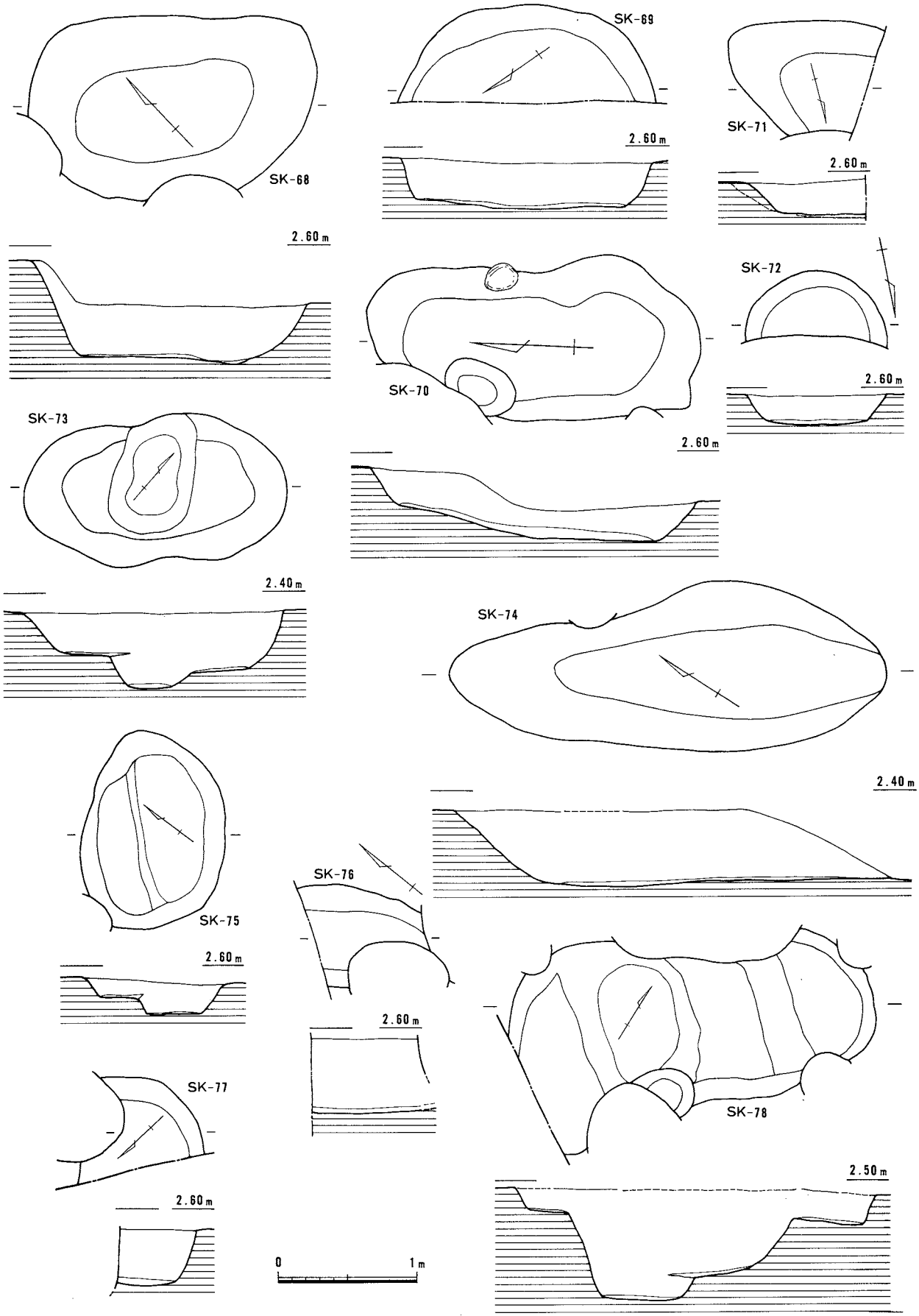


Fig. **28** ＳＫ－68～78実測図（1/40）

ＳＫ－91（Ｆig. 30）

Ａ区南側に位置し、ＳＫ－92を切る。長軸1.25m、短軸95cmの不定形を呈する。遺構の時代は14世紀前半と考える。

出土遺物（Ｆig. 33）　**187**、**188**は土師器の小皿である。**187**の口縁端部にススの付着がみられる。**189**～**192**は土師器の坏である。**191**の外面にススの付着がみられる。**193**は天目碗である。**194**は龍泉窯系青磁の碗である。

ＳＫ－95（Ｆig. 30）

Ｂ区北側に位置する。南側は攪乱に切られる。

出土遺物（Ｆig.34）　**195**は青磁の碗である。

ＳＫ－96（Ｆig. 30）

Ｂ区西側端に位置する。遺構の南側は調査区外へのびる。深さは約50cmを測り、底面は平坦である。

出土遺物（Ｆig. 34）　**196**は同安窯系青磁Ⅱ類の碗である。**197**は羽口であり、火を受けて外面の器壁の一部は黒色化している。残存する長さは10.4cm、直径7.4cm、穴の直径は3.8cmを測る。

ＳＫ－98（Ｆig. 31、ＰＬ. 6）

Ｂ区南側に位置し、ＳＫ－101を切り、ＳＫ－97に切られる。長軸1.6m、短軸85cmを測り、底面にて焼土塊がみられた。遺構の時期は13～14世紀と思われる。

出土遺物（Ｆig. 34）　**198**～**200**は土師器の坏である。

ＳＫ－100（Ｆig. 31、ＰＬ. 6）

Ｂ区南側に位置する。平面は径約1.1mの円形を呈し、深さは40cmを測る。遺構の時期は出土遺物から14世紀代と思われる。

出土遺物（Ｆig. 34）　**201**は土師器の小皿。**202**～**204**は土師器の坏である。

ＳＫ－101（Ｆig. 31）

Ｂ区南端に位置する。幅は1.6mを測る溝状を呈する。

出土遺物（Ｆig. 34）　**205**は鉄製の刀子である。残存する長さは10.4cm、幅1.6cm、最大厚さ0.3cmを測る。

ＳＫ－103（Ｆig. 31）

Ｂ区南端に位置する。深さは35cmを測る。

出土遺物（Ｆig. 34）　**206**は土師器の小皿である。

ＳＫ－104（Ｆig. 31）

Ｂ区東側に位置し、複数の柱穴に切られる。平面は長軸1.5m、短軸1.3mの楕円形を呈する。遺構の時期は14～15世紀と思われる。

出土遺物（Ｆig. 34）　**207**～**215**は土師器の小皿である。**216**～**226**は土師器の坏である。**220**は口縁部の内外面に、**223**は外面器壁にススの付着がみられる。**227**は口縁の端部が口禿になっている白磁

の杯である。**228**は青白磁の蓋である。**229**は龍泉窯系青磁Ⅰ類の碗である。

ＳＫ－105（Fig. 31）

Ｂ区東側に位置する。平面は長軸1.4m、短軸90cmを測る不定形を呈する。底面の南側は一段落ちて約25cm低くなっている。

出土遺物（Fig. 34）　**230**は同安窯素青磁の平底皿Ⅰ類である。

ＳＫ－106（Fig. 31）

Ｂ区南東側に位置する。平面は径約1.1mの円形を呈する。遺構の時期は出土遺物から14世紀代と思われる。

出土遺物（Fig. 34）　**231**、**232**は土師器の小皿。**233**は土師器の坏である。

ＳＫ－107（Fig. 31）

Ｂ区南東側に位置する。南東部はＳＫ－106に切られる。

出土遺物（Fig. 34）　**234**は土師器の坏である。

ＳＫ－109（Fig. 31）

Ｂ区南東部に位置する。南西側はＳＫ－106に切られる。

出土遺物（Fig. 34）　**235**、**236**は土師器の坏である。**235**の内面にススの付着がみられる。

ＳＫ－110（Fig. 31、ＰＬ. 6）

Ｂ区南東部に位置する。長軸90cm、短軸70cmの楕円形を呈する。深さは70cmを測り、底面は平坦である。

出土遺物（Fig. 46）　**銅銭出土**

(2) 柱穴（ＳＰ）

出土遺物

（Fig. 35）　**237**はＳＰ－138出土の陶器鉢である。**238**はＳＰ－139から出土した土師器小皿である。**239**はＳＰ－145からの軒平瓦である。**240**はＳＰ－195出土の土師器小皿である。口縁部の内外面にススの付着がみられる。**241**、**242**はＳＰ－256出土の土師器小皿である。**242**の口縁端部にススの付着がみられる。**243**はＳＰ－260出土の白磁の壷である。**244～249**はＳＰ－273から出土した遺物である。**244**は土師器の小皿。**245～247**は土師器の坏。**248**は高い高台の付く土師器の器である。遺構の時期は出土遺物から14世紀代と思われる。**249**は白磁のⅥ類の碗である。**250**はＳＰ－278出土の白磁碗（枢府系）である。**251～253**はＳＰ－308出土の土師器の坏である。**254～258**はＳＰ－312から出土した。**254**、**255**は土師器の小皿。**256～258**は土師器の坏である。**259～261**はＳＰ－313からのもので**259**は土師器小皿。**260**、**261**は土師器の坏である。**262～264**はＳＰ－314から出土した。**262**は土師器小皿。**263**、**264**は土師器の坏である。**265**はＳＰ－317から出土した陶器Ｂ群の壷である。**266**はＳＰ－328出土の陶器Ｂ群の長瓶である。**267～273**はＳＰ－331から出土した。**267～269**は土師

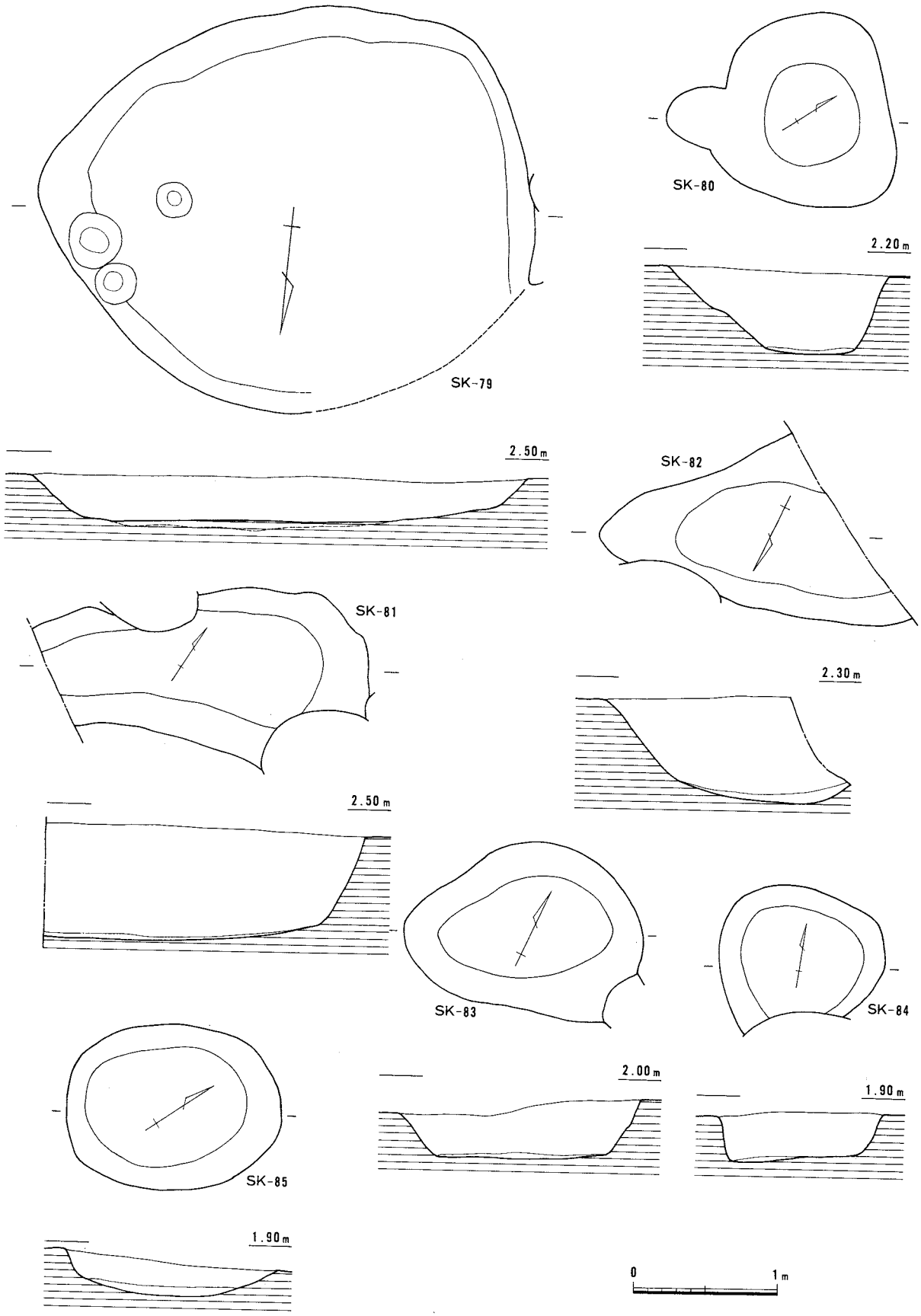


Fig. **29** ＳＫ－79～85実測図（1/40）

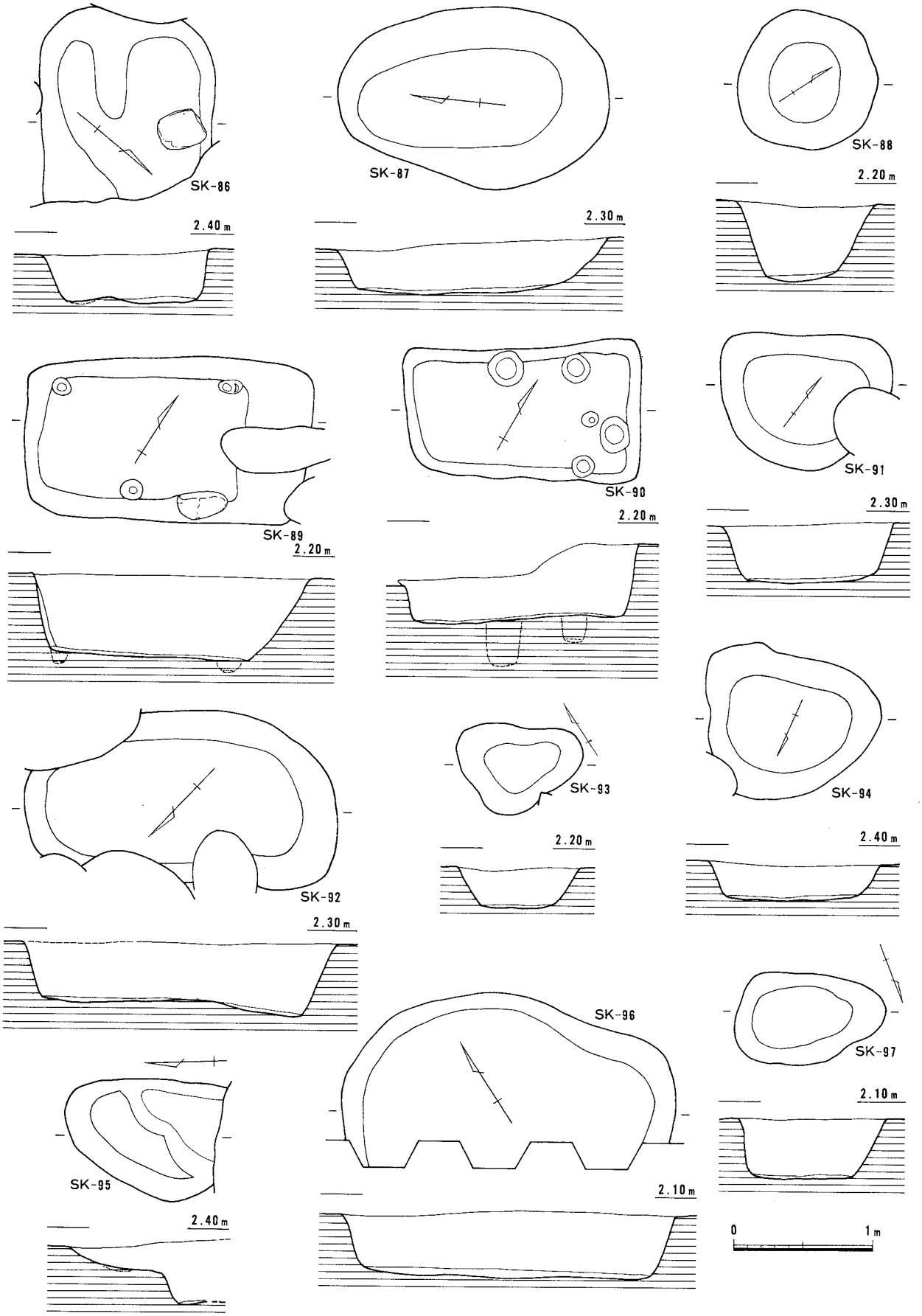


Fig. **30** ＳＫ－86～97実測図（1/40）

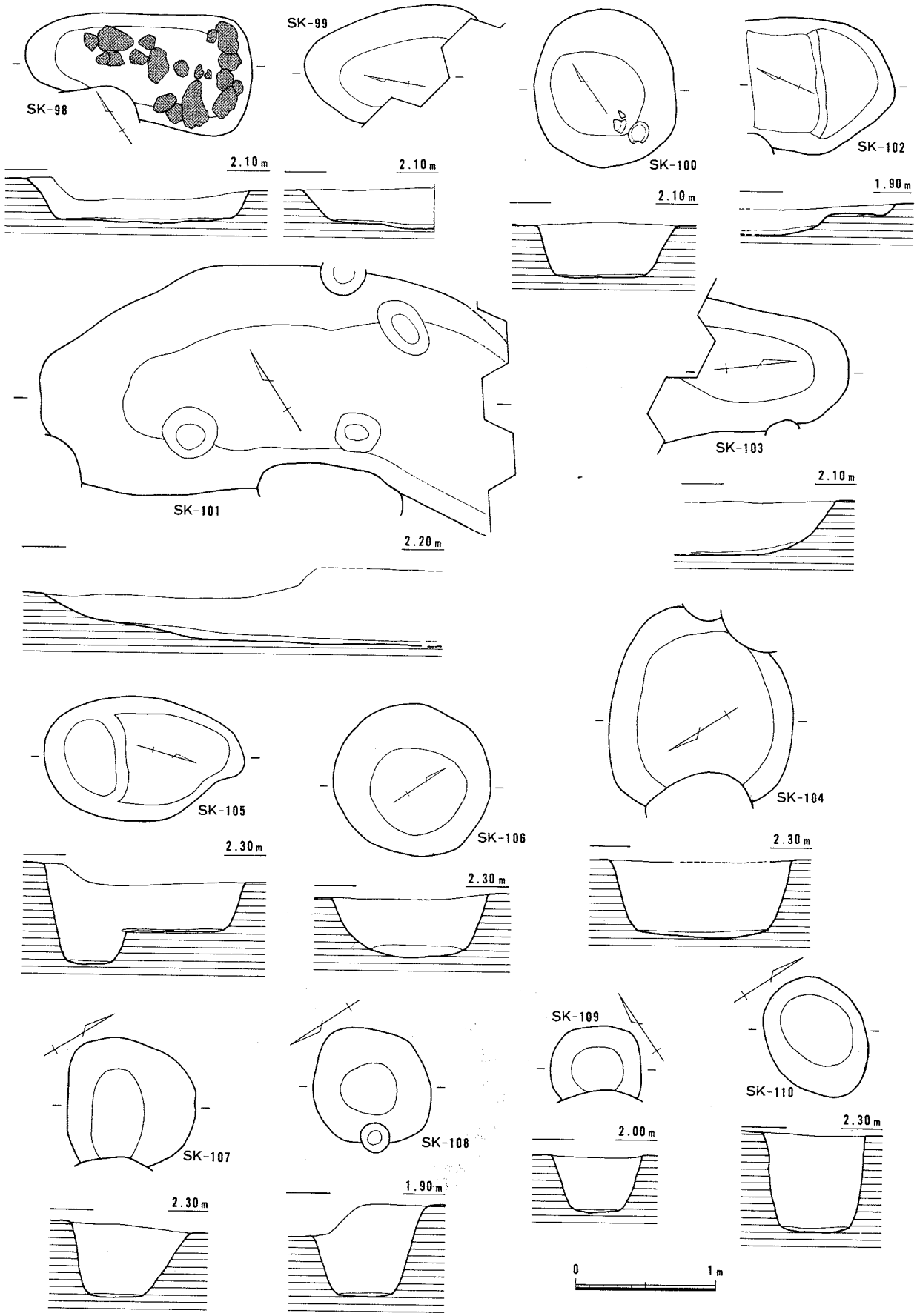


Fig. **31** ＳＫ－98～110実測図（1/40）

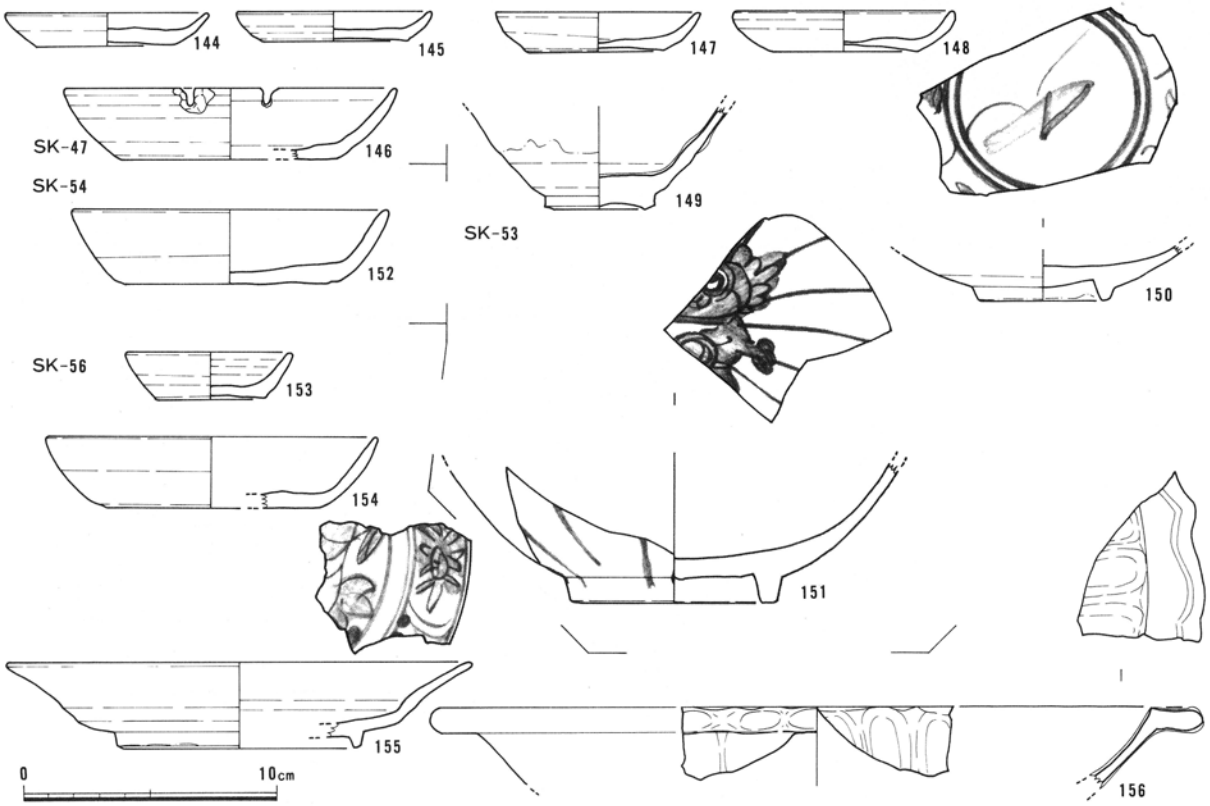


Fig. **32**　ＳＫ－47～56出土遺物実測図（1/3）

Ph. **8**　ＳＫ－98検出状況（南西から）

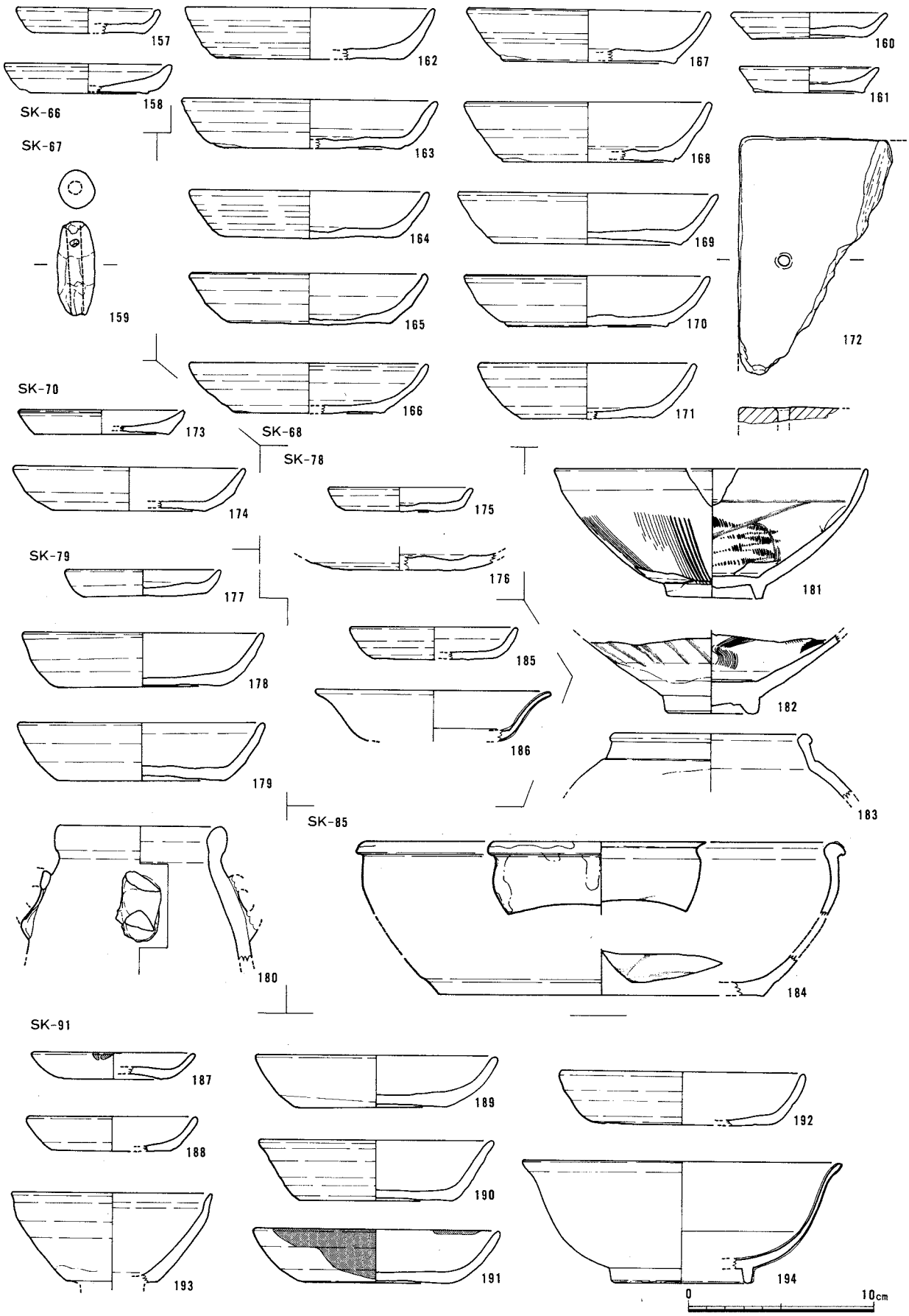


Fig. **33** ＳＫ－66～91出土遺物実測図（1/3）

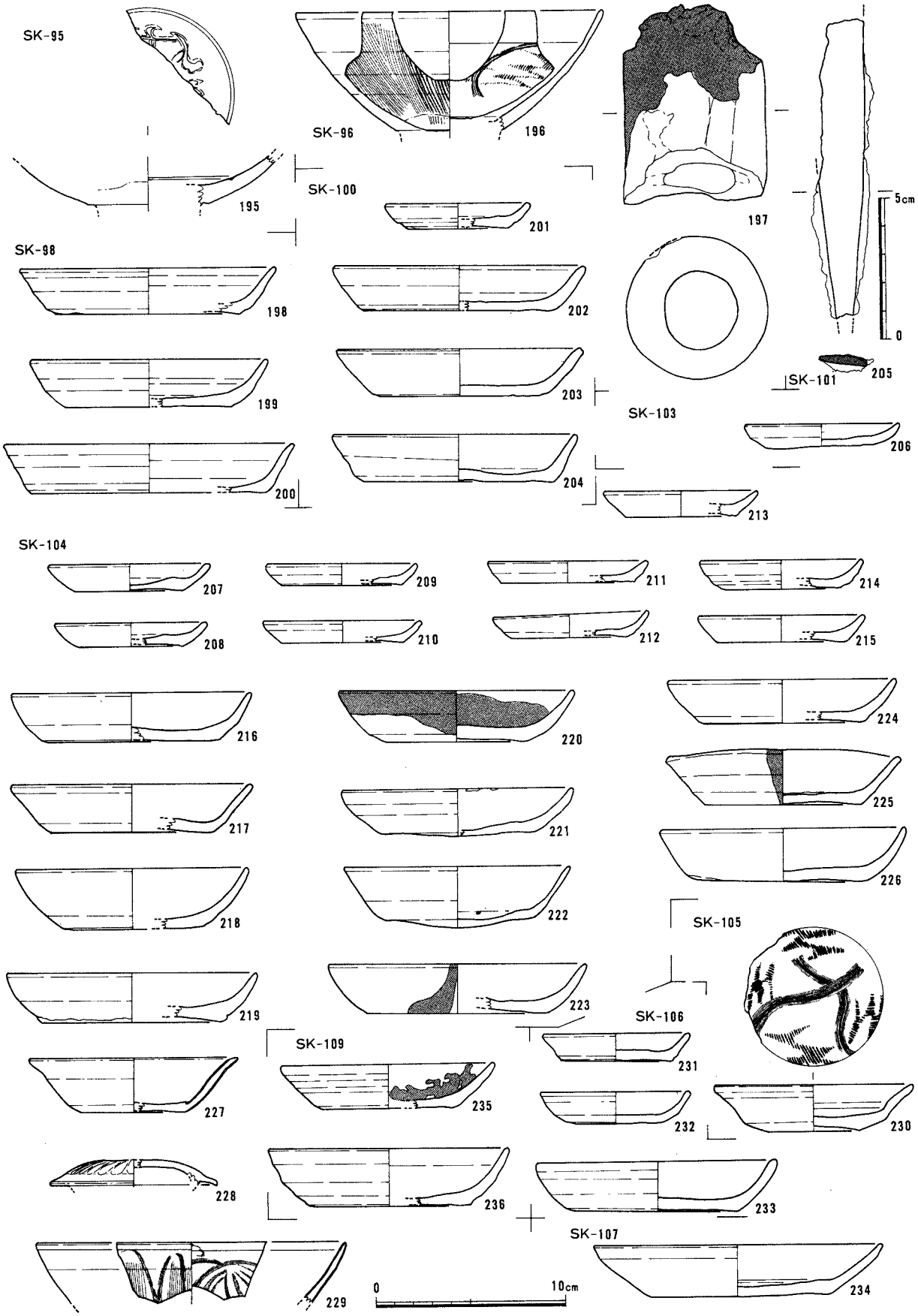


Fig. **34** ＳＫ－95～109出土遺物実測図（1/2・1/3）

器小皿。**270**～**273**は土師器の坏である。

（Fig. 36）　**274**～**277**はＳＰ－333から出土した。**274**～**276**は土師器小皿である。**277**は李朝の象嵌杯である。**278**～**292**はＳＰ－334出土遺物である。**278**～**282**は土師器の小皿である。**279**の外面器壁にはススの付着がみられる。**283**～**287**は土師器の坏である。**288**は白磁（枢府系）。**289**は白磁の碗。**290**は同安窯系青磁Ⅱ類の碗。**291**は高麗の象嵌壷。**292**は陶器の擂鉢である。**293**、**294**はＳＰ－503出土の土師器小皿と坏である。遺構の時代は13～14世紀と考えられる。**295**はＳＰ－508出土の土師器小皿である。**296**～**300**はＳＰ－515から出土した。**296**～**299**は土師器の小皿。**300**は土師器の坏である。**301**～**304**はＳＰ－516から出土した。**301**、**302**は土師器の小皿。**303**、**304**は土師器の坏である。**303**の内面にはススの付着がみられる。**305**はＳＰ－534出土の土師器小皿である。**306**、**307**はＳＰ－540出土の同安窯系青磁Ⅱ類の碗である。**308**～**312**はＳＰ－545から出土した遺物である。**308**、**309**は土師器の小皿。**310**は陶器Ｂ群の長瓶。**311**は陶器Ｂ群の壷。**312**は白磁の壺である。**313**～**316**はＳＰ－569から出土した。**313**は土師器の小皿。**314**は土師器の坏。**315**は同安窯系青磁Ⅱ類の碗。**316**は同安窯系青磁の平底皿Ⅰ類である。**317**、**318**はＳＰ－572から出土した土師器の小皿と白磁の碗Ⅴ類のものである。

（Fig. 37）　**319**はＳＰ－575から出土した土師器の高台付皿である。**320**、**321**はＳＰ－576出土の土師器の小皿と坏である。**322**～**326**はＳＰ－577から出土した遺物である。**322**～**325**は土師器の坏である。**326**は陶器の擂鉢である。**327**～**337**はＳＰ－591から出土した。**327**～**330**は土師器の小皿。**331**は土師器の坏。**332**は白磁の高台付皿。**333**は白磁の碗Ⅳ類。**334**は青磁の碗。**335**は象嵌の碗。**336**は瓦質の擂鉢である。**337**は砥石で、残存する最大長は10.1cm、幅3.4cm、残存する最大厚さは1.8cmを測る。遺構の時代は15～16世紀と考えられる。**338**はＳＰ－596出土の土師器の小皿である。**339**、**340**はＳＰ－600から出土した土師器の小皿である。　　銅銭出土（Fig. 46）

(3)　溝（ＳＤ）

ＳＤ－01

Ａ区の北側第１面にて検出された。確認された長さは約４ｍを測り、遺構は東側調査区外へのびる。幅60cm、深さ約25cmを測る。

ＳＤ－02

第１面Ａ区、Ｂ区の境界地点において検出された。確認された長さは約1.5ｍを測り、調査区際は矢板の打ち込みにより不明瞭である。幅は45cm、深さ約10cmを測る。

出土遺物（Fig. 38）　**341**は土師器の小皿である。口径8.2cm、底径5.0cm、器高1.6cmを測る。外底部の切り離しは糸切りである。また、底部外面に板状圧痕が残る。

ＳＤ－03

Ａ区の第２面北隅に位置し、ＳＫ－42に切られる。北側は調査区外へのびる。幅25cm、深さ６cmを測る。

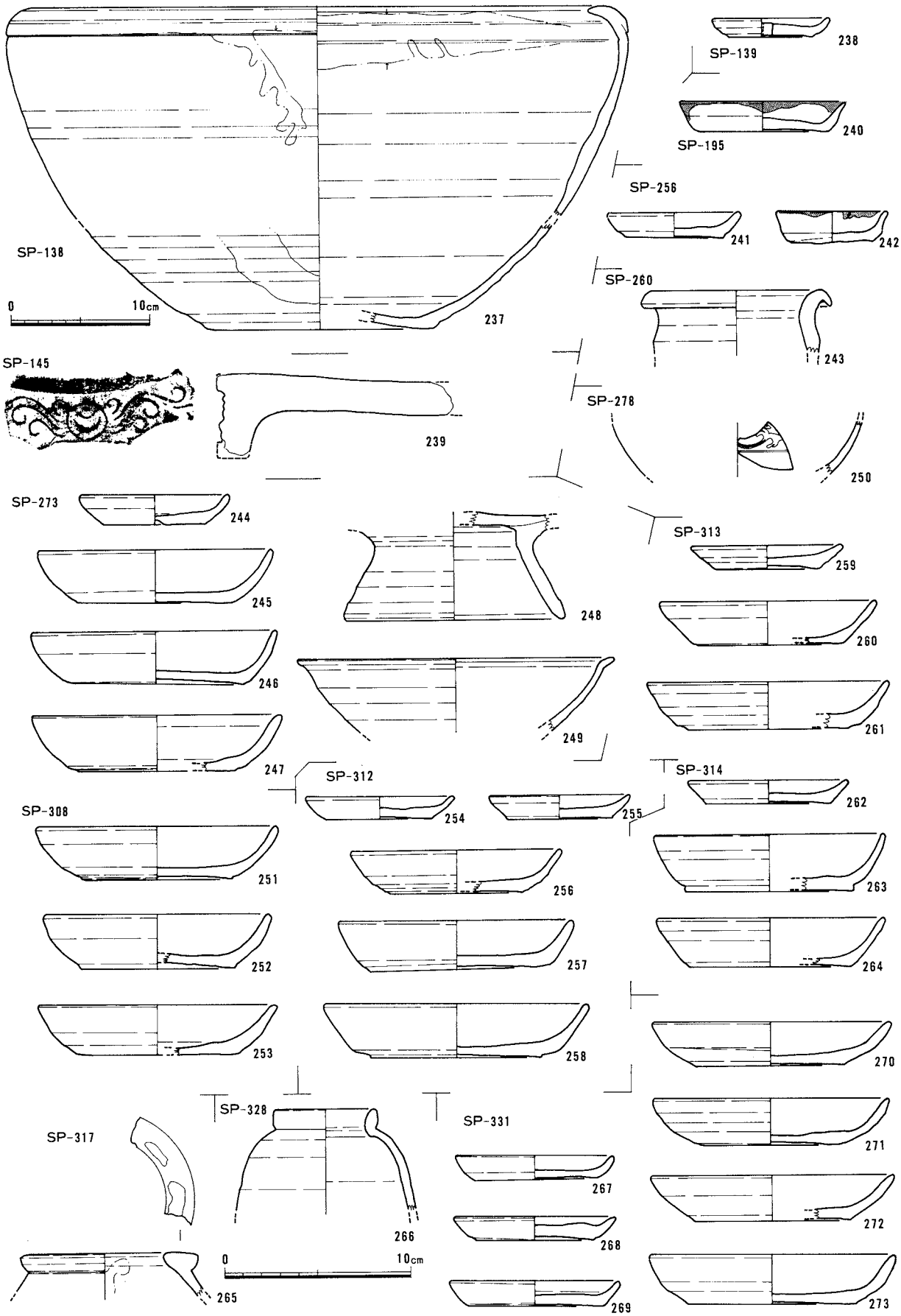


Fig. **35** ＳＰ－138～331出土遺物実測図（1/3・1/4）

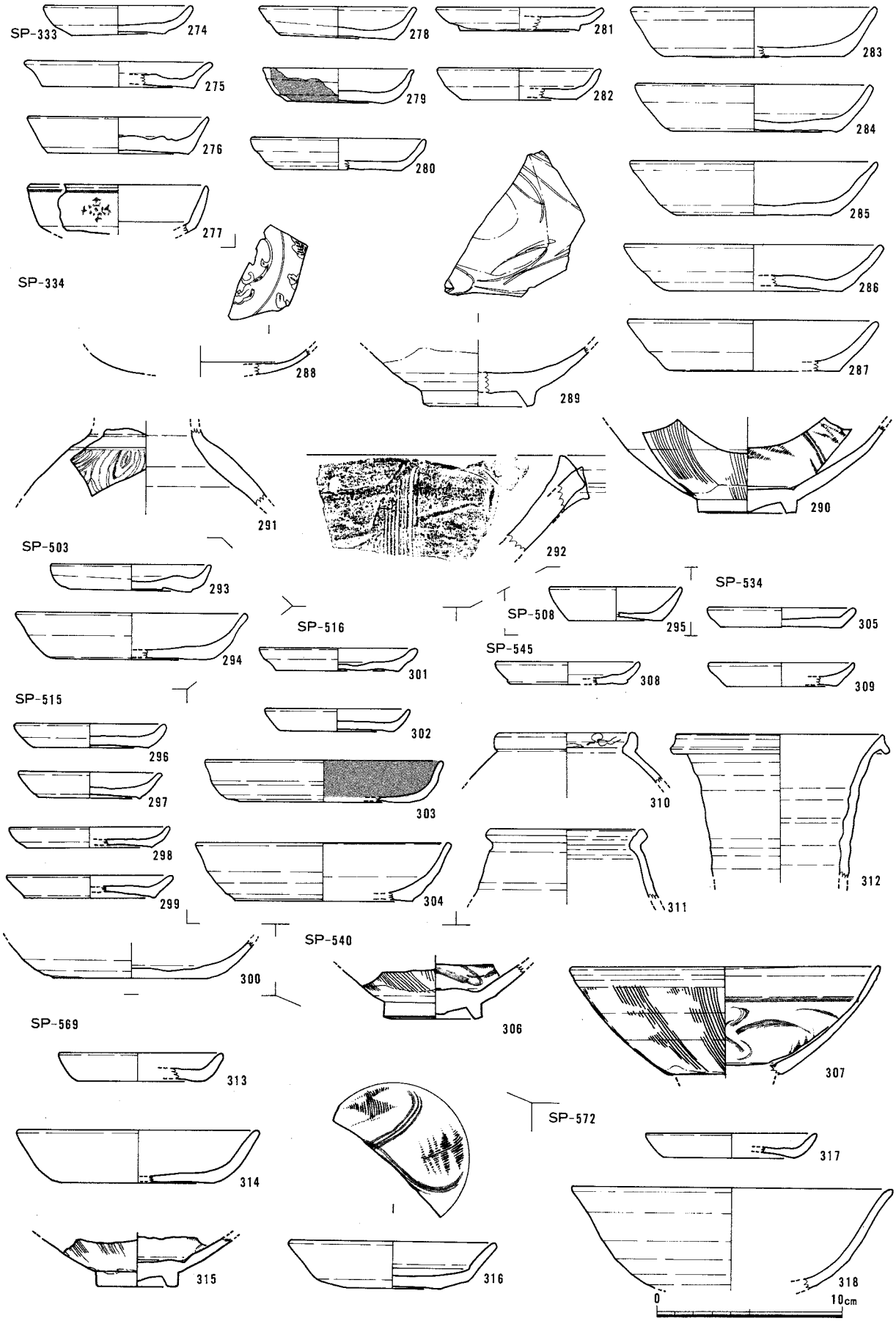


Fig. **36** ＳＰ－333、334、503～572出土遺物実測図（1/3）

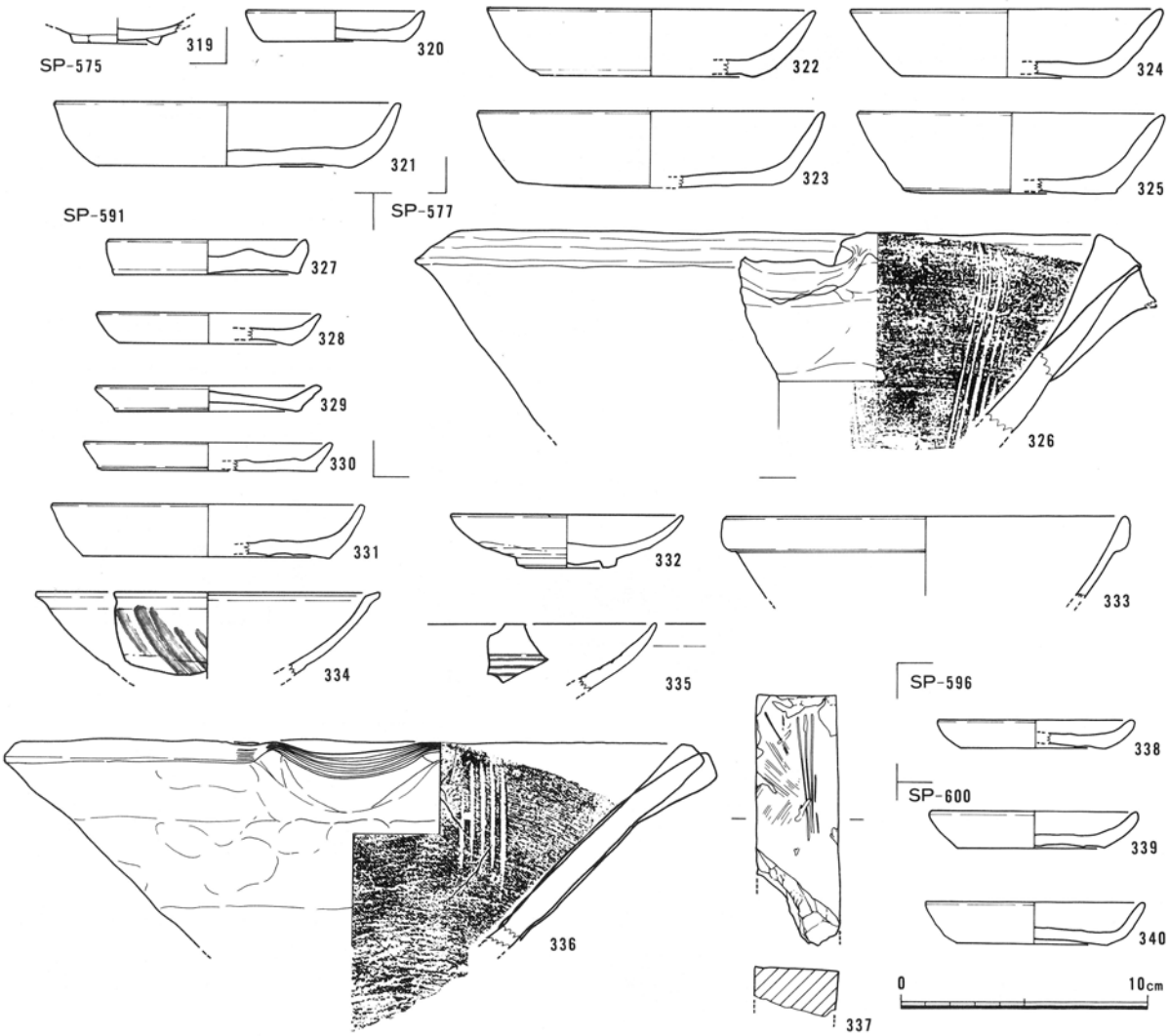
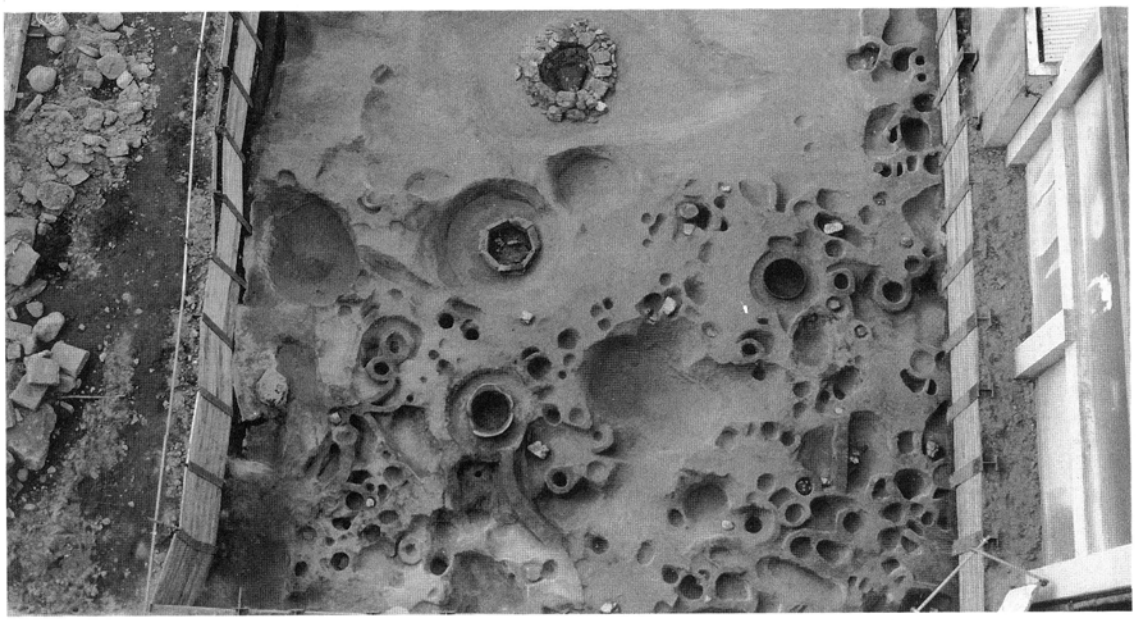


Fig. **37**　ＳＰ－575～600出土遺物実測図（1/3）



Ph. **9**　Ａ区第２面柱穴検出状況（南東から）

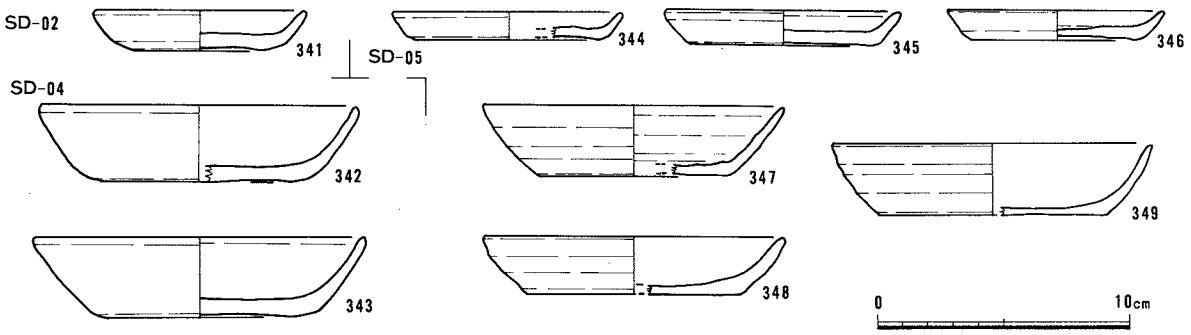


Fig. **38**　ＳＤ出土遺物実測図（1/3）

ＳＤ－04

Ａ区の第２面東側に位置しＳＥ－02に切られる。幅は約50cmを測り、底面には高低があり、深いところで約30cmを測る。

出土遺物（Ｆig. 38）　**342**、**343**は南側から出土した土師器の坏である。口径12.2cm、底径8.6cm、器高3.0cmを測る。底部外面の切り離しは糸切りである。

ＳＤ－05

Ｂ区第２面東側に位置し、ＳＥ－04に切られる。南側を攪乱により削られており、幅は約1.5ｍ以上はあったと思われる。深さは約30cmを測る。

出土遺物（Ｆig. 38）　**344**～**346**は土師器の小皿である。口径8.4～9.0cm、底径6.0～7.2cm、器高1.2～1.4cmを測る。外底部の切り離しは、すべて糸切りである。**347**～**349**は土師器の坏である。

(4)　井戸（ＳＥ）

ＳＥ－01（Ｆig. 39、ＰＬ．７）

Ａ区地下室の攪乱の下から検出された石組井戸である。掘りかたの平面は長軸7.2ｍ、短軸4.7ｍを測る不定形を呈し、北西部が張り出す。石組の上面は井戸掘りかた検出面より約30～40cmほど下から検出された。このことと井戸の中に崩れた石が少ないことから井戸の廃棄時に石の抜き取りがおこなわれた可能性がある。また、石組検出面より上部からイルカの頭骨（ＰＬ．９）が２点検出された。ただし、攪乱が及んでいることも考えられ遺構に伴うかどうかは不明である。石組は井戸の下部約１ｍが残存しており、その下には瓦質の筒状を呈する水溜が検出された。ただし、調査時にはすでに破損していた。遺構の所属する時代は出土遺物から17世紀後半以降と思われる。

出土遺物（Ｆig. 42. 43. 44）　**350**～**354**は土師器の小皿である。そのうち井戸枠内出土のものは**350**のみである。**352**の口縁部内外面にはススの付着がみられる。**355**～**364**は土師器の坏である。井戸枠内出土は**355**、**357**、**359**、**360**、**363**、**364**である。**365**は井戸枠内出土の明代の染付である。**366**は陶器の碗。**367**は白磁の高台付皿Ⅱ類である。高台内側に「歸」の墨書がある。**368**は陶器擂鉢。**369**は染付碗。**370**は井戸枠内から出土した瀬戸の高台付皿である。**371**は青磁の鉢。**372**は土錘で、

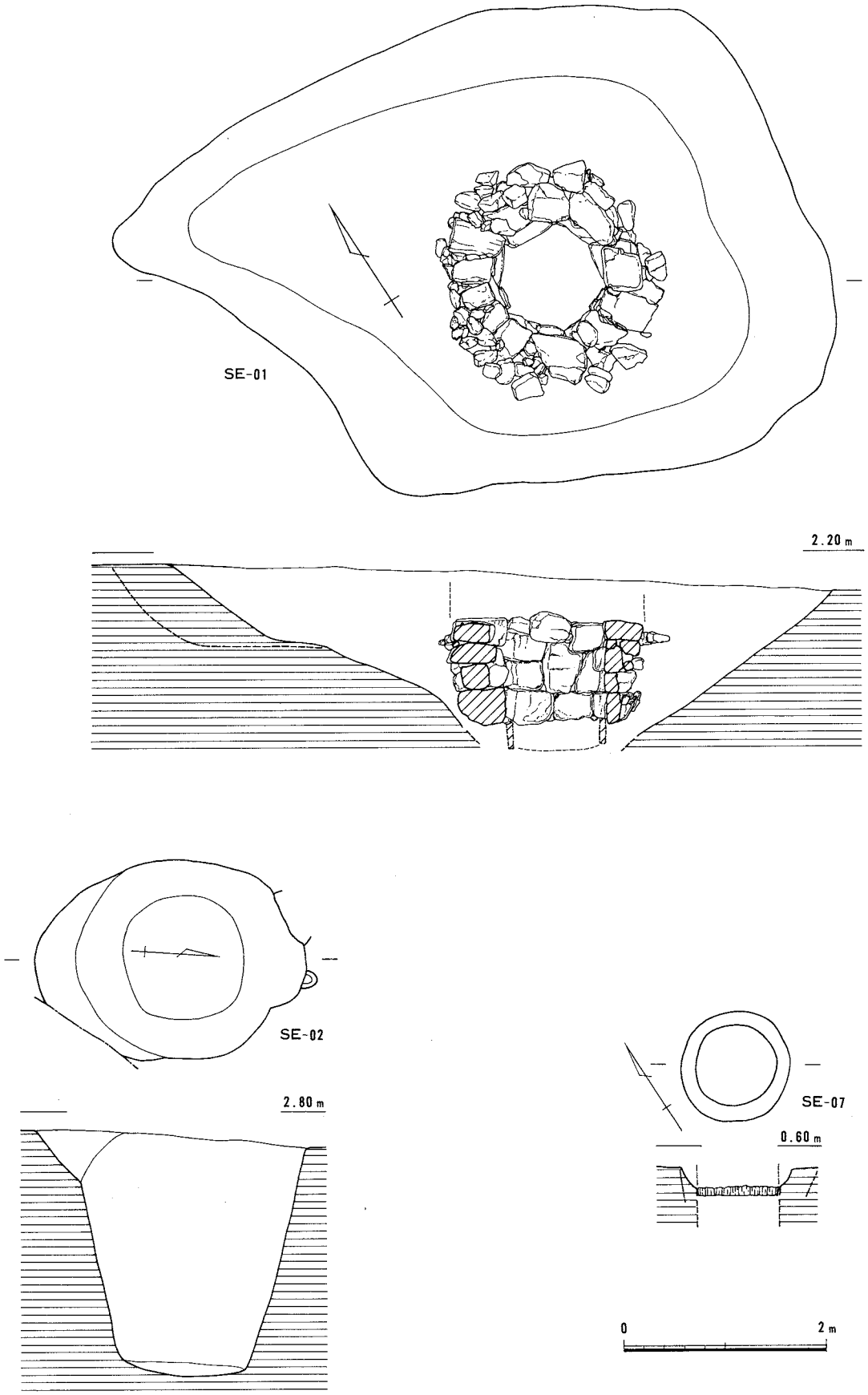


Fig. **39** ＳＥ－01、02、07実測図（1/60）

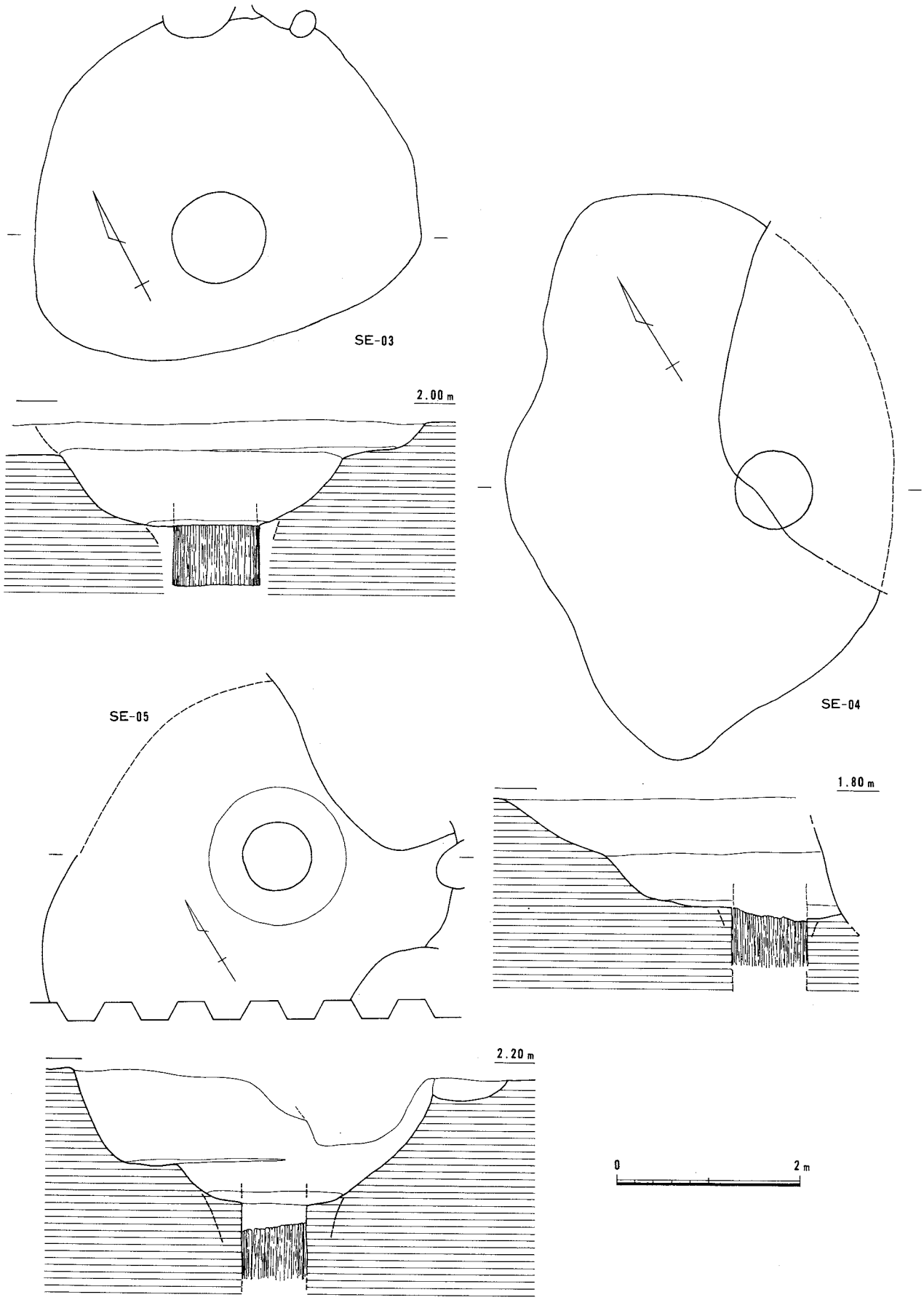


Fig. **40** ＳＥ－03、04、05実測図（1/60）

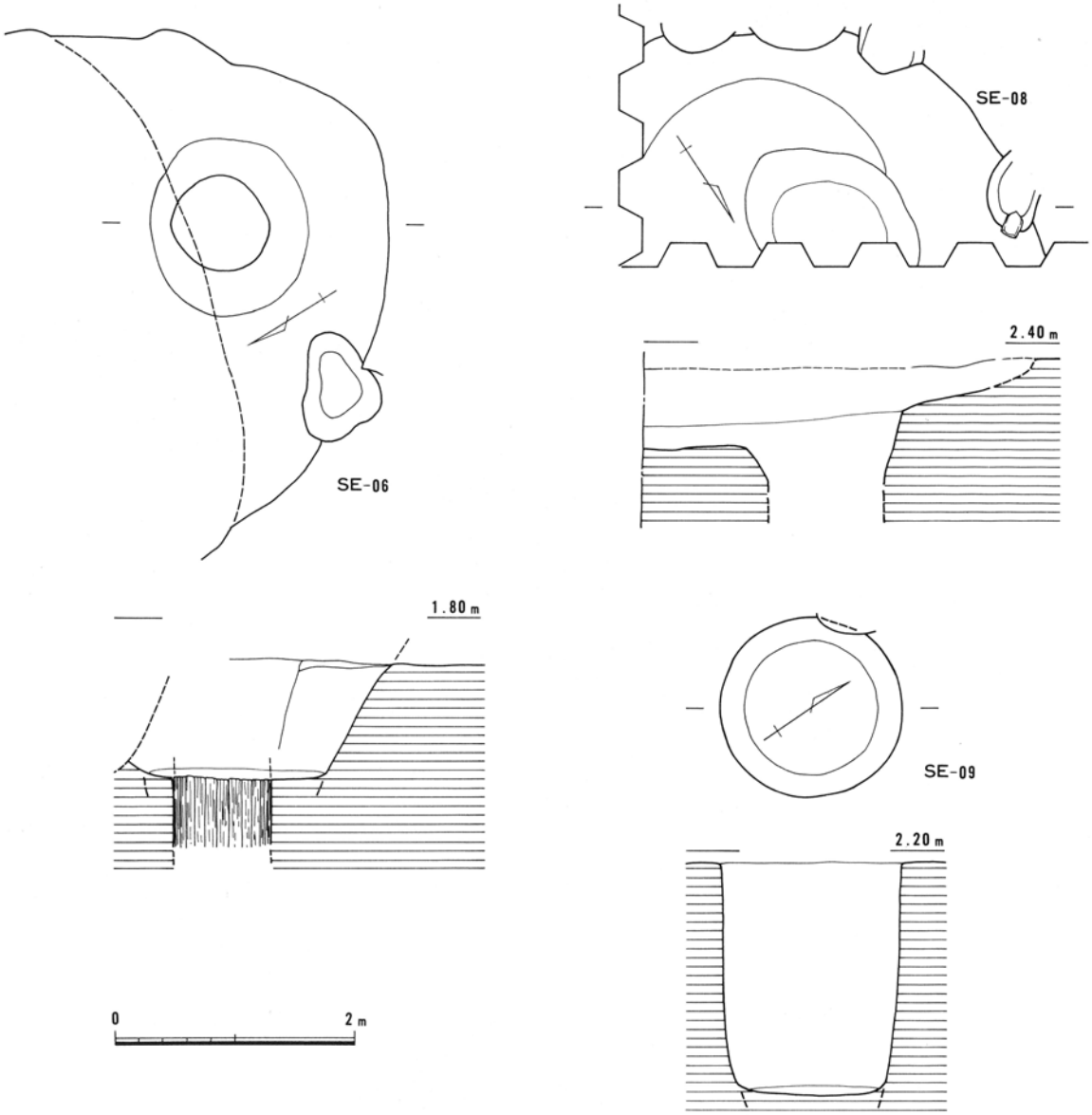


Fig. **41**　ＳＥ－06、08、09実測図（1/60）

Ph. **10**
ＳＥ－05検出状況
（南西から）

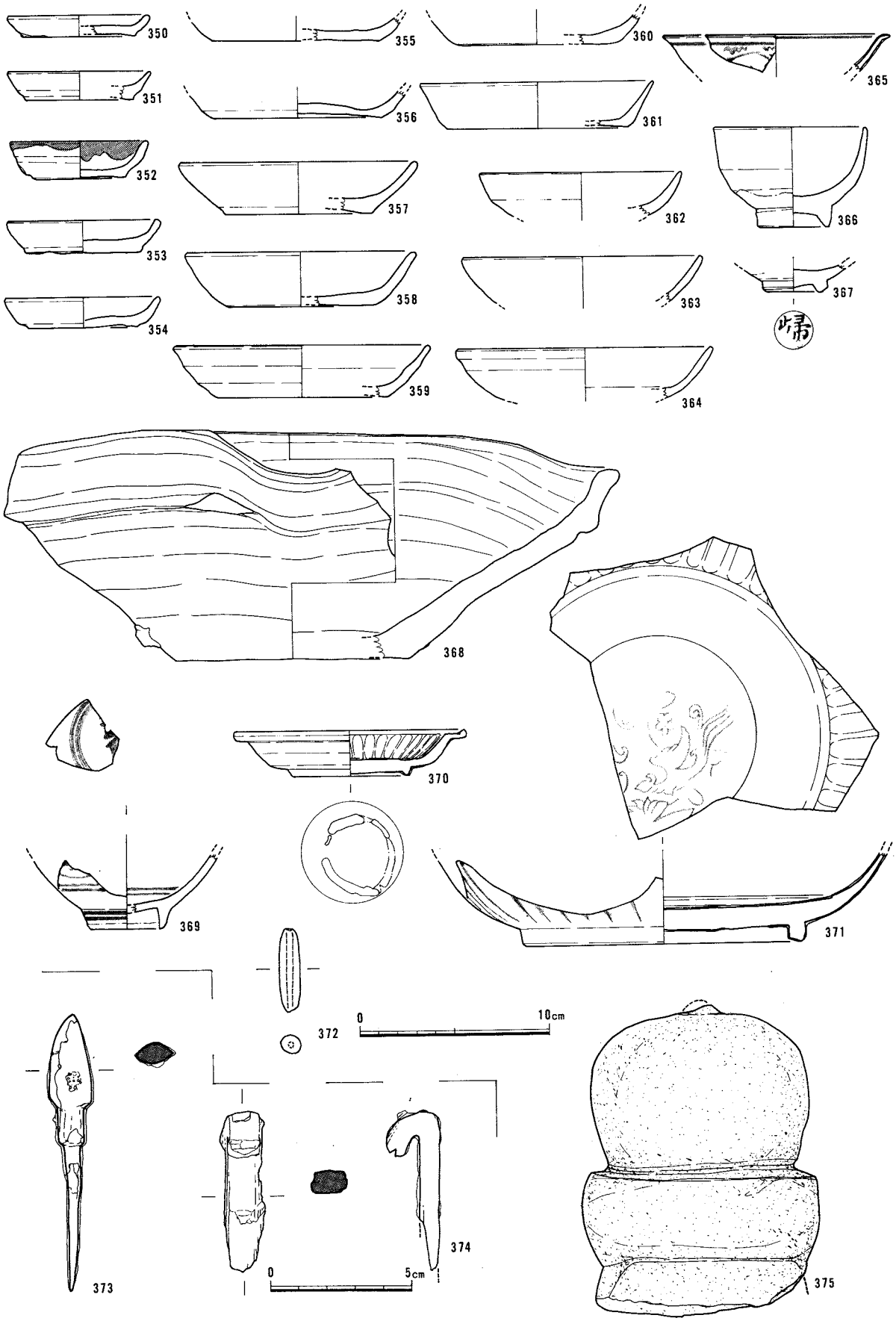


Fig. **42** ＳＥ－01出土遺物実測図１（1/2・1/3）

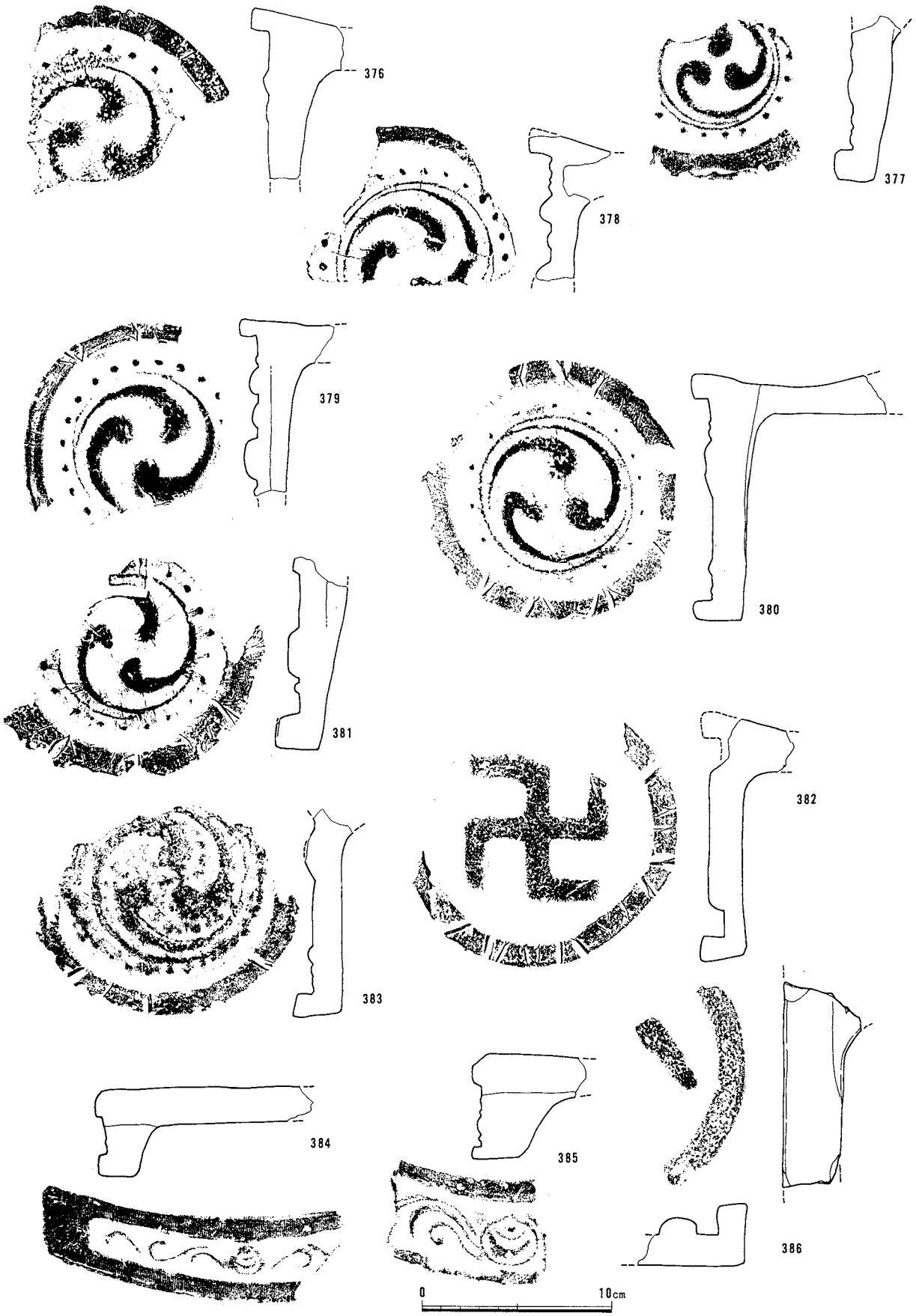


Fig. **43**　ＳＥ－01出土遺物実測図２（1/3）

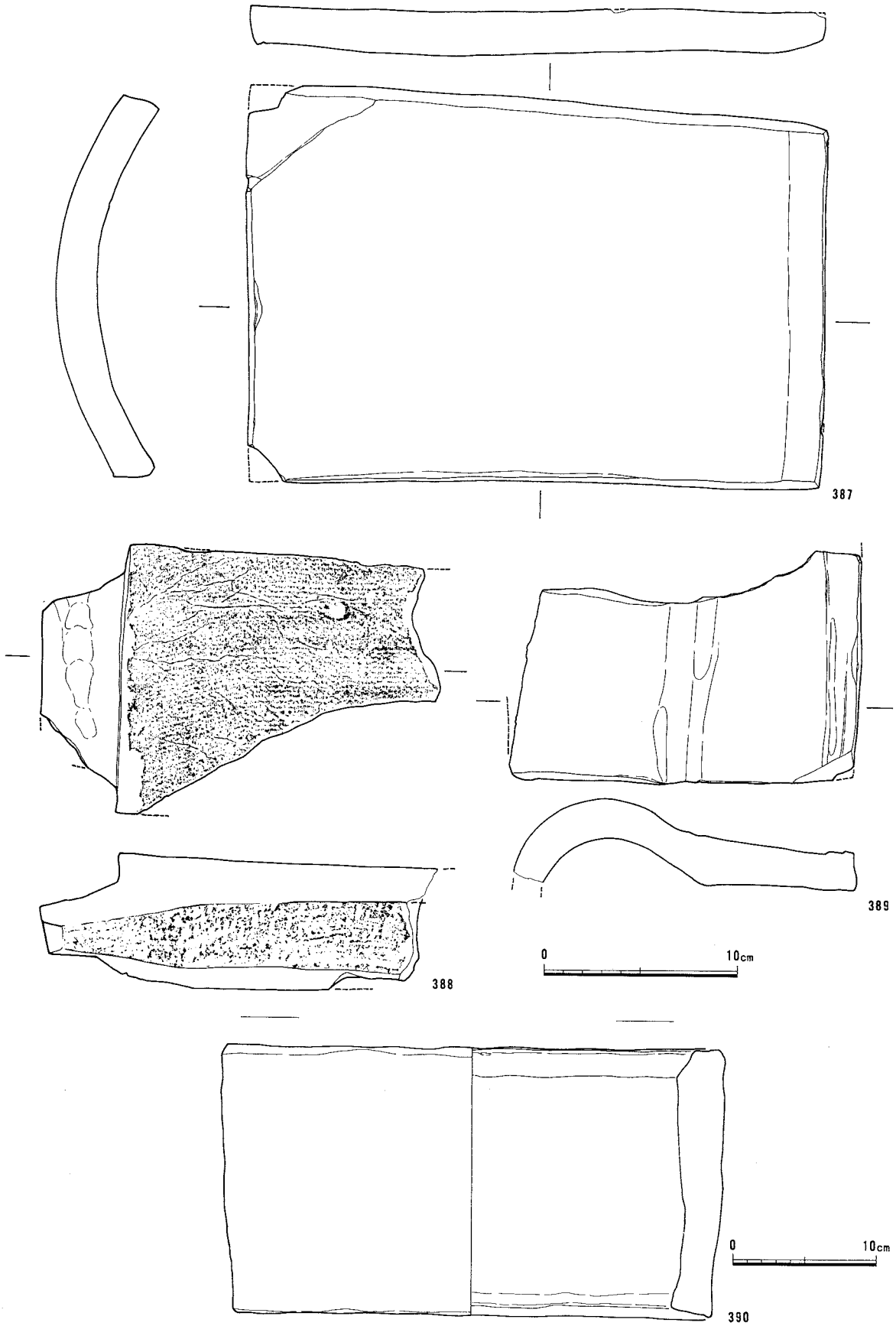


Fig. **44**　ＳＥ－01出土遺物実測図３（1/3・1/8）

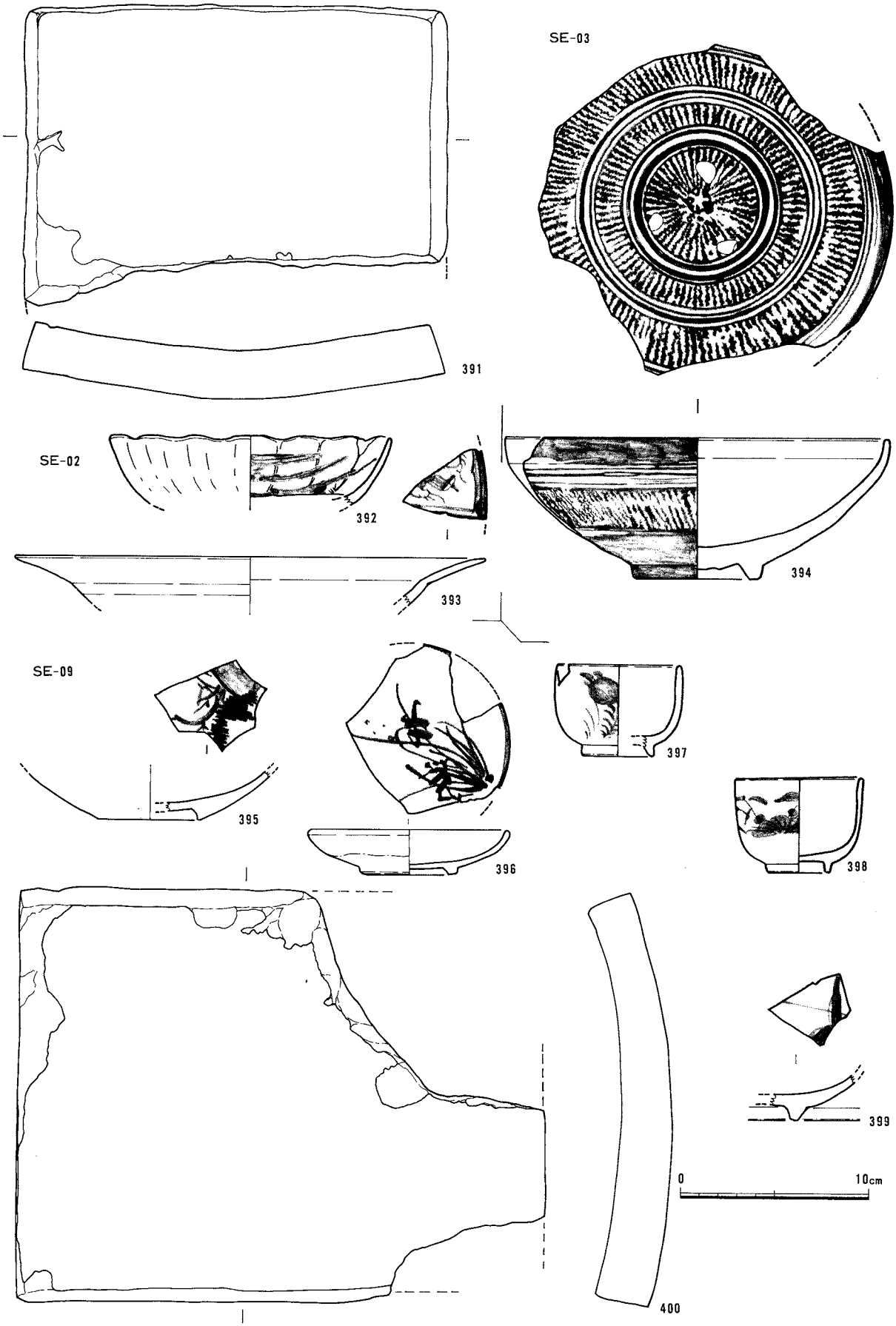


Fig. **45** ＳＥ－02、03、09出土遺物実測図３（1/3）

残存する長さ4.4cm、直径1.1cmを測る。**373**は鉄製の鏃であり、全長9.9cmを測る。**374**は不明鉄製品である。一端は丸く曲げられており、釘あるいはクサビと思われる。**375**は五輪塔の空輪・風輪部である。空輪の幅は11.5cm、風輪の幅は12.5cmを測る。**376**～**383**、**386**は軒丸瓦である。**382**、**386**は卍文であり、それ以外は三巴文である。瓦頭の直径はそれぞれ**376**は13.4cm、**377**が12.0cm、**378**が14.4cm、**379**が14.2cm、**380**が13.4cm、**381**が10.2cm、**382**が14.2cm、**383**が14.2cm、**386**が13.2cmを測る。そのうち井戸枠内から出土したものは**381**、**383**、**384**、**386**である。**387**は平瓦で長さ29.8cm、最大幅20.5cm、厚さ2.3cmを測る。**388**は丸瓦であり、最大幅13.9cm、厚さ3.5cmを測る。**389**は平瓦と丸瓦が一体になったものである。**390**は瓦質の水溜めである。最大直径60cm、最大厚さ6.2cm、高さ36.6cmを測る。

ＳＥ－02（Fig. 39、ＰＬ．7）

Ａ区北東部に位置する。上場は径約２ｍの円形を呈し、深さはを2.3ｍ測る。井戸枠と思われる木質の痕跡は円形を呈してかすかにみられることから、木桶が使われていたと思われる。

出土遺物（Fig. 45）　**391**の平瓦は長さは22.4cm、幅は15.8cm、厚さは2.6cmを測る。**392**は染付の鉢。**393**は明代の染付の鉢である。

ＳＥ－03（Fig. 40、ＰＬ．8）

Ｂ区のほぼ中央に位置する。ＳＥ－06、07、04を切る。掘りかたの長軸は約４ｍを測り、中央部に木桶による井戸枠が一段のみみられた。木桶の直径は90cmを測り、桶材は検出時に幅10～14cm、厚さ約1.7cmを測る。調査時の湧水点は海抜0.25ｍであった。

出土遺物（Fig. 45）　**394**はの象嵌碗である。

ＳＥ－04（Fig. 40）

Ｂ区西側に位置し、ＳＥ－03に切られる。掘りかたの長軸は約６ｍを測り、平面は長楕円形を呈すると思われる。井戸枠は東側に寄って木桶が確認された。しかし、木桶の底までは掘削できなかった。桶材は調査時において幅７～12cm、厚さ1.6cmを測る。井戸に伴う遺物はみられなかった。

ＳＥ－05（Fig. 40、Ｐｈ．11）

Ｂ区西側に位置し、ＳＥ－04に切られ、掘りかたの南側は調査区外へのびる。掘りかたの平面は直径約４ｍの円形を呈すると思われる。井戸枠は掘りかたのほぼ中央に木桶が確認され、直径約70cmを測る。木桶の底までは掘削できなかった。桶材は調査時で幅８～11cm、厚さ1.5cmのものが22枚組み合わされたものであった。

ＳＥ－06（Fig. 41、ＰＬ．8）

Ｂ区中央部に位置し、ＳＥ－03に切られる。掘りかたの平面形は不明である。井戸枠は木桶が使われており、直径80cmを測る一段のみ確認された。調査時に木桶の底までは掘削できなかった。桶材は現存で幅10～12cm、厚さ２cmを測り、25枚組み合わせて作られていた。桶内から遺物は出土しなかった。

ＳＥ－07（Fig. 39、ＰＬ．8）

Ｂ区中央に位置し、ＳＥ－03、04に切られる。桶のみが深さ約10cm検出され、掘りかたの規模は

不明である。木桶の直径は検出時で80cmを測る。桶材は幅11cm程度で厚さ約１cmを測る。桶の下場のレベルは海抜0.10mであった。桶内から時期を特定できる遺物は出土しなかった。　銅銭出土（Fig. 46）

ＳＥ－08（Fig. 41）

Ｂ区の東隅に位置する。半径約２mの掘りかたを検出したのみであり、井戸枠は調査区外に位置すると思われる。遺物は出土していない。

ＳＥ－09

Ａ区北側ＳＥ－01の北側に位置する。平面は径1.5mの円形を呈し、深さは約２mを測る。井戸枠等の痕跡はみられなかった。遺構の時代は出土遺物から17世紀代と思われる。

出土遺物（Fig. 45）　**395**、**396**は染付の皿。**397**、**398**は染付の小碗。**399**は染付の碗。**400**の平瓦は長さ28.0cm、幅22.0cm、厚さ3.0cmである。

(5)　包含層・遺構確認他

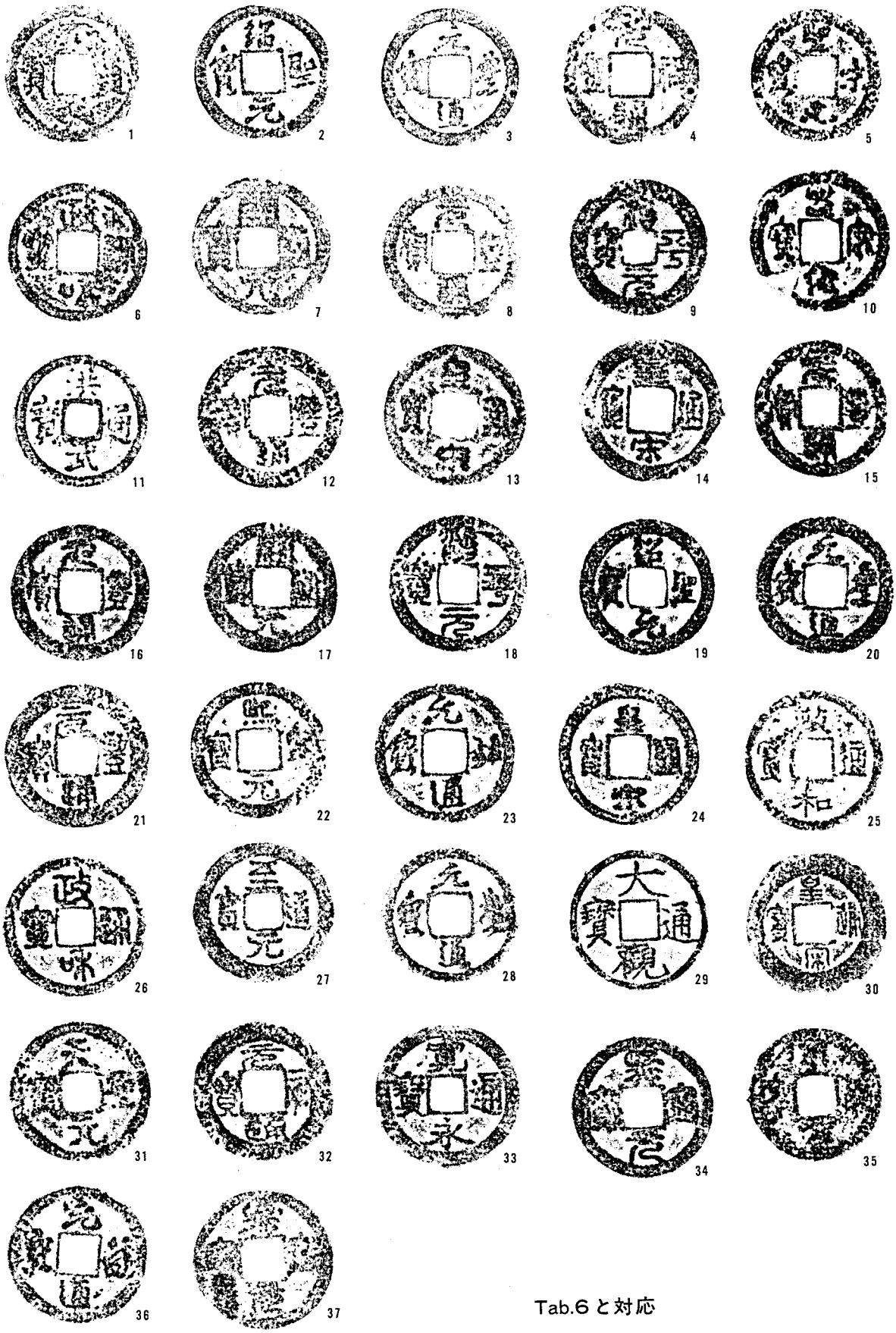
ここに掲載する遺物は黄茶褐色砂質土である遺物包含層より出土したものと、第２面遺構検出時に出土したものである。

出土遺物（Fig. 47～48）　**401**は白磁の壺。**402**は青白磁合子の蓋。**403**は龍泉窯系青磁の碗Ⅰ類－６。**404**は龍泉窯系青磁の坏。**405**、**406**は同安窯系青磁の平底皿Ⅰ類。**407**、**408**、**409**は同安窯系青磁の碗Ⅱ類である。**410**は“その他群を構成するに至らない大型容器”Ⅰ類の壺である。**411**は陶器Ａ群の小口瓶。**412**は滑石製の石錘である。残存長10.2cm、断面の長軸3.9cm、厚さ2.8cmを測り、横に溝がまわる。**413**～**420**は燻しによる軒丸瓦である。瓦頭の文様はすべて三巴文で、右まわりと左まわりの２種類がある。**413**は瓦頭の直径9.8cmを測る。**414**は9.4cm。**415**は7.8cm。**416**は8.1cm。**417**は7.8cm。**418**は8.8cm。**419**は7.6cm。**420**は7.6cmを測る。**421**は明代染付の碗。**422**、**423**は伊万里染付の碗。**424**、**425**は染付の碗。**426**は染付の蓋。**427**はＢ区排土中よりみつかった伊万里染付の碗である。**428**は第２面の検出時に出土した象嵌の碗である。**429**は遺構検出時に出土した象嵌の杯である。**430**はＡ区攪乱底から出土した象嵌の杯である。**431**は北側遺構検出時に出土した瀬戸のおろし皿である。**432**はおなじく北側遺構検出時に出土した陶器の鉢である。**433**は砥石である。残存長は5.5cm、幅1.3cm、厚さ1.2cmを測る。

(6)　トレンチ調査

トレンチの位置はFig.25の全体図にアミカケした部分である。グリッドではＢ３、Ｂ４、Ｂ５、Ｂ６にあたる。第２遺構面より約２m掘削し底のレベルは海抜0.30mを測る。

出土遺物（Fig. 49）　**434**～**438**はトレンチの上層約１mから出土した。**439**、**440**はその下層からの出土である。上層と下層を分ける層位はない。**434**は白磁碗Ⅳ類。**435**は白磁の碗Ⅵ類である。**436**は同安窯系青磁の碗Ⅱ類である。**437**は陶器Ａ群の盤。**438**は陶器Ｃ群の擂鉢である。**439**は白磁の碗



Tab.6 と対応

Fig. **46** 93次調査出土銅銭拓影（1/1）

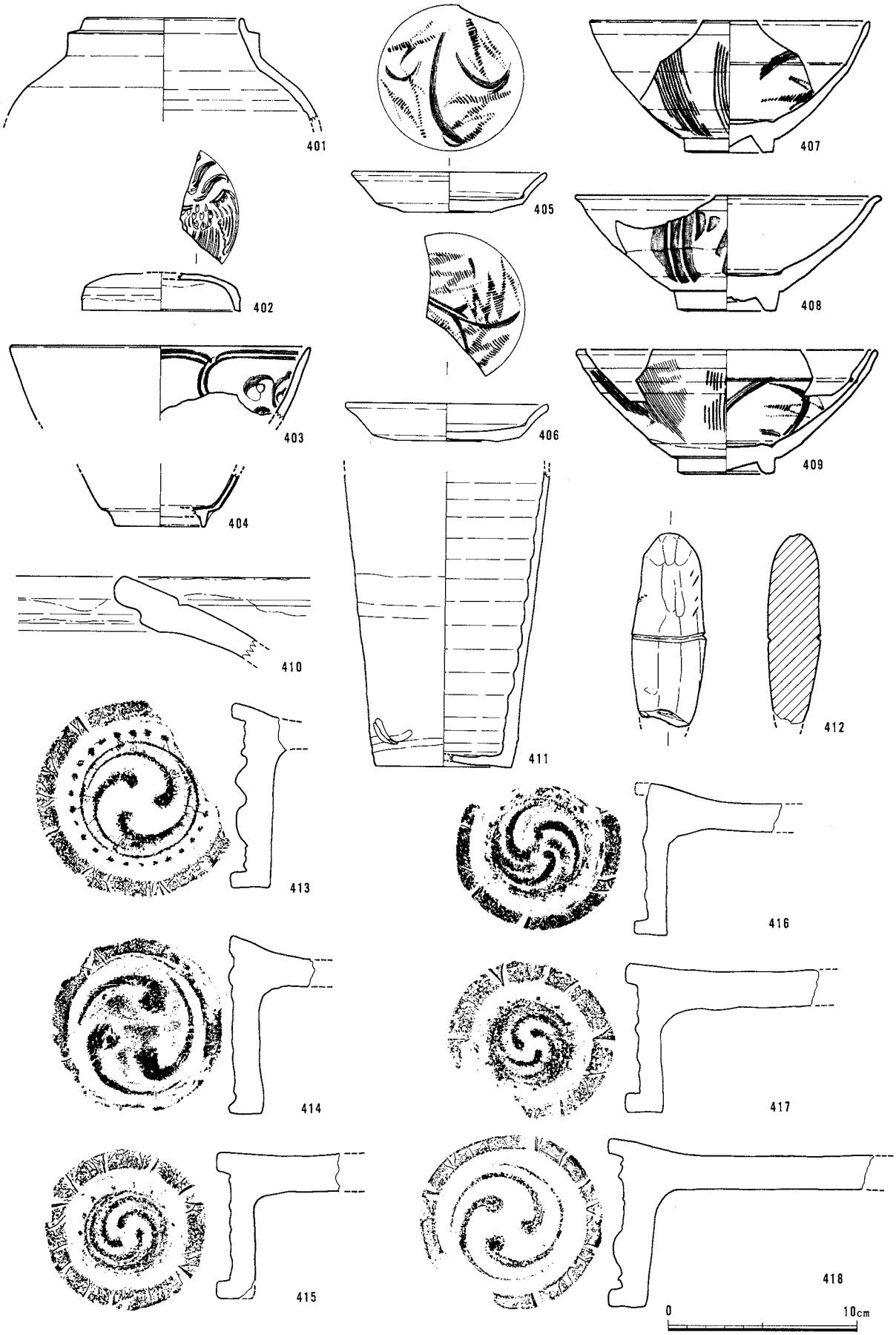


Fig. **47** 包含層出土遺物実測図１（1/3）

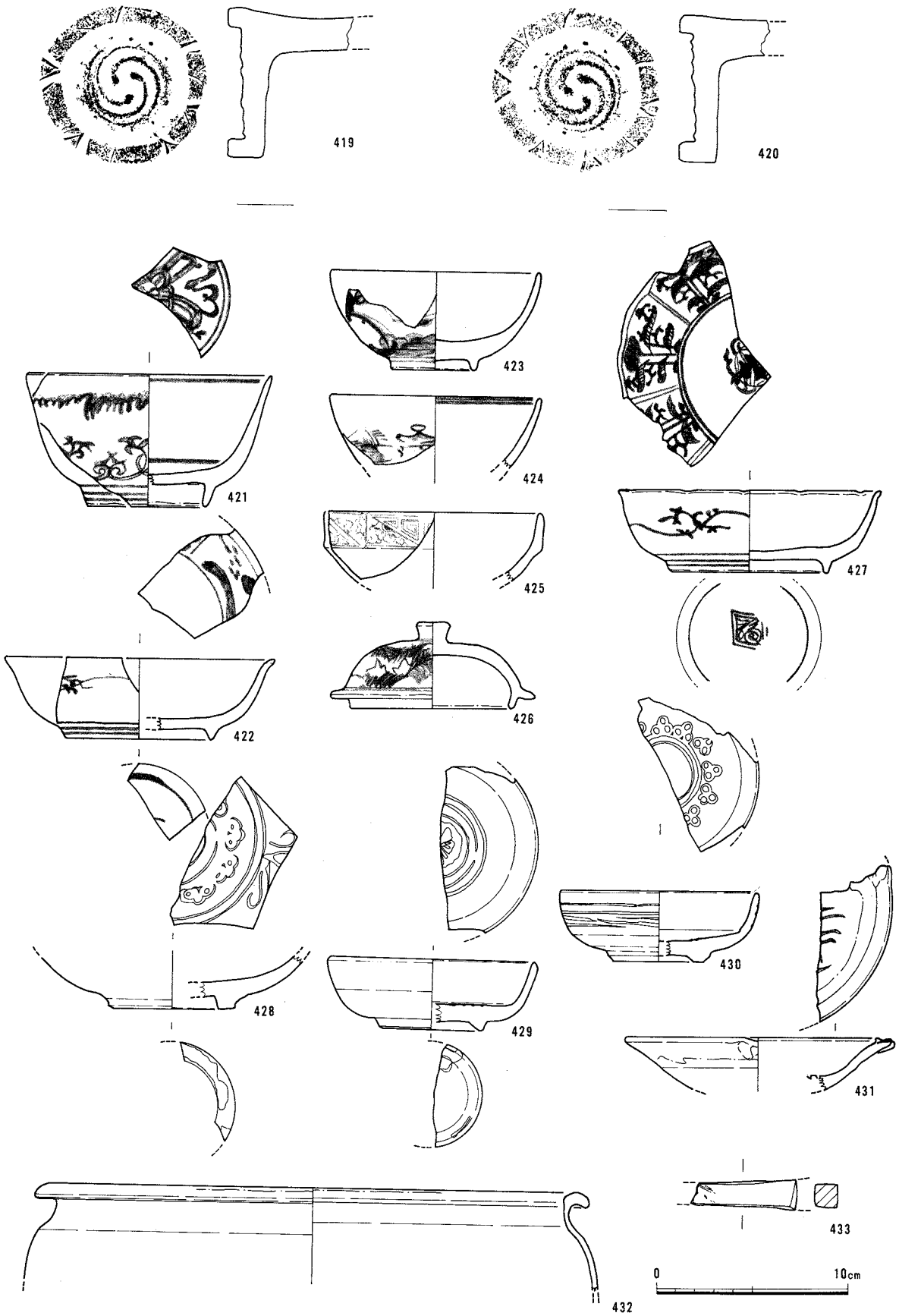


Fig. **48** 包含層出土遺物実測図 2 (1/3)

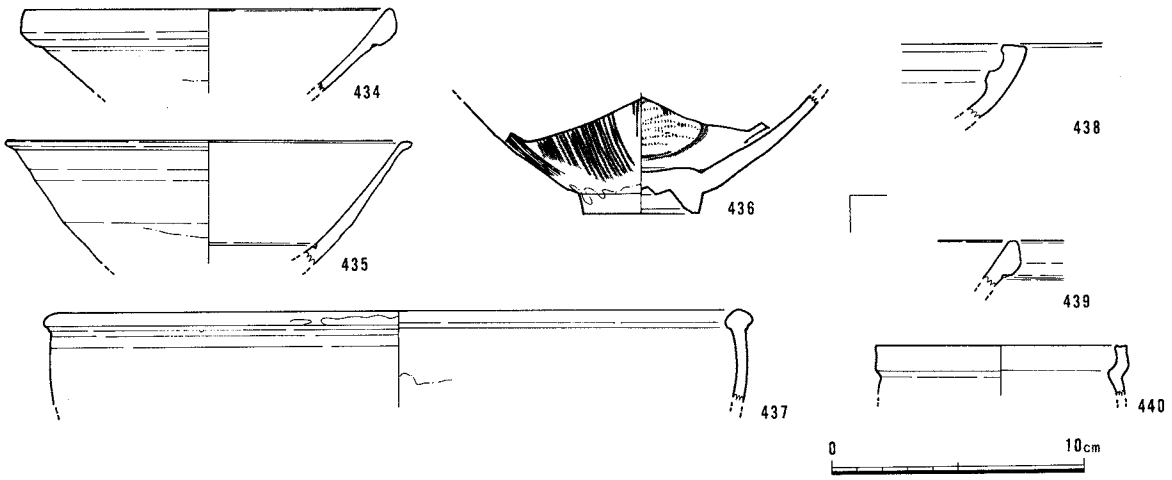


Fig. **49** トレンチ調査出土遺物実測図（1/3）

Ⅳ類。**440**は陶器Ｃ群の無釉盤口水注である。

3　小 結

今回の調査地点は昭和初めの旧町名では濱小寺町、妙楽寺新町付近にあたる。この地点はちょうど11世紀末における海岸線上に位置すると推測されている。また、北側約60ｍには68次調査地点が位置しており、13世紀後半の海岸線がおさえられている。このため今回の調査開始前から遺構の時代的な上限は概ね予想され、また調査においてもこのことを裏付けるものとなった。

調査は、砂層基盤上面とその上に堆積する黄茶褐色遺物包含層の上面の２面において遺構検出作業をおこなった。第２面検出面である砂層は調査区内ではほぼ平坦であり、海に面する北側への傾斜はみられなかった。

注目される遺構としては、まずＳＫ－89、ＳＫ－90がある。これらの遺構は性格を特定できる遺物は出土していないが、平面が隅丸長方形を呈し、土壙墓の可能性が考えられる。北側に位置する第68次調査では12世紀後半から13世紀の土壙墓が検出されており範囲はおさえられないが墓域としての利用が予想される。次に、17世紀後半以降に造られたと思われるＳＥ－01がある。上部は石組みにより構築されており、最下層には瓦質の水溜があり、石組み井戸から瓦井戸への過渡的な様相を示すものではないかと考えられる。また、石組みに五輪塔の一部が転用されており、裏ごめには卍文をもつ軒丸瓦なども複数出土しており、寺院などとの関連も考えられる。

トレンチ調査の成果としては、基盤の砂層から13世紀初頭頃までの遺物が出土しており、この地の砂層の形成時期を特定できた。また、11世紀から13世紀中頃までは１年間に約40㎝ずつ海岸線が北進し、急速な陸地化が進んだといわれているが、このことも土層の観察から裏付けられた。

最後に、この地の西側にあるとされている正和５年（1316）に創建された妙楽寺の推定地については、調査において直接それと関係する遺構、遺物は出土しなかった。

Tab. 1　93次調査出土遺物観察表 1

（括弧は復元値）cm

Fig. NO.	出土遺構	器種	口径	底部径	器高	切り離し	板状圧痕	備考
Fig.19-001	SK－001	唐津　水指	15.0	9.8	12.5	－	－	
Fig.19-002	SK－002	土師器　小皿	6.5	5.2	1.3	糸切り	無	
Fig.19-003	SK－002	土師器　小皿	6.6	5.0	1.1	糸切り	無	
Fig.19-004	SK－002	土師器　小皿	6.8	5.3	0.9	糸切り	無	
Fig.19-005	SK－002	土師器　小皿	(6.6)	(5.8)	0.7	糸切り	無	
Fig.19-006	SK－002	土師器　小皿	6.8	5.2	1.2	糸切り	無	
Fig.19-007	SK－002	土師器　小皿	6.6	5.3	1.0	糸切り	無	
Fig.19-008	SK－002	土師器　小皿	7.2	5.6	1.2	糸切り	無	
Fig.19-009	SK－002	土師器　小皿	7.6	6.2	1.3	糸切り	無	
Fig.19-010	SK－002	龍泉窯系　香炉	(7.6)	－	－	－	－	
Fig.19-011	SK－002	白磁　碗	(9.4)	(3.2)	4.6	－	－	
Fig.19-012	SK－002	白磁　壷	－	(8.6)	－	－	－	
Fig.19-013	SK－002	伊万里染付　碗	8.2	－	－	－	－	最大径　8.8
Fig.19-014	SK－002	伊万里染付　盃	6.4	2.6	3.1	－	－	最大径　6.6
Fig.19-015	SK－002	伊万里染付　碗	10.4	－	－	－	－	最大径　10.8
Fig.19-016	SK－002	伊万里染付　高台付皿	13.6	8.0	4.0	－	－	最大径　13.8
Fig.19-017	SK－002	伊万里染付　碗	9.8	3.6	5.5	－	－	最大径　10.2
Fig.19-018	SK－002	伊万里　仏飯碗	6.0	4.0	5.3	－	－	最大径　6.6
Fig.19-019	SK－002	伊万里染付　碗	10.8	－	－	－	－	最大径　11.4
Fig.19-020	SK－002	染付　碗	7.8	3.2	4.1	－	－	
Fig.19-021	SK－002	染付　小碗	9.0	2.2	4.4	－	－	最大径　9.2
Fig.19-022	SK－002	伊万里染付　皿	－	8.8	－	－	－	
Fig.20-026	SK－003	土師器 小皿	(6.8)	(5.2)	1.0	糸切り	無	
Fig.20-027	SK－003	染付　碗	－	3.4	－	－	－	
Fig.20-028	SK－003	染付　碗	－	4.8	－	－	－	
Fig.20-029	SK－003	染付　皿	14.8	－	－	－	－	
Fig.20-030	SK－003	伊万里染付　高台付皿	13.4	7.0	3.9	－	－	
Fig.20-031	SK－003	伊万里　壷	－	－	－	－	－	
Fig.20-032	SK－003	染付　碗	(12.4)	－	－	－	－	
Fig.20-034	SK－003	染付　碗	9.0	－	－	－	－	
Fig.20-035	SK－003	染付　碗	10.0	－	－	－	－	
Fig.20-036	SK－003	染付　碗	8.8	－	－	－	－	
Fig.20-038	SK－004	土師器小皿(灯明皿)	7.9	6.2	1.3	糸切り	無	
Fig.20-039	SK－004	土師器　小皿	(8.2)	(6.0)	1.5	糸切り	無	
Fig.20-040	SK－004	土師器　坏	(10.2)	(6.2)	1.7	糸切り	無	
Fig.20-041	SK－004	白磁　碗	(12.8)	4.2	3.6	－	－	
Fig.20-042	SK－004	伊万里染付　碗	(9.7)	(3.6)	5.6	－	－	
Fig.20-043	SK－004	伊万里染付小碗、坏	6.4	2.6	3.0	－	－	
Fig.20-044	SK－004	染付　碗	－	－	－	－	－	
Fig.20-045	SK－006	黒色土器B坏	(9.4)	(6.8)	1.3	糸切り	無	
Fig.20-046	SK－006	土師器　坏	(10.2)	2.3	6.4	糸切り	無	
Fig.20-047	SK－006	土師器　坏	12.4	2.6	8.1	糸切り	有	
Fig.20-048	SK－006	白磁　碗	(12.9)	4.4	4.0	－	－	
Fig.20-049	SK－007	天目碗	－	3.0	－	－	－	
Fig.20-050	SK－008	土師器　坏	(12.4)	(7.8)	2.4	糸切り	無	
Fig.20-051	SK－009	鬼瓦	－	－	－	－	－	
Fig.20-052	SK－010	土師器　小皿	(6.6)	(5.6)	1.0	糸切り	無	
Fig.20-053	SK－010	土師器　坏	(11.8)	(7.2)	2.8	糸切り	無	
Fig.20-054	SK－013	土師器　坏	(12.0)	(8.4)	(2.7)	糸切り	無	
Fig.20-055	SK－013	土師器　坏	(13.6)	(6.4)	(3.2)	糸切り	有	
Fig.21-056	SK－014	土師器　小皿	(8.6)	(6.0)	7.7	糸切り	無	
Fig.21-057	SK－014	土師器　坏	(12.8)	(8.8)	3.0	糸切り	無	
Fig.21-058	SK－014	土師器　坏	(13.6)	8.6	2.9	糸切り	有	
Fig.21-059	SK－014	土師器　坏	13.2	8.3	3.1	糸切り	無	
Fig.21-060	SK－014	陶磁器　碗	－	(6.8)	－	－	－	
Fig.21-061	SK－014	石製品	－	－	－	－	－	
Fig.21-062	SK－014	軒平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.21-063	SK－014	瓦製品	－	－	－	－	－	
Fig.21-064	SK－016	土師器再加工品	－	－	－	－	－	
Fig.21-065	SK－017	土師器　小皿	(7.4)	(5.4)	1.5	糸切り	有	
Fig.21-066	SK－017	土師器　坏	(12.0)	(7.4)	2.8	糸切り	無	
Fig.21-067	SK－021	土師器　小皿	(8.4)	(6.3)	1.2	糸切り	無	
Fig.21-068	SK－021	土師器　坏	(12.6)	(8.0)	2.9	糸切り	無	
Fig.21-069	SK－021	土師器　坏	(13.2)	(9.0)	2.7	糸切り	無	
Fig.21-070	SK－021	土師器　坏	13.2	9.0	3.0	糸切り	有	
Fig.21-071	SK－021	土師器　坏	13.0	8.4	2.9	糸切り	無	
Fig.21-072	SK－021	土師器　坏	12.8	8.4	2.9	糸切り	有	
Fig.21-073	SK－021	土師器　坏	13.4	9.0	3.0	糸切り	無	
Fig.21-074	SK－022	土師器　小皿	(9.8)	(8.4)	1.6	糸切り	無	
Fig.21-075	SK－022	土師器　坏	(14.6)	(9.2)	3.4	糸切り	無	
Fig.21-076	SK－024	白磁　碗(ベトナム)	－	(5.5)	－	－	－	
Fig.21-077	SK－025	土師器　小皿	(8.8)	(7.8)	1.3	糸切り	無	
Fig.21-078	SK－025	土師器　坏	(11.8)	8.0	2.4	糸切り	無	
Fig.21-079	SK－031	土師器　小皿	(8.0)	(6.6)	1.1	糸切り	無	
Fig.21-080	SK－031	土師器　小皿	(7.8)	(6.0)	1.7	糸切り	無	
Fig.21-081	SK－031	土師器　坏	(13.0)	(8.4)	2.8	糸切り	無	
Fig.21-082	SK－033	土師器　坏	(12.8)	(8.0)	2.6	糸切り	無	
Fig.21-083	SK－033	土師器　坏	(13.0)	(9.4)	2.9	糸切り	無	
Fig.21-084	SK－033	土師器　坏	(10.2)	(7.2)	2.9	糸切り	無	
Fig.21-085	SK－033	土師器　坏b	(13.0)	(7.4)	4.0	糸切り	無	
Fig.21-086	SK－033	瓦質鍋	(19.0)	－	－	－	－	
Fig.21-087	SK－034	白磁　碗	(14.0)	－	－	－	－	
Fig.21-088	SK－034	褐釉陶器	－	(8.4)	－	－	－	
Fig.21-089	SK－034	青白磁合子(身)	(2.3)	(3.6)	2.1	－	－	
Fig.21-090	SK－036	土師器　鍋	(36.0)	－	18.5	－	－	
Fig.22-091	SK－037	土師器　小皿	6.8	5.4	1.2	糸切り	有	
Fig.22-092	SK－037	同安窯系青磁　碗	16.2	－	－	－	－	

Tab. 2　93次調査出土遺物観察表 2

（括弧は復元値）cm

Fig. NO.	出土遺構	器種	口径	底部径	器高	切り離し	板状圧痕	備考
Fig.22-093	SK－037	同安窯系青磁　碗	16.0	－	－	－	－	
Fig.22-094	SK－037	同安窯系青磁　碗	－	4.2	－	－	－	
Fig.22-095	SK－037	土師器　小皿	9.3	7.8	0.9	糸切り	有	
Fig.22-096	SK－038	龍泉窯系青磁　碗	－	5.4	－	－	－	
Fig.22-097	SK－038	龍泉窯系青磁　碗	(15.9)	(4.8)	(7.4)	－	－	
Fig.22-098	SK－038	龍泉窯系青磁　碗	(14.2)	(4.8)	(5.6)	－	－	
Fig.22-099	SK－038	同安窯系青磁　碗	(14.6)	(4.2)	(6.1)	－	－	
Fig.22-100	SK－038	同安窯系青磁　平底皿	(10.4)	(5.0)	(2.4)	－	－	
Fig.22-101	SK－038	白磁　壷	(10.5)	－	－	－	－	
Fig.22-102	SK－038	陶器B群　長壷	－	(5.8)	－	－	－	
Fig.22-103	SK－038	中国陶器　鉢	(23.0)	－	－	－	－	
Fig.22-104	SK－039	青白磁　碗(中国)	－	4.8	－	－	－	
Fig.23-105	SP－012	土師器　小皿	(6.6)	(5.5)	1.1	糸切り	無	
Fig.23-106	SP－020	土師器　坏	(14.0)	(7.4)	3.0	糸切り	有	
Fig.23-107	SP－026	土師器　小皿	(5.6)	(3.4)	1.7	糸切り	無	
Fig.23-108	SP－026	朝鮮　壷	(6.4)	－	－	－	－	
Fig.23-109	SP－031	土師器　小皿	(8.3)	2.8	1.6	糸切り	無	
Fig.23-110	SP－031	朝鮮(李朝)碗	－	(6.4)	－	－	－	
Fig.23-111	SP－041	土師器　小皿	(7.8)	(5.9)	1.2	糸切り	無	
Fig.23-112	SP－041	土師器　小皿	(7.8)	(5.6)	1.6	糸切り	無	
Fig.23-113	SP－041	瓦質　蓋	(5.4)	－	0.6	－	－	
Fig.23-114	SP－043	黒褐釉　小壷	－	－	－	－	－	
Fig.23-115	SP－048	中国産陶器　壷	(7.8)	－	－	－	－	
Fig.23-116	SP－055	土師器　小皿	(7.2)	(4.8)	1.4	糸切り	無	
Fig.23-117	SP－055	土師器　小皿	(7.2)	(5.0)	1.4	糸切り	有	
Fig.23-118	SP－055	土師器　小皿	(7.4)	(6.0)	1.7	糸切り	無	
Fig.23-119	SP－055	土師器　坏	10.5	6.2	2.3	糸切り	有	内外面墨書アリ
Fig.23-120	SP－060	陶器A群　鉢	(19.7)	－	－	－	－	
Fig.23-121	SP－060	染付　碗	(13.7)	－	－	－	－	
Fig.23-122	SP－060	染付　碗	－	－	－	－	－	
Fig.23-123	SP－403	土師器　坏	(11.9)	(8.2)	3.0	糸切り	無	
Fig.23-124	SP－403	同安窯系青磁　平底皿	(10.8)	(5.0)	2.3	－	－	
Fig.23-125	SP－403	同安窯系青磁　碗	(16.0)	－	－	－	－	
Fig.23-126	SP－403	同安窯系青磁　碗	(17.5)	－	－	－	－	
Fig.23-127	SP－403	瓦質　擂鉢	(29.6)	(11.8)	10.9	－	－	
Fig.23-128	SP－413	陶器A群　壷	(17.0)	－	－	－	－	
Fig.23-129	SP－420	土師器　小皿	(8.8)	(6.0)	1.2	糸切り	無	
Fig.23-130	SP－431	土師器　小皿	(8.6)	(5.8)	1.4	糸切り	無	
Fig.23-131	SP－436	土師器　小皿	7.6	6.5	1.2	糸切り	無	
Fig.24-132	SP－440	李朝　碗	(18.0)	－	－	－	－	
Fig.24-133	SP－445	土師器　小皿	(8.2)	(7.6)	0.9	糸切り	有	
Fig.24-134	SP－445	土師器　坏	(13.2)	(9.6)	2.4	糸切り	無	
Fig.24-135	SP－445	陶器A群　蓋	(15.8)	－	－	－	－	
Fig.24-136	SP－445	陶器A群　軍持	－	(9.0)	－	－	－	
Fig.24-137	SP－445	瓦質擂鉢	(14.8)	－	－	－	－	
Fig.24-138	SP－454	土師器　坏	(11.8)	(7.3)	2.8	糸切り	無	
Fig.24-139	SP－454	陶器　鉢	－	－	－	－	－	
Fig.24-140	SP－454	陶器　壷	－	－	－	－	－	
Fig.24-141	SP－457	土師器　小皿	8.0	6.4	1.1	糸切り	有	
Fig.24-142	SP－457	土師器　小皿	(8.2)	(7.4)	1.4	糸切り	有	
Fig.24-143	SP－457	陶器B群　鉢	(21.8)	－	－	－	－	
Fig.32-144	SK－047	土師器　小皿	(7.6)	5.4	1.4	糸切り	無	
Fig.32-145	SK－047	土師器　小皿	(7.4)	(5.8)	1.2	糸切り	無	
Fig.32-146	SK－047	土師器　坏	(12.8)	(8.4)	2.8	糸切り	無	
Fig.32-147	SK－053	土師器　小皿	7.6	5.4	1.5	糸切り	無	
Fig.32-148	SK－053	土師器　小皿	(8.2)	5.8	1.6	糸切り	無	
Fig.32-149	SK－053	天目碗	－	(4.4)	－	－	－	
Fig.32-150	SK－053	伊万里染付　皿	－	4.8	－	－	－	
Fig.32-151	SK－053	染付　碗	－	(7.0)	－	－	－	
Fig.32-152	SK－054	土師器　坏	12.2	7.9	2.9	糸切り	無	
Fig.32-153	SK－056	土師器　小皿	(6.4)	(4.2)	1.9	糸切り	無	
Fig.32-154	SK－056	土師器　坏	(12.8)	(8.0)	2.8	糸切り	無	
Fig.32-155	SK－056	明染付　皿	(18.2)	(9.0)	3.4	－	－	
Fig.32-156	SK－056	龍泉窯系青磁　大鉢	(26.2)	－	－	－	－	
Fig.33-157	SK－066	土師器　小皿	(7.4)	(5.8)	1.4	糸切り	無	
Fig.33-158	SK－066	土師器　小皿	(9.0)	(6.4)	1.6	－	有	
Fig.33-159	SK－067	土錘	－	－	－	－	－	残存長5.1
Fig.33-160	SK－068	土師器　小皿	8.0	6.1	1.4	糸切り	無	
Fig.33-161	SK－068	土師器　小皿	(7.4)	(5.8)	1.4	糸切り	無	
Fig.33-162	SK－068	土師器　坏	(13.2)	(10.0)	2.7	糸切り	無	
Fig.33-163	SK－068	土師器　坏	(13.4)	(9.8)	2.6	糸切り	無	
Fig.33-164	SK－068	土師器　坏	(12.6)	(9.6)	2.6	糸切り	無	
Fig.33-165	SK－068	土師器　坏	(12.4)	(8.8)	2.7	糸切り	無	
Fig.33-166	SK－068	土師器　坏	(12.4)	(8.0)	2.7	糸切り	有	
Fig.33-167	SK－068	土師器　坏	(12.8)	(9.2)	2.8	糸切り	無	
Fig.33-168	SK－068	土師器　坏	(12.8)	(9.2)	3.2	糸切り	無	
Fig.33-169	SK－068	土師器　坏	(13.8)	(10.0)	2.7	糸切り	有	
Fig.33-170	SK－068	土師器　坏	(12.8)	(8.4)	2.7	糸切り	無	
Fig.33-171	SK－068	土師器　坏	(11.2)	(9.0)	3.0	糸切り	無	
Fig.33-172	SK－068	滑石製品	－	－	－	－	－	(残存)長12.8、幅8.2、厚0.9
Fig.33-173	SK－070	土師器　小皿	(8.8)	(7.2)	(1.3)	糸切り	有	
Fig.33-174	SK－070	土師器　坏	(12.2)	(8.2)	(2.3)	糸切り	無	
Fig.33-175	SK－078	土師器　小皿	7.6	5.9	1.3	糸切り	－	
Fig.33-176	SK－078	不明陶器	－	(7.0)	－	－	－	
Fig.33-177	SK－079	土師器　小皿	8.2	6.4	1.3	糸切り	有	
Fig.33-178	SK－079	土師器　坏	12.6	8.7	2.9	糸切り	有	
Fig.33-179	SK－079	土師器　坏	(13.0)	(9.0)	(3.1)	糸切り	有	

Tab. 3　93次調査出土遺物観察表 3

（括弧は復元値）cm

Fig. NO.	出土遺構	器種	口径	底部径	器高	切り離し	板状圧痕	備考
Fig.33-180	SK－079	陶器B群　四耳壷	(8.6)	－	－	－	－	
Fig.33-181	SK－085	同安窯系青磁　碗	16.6	4.2	6.9	－	－	
Fig.33-182	SK－085	白磁　碗	－	(4.4)	－	－	－	
Fig.33-183	SK－085	陶器　壷	(10.4)	－	－	－	－	
Fig.33-184	SK－085	陶器A群　盤	(25.0)	(17.4)	(8.2)	－	－	
Fig.33-185	SK－087	土師器　小皿	(8.8)	(6.4)	1.8	糸切り	無	
Fig.33-186	SK－087	龍泉窯系青磁　坏	(12.4)	－	－	－	－	
Fig.33-187	SK－091	土師器　小皿	(8.4)	(5.0)	1.5	糸切り	無	
Fig.33-188	SK－091	土師器　小皿	(8.8)	(6.4)	1.8	糸切り	無	
Fig.33-189	SK－091	土師器　坏	12.6	7.9	2.8	糸切り	無	
Fig.33-190	SK－091	土師器　坏	(12.4)	(8.2)	3.3	糸切り	無	
Fig.33-191	SK－091	土師器　坏	(12.8)	(8.2)	2.8	糸切り	無	
Fig.33-192	SK－091	土師器　坏	(13.0)	(9.7)	2.8	糸切り	無	
Fig.33-193	SK－091	天目　碗	(10.6)	－	－	－	－	
Fig.33-194	SK－091	龍泉窯系青磁　碗	(17.0)	(7.0)	6.5	－	－	
Fig.34-195	SK－095	青磁　碗	－	－	－	－	－	
Fig.34-196	SK－096	同安窯系青磁　碗	(16.0)	－	－	－	－	
Fig.34-197	SK－096	羽口？	－	－	－	－	－	残存長10.4
Fig.34-198	SK－098	土師器　坏	(13.4)	(9.6)	2.4	糸切り	無	
Fig.34-199	SK－098	土師器　坏	(12.2)	(8.6)	2.3	糸切り	無	
Fig.34-200	SK－098	土師器　坏	(15.0)	(12.4)	2.6	糸切り	有	
Fig.34-201	SK－100	土師器　小皿	(7.4)	(5.6)	1.4	糸切り	無	
Fig.34-202	SK－100	土師器　坏	(13.0)	(9.8)	2.4	糸切り	無	
Fig.34-203	SK－100	土師器　坏	12.8	8.4	2.5	糸切り	無	
Fig.34-204	SK－100	土師器　坏	12.6	10.0	2.5	糸切り	有	
Fig.34-206	SK－103	土師器　小皿	7.9	5.6	1.2	糸切り	有	
Fig.34-207	SK－104	土師器　小皿	(8.3)	(5.6)	1.4	糸切り	無	
Fig.34-208	SK－104	土師器　小皿	(7.8)	(5.4)	1.3	糸切り	無	
Fig.34-209	SK－104	土師器　小皿	(7.7)	(6.4)	1.2	糸切り	有	
Fig.34-210	SK－104	土師器　小皿	(8.2)	(6.4)	1.2	糸切り	無	
Fig.34-211	SK－104	土師器　小皿	(8.2)	(7.0)	1.2	糸切り	無	
Fig.34-212	SK－104	土師器　小皿	8.0	6.0	1.3	糸切り	無	
Fig.34-213	SK－104	土師器　小皿	(8.0)	(5.0)	1.3	糸切り	無	
Fig.34-214	SK－104	土師器　小皿	(8.4)	(5.9)	1.6	糸切り	無	
Fig.34-215	SK－104	土師器　小皿	(8.4)	(6.8)	1.4	糸切り	無	
Fig.34-216	SK－104	土師器　坏	(12.4)	(8.6)	2.6	糸切り	有	
Fig.34-217	SK－104	土師器　坏	(12.4)	(8.4)	2.6	糸切り	無	
Fig.34-218	SK－104	土師器　坏	(12.0)	(7.4)	3.2	糸切り	無	
Fig.34-219	SK－104	土師器　坏	(13.0)	(9.3)	2.6	糸切り	無	
Fig.34-220	SK－104	土師器　坏	(12.2)	(7.6)	2.7	糸切り	無	
Fig.34-221	SK－104	土師器　坏	(12.0)	(8.2)	2.5	糸切り	無	
Fig.34-222	SK－104	土師器　坏	(11.8)	(8.1)	3.2	糸切り	有	
Fig.34-223	SK－104	土師器　坏	(13.4)	(9.6)	2.6	糸切り	無	
Fig.34-224	SK－104	土師器　坏	(11.8)	(8.6)	2.3	糸切り	有	
Fig.34-225	SK－104	土師器　坏	(11.8)	(8.2)	2.9	糸切り	無	
Fig.34-226	SK－104	土師器　坏	12.6	9.6	2.8	糸切り	有	
Fig.34-227	SK－104	白磁　口ハゲ　坏	(10.8)	(5.5)	2.9	－	－	
Fig.34-228	SK－104	青白磁　蓋	－	－	－	－	－	最大径8.8
Fig.34-229	SK－104	龍泉窯系青磁　碗	(16.0)	－	－	－	－	
Fig.34-230	SK－105（北側）	同安窯系青磁　平底皿	(10.2)	4.9	2.4	－	－	
Fig.34-231	SK－106	土師器　小皿	7.6	5.8	1.5	糸切り	無	
Fig.34-232	SK－106	土師器　小皿	(7.8)	4.0	1.7	糸切り	無	
Fig.34-233	SK－106	土師器　坏	12.4	8.6	2.6	糸切り	有	
Fig.34-234	SK－107	土師器　坏	15.0	9.3	2.7	糸切り	有	
Fig.34-235	SK－109	土師器　坏	(11.0)	(6.8)	2.3	糸切り	無	
Fig.34-236	SK－109	土師器　坏	(12.4)	(7.4)	3.0	糸切り	無	
Fig.35-237	SP－138	輸入陶器　鉢	(38.4)	(8.2)	(22.8)	－	－	
Fig.35-238	SP－139	土師器　小皿	(6.0)	(4.6)	1.0	糸切り	無	
Fig.35-239	SP－145	軒平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.35-240	SP－195	土師器　小皿	(8.6)	(7.2)	1.6	糸切り	有	
Fig.35-241	SP－256	土師器　小皿	6.8	5.2	1.4	糸切り	無	
Fig.35-242	SP－256	土師器　小皿	5.6	4.3	1.7	糸切り	無	
Fig.35-243	SP－260	白磁　壷	(9.0)	－	－	－	－	
Fig.35-244	SP－273	土師器　小皿	7.8	5.5	1.6	糸切り	有	
Fig.35-245	SP－273	土師器　坏	12.4	8.4	2.9	糸切り	有	
Fig.35-246	SP－273	土師器　坏	(12.8)	(9.2)	2.8	糸切り	無	
Fig.35-247	SP－273	土師器　坏	(13.2)	(8.4)	3.0	糸切り	有	
Fig.35-248	SP－273	土師器　高坏	－	(11.6)	－	－	－	
Fig.35-249	SP－273	白磁　碗	(16.8)	－	－	－	－	
Fig.35-250	SP－278	白磁　碗(枢府)	－	－	－	－	－	
Fig.35-251	SP－308	土師器　坏	(12.6)	(7.6)	2.9	糸切り	無	
Fig.35-252	SP－308	土師器　坏	(11.8)	(8.1)	2.9	糸切り	無	
Fig.35-253	SP－308	土師器　坏	(12.6)	(8.7)	2.7	糸切り	有	
Fig.35-254	SP－312	土師器　小皿	7.7	5.6	1.2	糸切り	無	
Fig.35-255	SP－312	土師器　小皿	(7.4)	(5.6)	1.3	糸切り	無	
Fig.35-256	SP－312	土師器　坏	(11.0)	(7.1)	2.3	糸切り	有	
Fig.35-257	SP－312	土師器　坏	12.4	9.6	2.6	糸切り	有	
Fig.35-258	SP－312	土師器　坏	(14.0)	(9.2)	3.0	糸切り	無	
Fig.35-259	SP－313	土師器　小皿	(7.9)	(5.4)	1.3	糸切り	無	
Fig.35-260	SP－313	土師器　坏	(11.4)	(8.1)	2.4	糸切り	有	
Fig.35-261	SP－313	土師器　坏	(12.8)	(8.6)	2.6	糸切り	無	
Fig.35-262	SP－314	土師器　小皿	(8.2)	(6.7)	1.3	糸切り	有	
Fig.35-263	SP－314	土師器　坏	(12.0)	(9.0)	3.1	糸切り	有	
Fig.35-264	SP－314	土師器　坏	(12.0)	(8.6)	2.6	糸切り	有	
Fig.35-265	SP－317	陶器B群　壷	(6.2)	－	－	－	－	
Fig.35-266	SP－328	陶器B群　長瓶	(5.0)	－	－	－	－	
Fig.35-267	SP－331	土師器　小皿	8.3	6.6	1.3	糸切り	無	

Tab. 4　93次調査出土遺物観察表 4

（括弧は復元値）cm

Fig. NO.	出土遺構	器種	口径	底部径	器高	切り離し	板状圧痕	備考
Fig.35-268	SP－331	土師器　小皿	(8.4)	(6.2)	1.3	糸切り	有	
Fig.35-269	SP－331	土師器　小皿	8.9	7.5	1.4	糸切り	無	
Fig.35-270	SP－331	土師器　坏	12.4	8.0	2.4	糸切り	有	
Fig.35-271	SP－331	土師器　坏	(12.4)	(7.0)	2.5	糸切り	有	
Fig.35-272	SP－331	土師器　坏	(12.8)	(8.3)	2.5	糸切り	無	
Fig.35-273	SP－331	土師器　坏	(12.9)	(9.0)	2.7	糸切り	有	
Fig.36-274	SP－333	土師器　小皿	7.8	5.0	1.6	糸切り	無	
Fig.36-275	SP－333	土師器　小皿	(9.8)	(8.2)	1.4	糸切り	無	
Fig.36-276	SP－333	土師器　小皿	(9.6)	(7.6)	2.0	糸切り	無	
Fig.36-277	SP－333	朝鮮(李朝)象嵌坏	(9.4)	－	－	－	－	
Fig.36-278	SP－334	土師器　小皿	8.2	6.1	1.7	糸切り	無	
Fig.36-279	SP－334	土師器　小皿	8.0	5.2	1.9	糸切り	有	
Fig.36-280	SP－334（上層）	土師器　小皿	(9.2)	(6.8)	1.7	糸切り	無	
Fig.36-281	SP－334（上層）	土師器　小皿	(8.8)	(6.4)	1.3	糸切り	無	
Fig.36-282	SP－334	土師器　小皿	(8.6)	(6.2)	1.7	糸切り		
Fig.36-283	SP－334（上層）	土師器　坏	(13.0)	(9.8)	2.7	糸切り	無	
Fig.36-284	SP－334（上層）	土師器　坏	(12.4)	(8.9)	2.5	糸切り	無	
Fig.36-285	SP－334	土師器　坏	(13.2)	(8.4)	2.9	糸切り	有	
Fig.36-286	SP－334（上層）	土師器　坏	(13.8)	(9.6)	2.5	糸切り	無	
Fig.36-287	SP－334	土師器　坏	(13.4)	(9.3)	2.8	糸切り	無	
Fig.36-288	SP－334（上層）	白磁　（柩府）	－	－	－	－	－	
Fig.36-289	SP－334（上層）	白磁　碗	－	(5.2)	－	－	－	
Fig.36-290	SP－334	同安窯系青磁　碗	－	(4.2)	－	－	－	
Fig.36-291	SP－334	李朝(高麗)象嵌壷	－	－	－	－	－	
Fig.36-292	SP－334（上層）	陶器　擂鉢	－	－	－	－	－	
Fig.36-293	SP－503	土師器　小皿	8.5	6.5	1.4	糸切り	有	
Fig.36-294	SP－503	土師器　坏	(12.2)	(7.8)	2.6	糸切り	有	
Fig.36-295	SP－508	土師器　小皿	(7.0)	(5.1)	1.8	糸切り	有	
Fig.36-296	SP－515	土師器　小皿	7.9	6.2	1.3	糸切り	有	
Fig.36-297	SP－515	土師器　小皿	(7.6)	(5.4)	1.4	糸切り	有	
Fig.36-298	SP－515	土師器　小皿	(8.4)	(6.7)	1.1	糸切り	有	
Fig.36-299	SP－515	土師器　小皿	(8.8)	(7.0)	1.2	糸切り	有	
Fig.36-300	SP－515	土師器　坏	－	(8.2)	－	糸切り	有	
Fig.36-301	SP－516	土師器　小皿	(8.4)	(6.7)	1.2	糸切り	無	
Fig.36-302	SP－516	土師器　小皿	(7.6)	(6.2)	1.2	糸切り	無	
Fig.36-303	SP－516	土師器　坏	(12.6)	(9.0)	2.3	糸切り	有	
Fig.36-304	SP－516	土師器　坏	(13.4)	(9.6)	3.1	糸切り	無	
Fig.36-305	SP－534	土師器　小皿	(7.8)	(6.5)	1.1	糸切り	有	
Fig.36-306	SP－540	同安窯系青磁　碗	－	(4.2)	－	－	－	
Fig.36-307	SP－540	同安窯系青磁　碗	(16.4)	－	－	－	－	
Fig.36-308	SP－545	土師器　小皿	(7.6)	(6.5)	1.2	糸切り	無	
Fig.36-309	SP－545	土師器　小皿	(7.8)	(5.8)	1.3	糸切り	有	
Fig.36-310	SP－545	陶器B群　長瓶	(7.0)	－	－	－	－	
Fig.36-311	SP－545	陶器B群　壷	(8.0)	－	－	－	－	
Fig.36-312	SP－545	白磁　壷	(11.0)	－	－	－	－	
Fig.36-313	SP－569	土師器　小皿	(9.3)	(7.2)	1.4	糸切り	無	
Fig.36-314	SP－569	土師器　坏	(13.0)	(8.3)	2.8	糸切り	無	
Fig.36-315	SP－569	同安窯系青磁　碗	－	3.2	－	－	－	
Fig.36-316	SP－569	同安窯系青磁　平底皿	(10.8)	(5.8)	2.5	－	－	
Fig.36-317	SP－572	土師器　小皿	(9.2)	(6.8)	1.4	糸切り	無	
Fig.36-318	SP－572	白磁　碗	(17.2)	－	－	－	－	
Fig.37-319	SP－575	土師器　高台付皿	－	3.5	－	－	－	
Fig.37-320	SP－576	土師器　小皿	(7.2)	(5.6)	1.2	糸切り	有	
Fig.37-321	SP－576	土師器　坏	(13.8)	(10.2)	2.6	糸切り	有	
Fig.37-322	SP－577	土師器　坏	(13.2)	(8.9)	2.7	－	－	
Fig.37-323	SP－577	土師器　坏	(14.0)	(10.0)	3.1	糸切り	無	
Fig.37-324	SP－577	土師器　坏	(12.6)	(8.0)	2.7	糸切り	無	
Fig.37-325	SP－577	土師器　坏	(12.4)	(4.6)	3.3	糸切り	無	
Fig.37-326	SP－577	陶器　擂鉢	(25.8)	－	－	不明	不明	雲母を多く含む
Fig.37-327	SP－591	土師器　小皿	(8.0)	(7.5)	1.4	糸切り	無	
Fig.37-328	SP－591	土師器　小皿	(9.2)	(6.8)	1.3	糸切り	無	
Fig.37-329	SP－591	土師器　小皿	(9.2)	(7.6)	1.0	糸切り	無	
Fig.37-330	SP－591	土師器　小皿	(10.0)	(8.8)	1.2	糸切り	有	
Fig.37-331	SP－591	土師器　坏	(12.3)	(9.8)	2.1	糸切り	無	
Fig.37-332	SP－591	白磁　高台付皿	(9.3)	(3.2)	2.2	－	－	
Fig.37-333	SP－591	白磁　碗	(16.0)	－	－	－	－	
Fig.37-334	SP－591	青磁　碗	(13.8)	－	－	－	－	
Fig.37-335	SP－591	朝鮮(高麗)象嵌碗	－	－	－	－	－	
Fig.37-336	SP－591	瓦質　擂鉢	(26.7)	－	－	－	－	
Fig.37-337	SP－591	砥石	－	－	－	－	－	残存長10.2、幅3.3
Fig.37-338	SP－596	土師器　小皿	(8.0)	(5.7)	1.1	糸切り	無	
Fig.37-339	SP－600	土師器　小皿	8.3	6.0	1.5	糸切り	無	
Fig.37-340	SP－600	土師器　小皿	(8.8)	(8.1)	1.7	糸切り	無	
Fig.38-341	SD－02	土師器　小皿	(8.2)	(5.0)	(1.6)	糸切り	有	
Fig.38-342	SD－04（南側）	土師器　坏	(12.2)	(8.6)	3.0	糸切り	無	
Fig.38-343	SD－04（北側）	土師器　坏	(12.8)	7.4	3.1	糸切り	無	
Fig.38-344	SD－05	土師器　小皿	(8.8)	(7.2)	1.1	糸切り	無	
Fig.38-345	SD－05	土師器　小皿	(9.0)	(7.2)	1.4	糸切り	有	
Fig.38-346	SD－05	土師器　小皿	(8.4)	(6.0)	1.2	糸切り	無	
Fig.38-347	SD－05	土師器　坏	(11.6)	(7.8)	2.8	糸切り	有	
Fig.38-348	SD－05	土師器　坏	(11.6)	(8.4)	2.3	糸切り	有	
Fig.38-349	SD－05	土師器　坏	(12.4)	(9.0)	2.8	糸切り	無	
Fig.42-350	SE－01（石組み内）	土師器　小皿	(7.2)	(5.8)	1.1	糸切り	無	
Fig.42-351	SE－01	土師器　小皿	(7.4)	(5.7)	1.5	糸切り	無	
Fig.42-352	SE－01（東側掘りかた）	土師器　小皿	7.0	4.9	2.0	糸切り	無	
Fig.42-353	SE－01	土師器　小皿	7.6	5.9	1.7	糸切り	無	
Fig.42-354	SE－01（東側掘りかた）	土師器　小皿	(8.0)	(5.6)	1.6	糸切り	無	

Tab. 5　93次調査出土遺物観察表 5

（括弧は復元値）cm

Fig. NO.	出土遺構	器種	口径	底部径	器高	切り離し	板状圧痕	備考
Fig.42-355	SE－01（石組み内）	土師器　坏	－	(8.8)	－	糸切り	無	
Fig.42-356	SE－01（東側掘りかた）	土師器　坏	－	(8.8)	－	糸切り	有	
Fig.42-357	SE－01（石組み内）	土師器　坏	(12.2)	(7.8)	2.8	糸切り	無	
Fig.42-358	SE－01（東側掘りかた）	土師器　坏	(12.0)	(8.0)	(2.9)	糸切り	無	
Fig.42-359	SE－01（石組み内）	土師器　坏	(13.2)	(9.2)	2.8	糸切り	有	
Fig.42-360	SE－01（石組み内）	土師器　坏	－	(8.6)	－	糸切り	無	
Fig.42-361	SE－01（東側掘りかた）	土師器　坏	(12.2)	(9.4)	2.5	糸切り	無	
Fig.42-362	SE－01	土師器　坏	(10.4)	－	－	－	－	
Fig.42-363	SE－01（石組み内）	土師器　坏	(12.4)	－	－	－	－	
Fig.42-364	SE－01（石組み内）	土師器　坏	(13.2)	－	－	－	－	
Fig.42-365	SE－01（石組み内上部）	明代染付　碗	(11.8)	－	－	－	－	
Fig.42-366	SE－01	陶器　碗	7.8	3.5	5.3	－	－	
Fig.42-367	SE－01	白磁　高台付皿	－	3.0	－	－	－	「歸」墨書
Fig.42-368	SE－01（裏ゴメ）	陶器　擂鉢	－	(12.4)	－	－	－	
Fig.42-369	SE－01	染付　碗	－	3.8	－	－	－	
Fig.42-370	SE－01（石組み内上部）	瀬戸　高台付皿	(12.2)	(5.8)	2.4	－	－	
Fig.42-371	SE－01（東側掘りかた）	青磁　鉢	－	(14.4)	－	－	－	
Fig.42-372	SE－01（上面）	土錘	－	－	－	－	－	
Fig.42-375	SE－01	五輪塔の空輪　風輪部	－	－	－	－	－	
Fig.43-376	SE－01（裏ゴメ）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-377	SE－01（上面）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-378	SE－01（裏ゴメ）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-379	SE－01（掘りかた）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-380	SE－01（裏ゴメ）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-381	SE－01（石組み内上部）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-382	SE－01（裏ゴメ）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-383	SE－01（石組み内上部）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-384	SE－01（石組み内上部）	軒平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-385	SE－01（上面）	軒平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.43-386	SE－01（石組み内上部）	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.44-387	SE－01（石組み下層）	平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.44-388	SE－01（裏ゴメ）	丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.44-389	SE－01（裏ゴメ）	平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.44-390	SE－01	井筒	－	－	－	－	－	
Fig.45-391	SE－01	平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.45-392	SE－01	染付　鉢	(14.8)	－	－	－	－	
Fig.45-393	SE－01	明代染付　鉢	(25.0)	－	－	－	－	
Fig.45-394	SE－01	朝鮮象嵌の碗	20.0	6.6	12.4	－	－	
Fig.45-395	SE－01	染付　皿	－	(5.4)	－	－	－	
Fig.45-396	SE－01	染付　皿	10.4	4.2	2.4	－	－	
Fig.45-397	SE－01	染付　小碗	(6.4)	(3.6)	4.9	－	－	
Fig.45-398	SE－01	染付　小碗	6.6	3.0	5.1	－	－	
Fig.45-399	SE－01	染付　碗	－	－	－	－	－	
Fig.45-400	SE－01	平瓦	－	－	－	－	－	
Fig.47-401	遺物包含層	白磁壷	(8.2)	－	－	－	－	
Fig.47-402	遺物包含層	青白磁合子蓋	(8.4)	－	－	－	－	
Fig.47-403	遺物包含層	龍泉窯系青磁　碗	(15.8)	－	－	－	－	
Fig.47-404	遺物包含層	龍泉窯系青磁　杯	－	(4.8)	－	－	－	
Fig.47-405	遺物包含層	同安窯系青磁　平底皿	10.0	4.7	2.1	－	－	
Fig.47-406	遺物包含層	同安窯系青磁　平底皿	(10.6)	(5.4)	2.0	－	－	
Fig.47-407	遺物包含層	同安窯系青磁　碗	(14.7)	3.6	7.0	－	－	
Fig.47-408	遺物包含層	同安窯系青磁　碗	(16.0)	(4.0)	6.1	－	－	
Fig.47-409	遺物包含層	同安窯系青磁　碗	(15.8)	(4.3)	6.6	－	－	
Fig.47-410	遺物包含層	陶器その他群　壷	－	－	－	－	－	
Fig.47-411	遺物包含層	陶器A群　小口瓶	－	(7.2)	－	－	－	
Fig.47-412	B区包含層掘削	滑石製錘	－	－	－	－	－	
Fig.47-413	遺物包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.47-414	遺物包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.47-415	遺物包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.47-416	遺物包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.47-417	遺物包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.47-418	遺物包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.48-419	包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.48-420	包含層	軒丸瓦	－	－	－	－	－	
Fig.48-421	北側遺構検出	明代染付　碗	(12.6)	(6.2)	6.9	－	－	
Fig.48-422	東側遺構検出時	伊万里染付　碗	13.8	7.6	4.2	－	－	最大径　14.0
Fig.48-423	東側遺構検出時	伊万里染付　碗	10.5	4.2	5.1	－	－	最大径　10.9
Fig.48-424	東側遺構検出時	染付　碗	10.6	－	－	－	－	最大径　11.0
Fig.48-425	東側遺構検出時	染付　碗	10.6	－	－	－	－	最大径　11.4
Fig.48-426	東側遺構検出時	染付　蓋	10.2	8.0	4.5	－	－	最大径　10.6
Fig.48-427	B区排土除去	伊万里染付　碗	13.4	8.0	4.3	－	－	
Fig.48-428	第2面遺構検出時	象嵌　碗	－	(6.1)	－	－	－	
Fig.48-429	遺構検出時	象嵌　碗	(10.6)	(5.0)	3.7	－	－	
Fig.48-430	地下室下砂層	象嵌　杯	(10.2)	(4.8)	3.7	－	－	
Fig.48-431	北側遺構検出時	瀬戸　おろし皿	(13.6)	－	－	－	－	
Fig.48-432	北側遺構検出時	陶器　壷	(27.4)	－	－	－	－	
Fig.48-433	包含層	砥石	－	－	－	－	－	
Fig.49-434	トレンチ調査　上層	白磁　碗	(14.4)	－	－	－	－	
Fig.49-435	トレンチ調査　上層	白磁　碗	(15.2)	－	－	－	－	
Fig.49-436	トレンチ調査　上層	同安窯系青磁　碗	－	(4.5)	－	－	－	
Fig.49-437	トレンチ調査　上層	陶器A群　盤	(26.6)	－	－	－	－	
Fig.49-438	トレンチ調査　上層	陶器C群　擂鉢	－	－	－	－	－	
Fig.49-439	トレンチ調査　下層	白磁　碗	－	－	－	－	－	
Fig.49-440	トレンチ調査　下層	陶器C群　無釉盤口水注	(9.0)	－	－	－	－	

Tab. 6　博多93次調査出土貨幣一覧

挿図番号	遺構番号	銭貨名	外形(cm)	外縁厚(cm)	初鋳年代	時代
Fig.46-1	ＳＫ－０２	□□□寶	測定不能	測定不能	不明	不明
Fig.46-2	ＳＫ－２７	紹聖元寶	2.42	0.14	1094年	北宋
Fig.46-3	ＳＫ－３４	元豊通寶	2.42	0.13	1078年	北宋
Fig.46-4	ＳＫ－３４	元祐通寶	2.45	0.13	1086年	北宋
Fig.46-5	ＳＫ－３９	聖宋元寶	2.43	0.13	1101年	北宋
Fig.46-6	ＳＫ－１０５	政和通寶	2.43	0.13	1111年	北宋
Fig.46-7	ＳＫ－１０５	開元通寶	2.43	0.13	621年	唐
Fig.46-8	ＳＫ－１１０	元豊通寶	2.43	0.13	1078年	北宋
Fig.46-9	ＳＥ－０７井戸枠内	治平元寶	2.42	0.13	1064年	北宋
Fig.46-10	ＳＰ－１９	聖宋元寶	2.48	0.13	1101年	北宋
Fig.46-11	ＳＰ－１９	洪武通寶	2.31	0.15	1368年	明
Fig.46-12	ＳＰ－１７２	元豊通寶	2.54	0.14	1078年	北宋
Fig.46-13	ＳＰ－１７２	皇宋通寶	2.48	0.13	1039年	北宋
Fig.46-14	ＳＰ－３３４上面	皇宋通寶	2.54	0.11	1039年	北宋
Fig.46-15	ＳＰ－４０３	元豊通寶	2.45	0.14	1078年	北宋
Fig.46-16	ＳＰ－５７４	元豊通寶	2.45	0.13	1078年	北宋
Fig.46-17	ＳＫ－１１０	開元通寶	2.35	0.13	621年	唐
Fig.46-18	ＳＫ－１１０	治平元寶	2.42	0.14	1064年	北宋
Fig.46-19	ＳＫ－１１０	紹聖元寶	2.42	0.15	1094年	北宋
Fig.46-20	ＳＫ－１１０	元豊通寶	2.47	0.13	1078年	北宋
Fig.46-21	ＳＫ－１１０	元豊通寶	2.54	0.13	1078年	北宋
Fig.46-22	ＳＫ－１１０	熙寧元寶	2.44	測定不能	1068年	北宋
Fig.46-23	ＳＫ－１１０	元祐通寶	2.47	0.13	1086年	北宋
Fig.46-24	Ｂ区包含層掘削	皇宋通寶	2.50	0.12	1039年	北宋
Fig.46-25	南側遺構検出時	政和通寶	2.52	0.14	1111年	北宋
Fig.46-26	Ａ区東側第２面上面	政和通寶	2.50	0.13	1111年	北宋
Fig.46-27	排土除去Ｂ区	至道元寶	2.48	0.13	995年	北宋
Fig.46-28	排土除去Ｂ区	元豊通寶	2.42	0.14	1078年	北宋
Fig.46-29	排土除去Ｂ区	大觀通寶	2.46	0.14	1107年	北宋
Fig.46-30	排土除去Ｂ区	皇宋通寶	2.52	0.12	1039年	北宋
Fig.46-31	排土除去Ｂ区	天聖元寶	2.50	0.14	1023年	北宋
Fig.46-32	攪乱	元祐通寶	2.45	0.13	1086年	北宋
Fig.46-33	表採	寛永通寶	2.53	0.13	1626年	江戸
Fig.46-34	表採	熙寧元寶	2.48	0.13	1068年	北宋
Fig.46-35	表採	解読不明	2.37	0.13	不明	不明
Fig.46-36	表採	元符通寶	2.43	0.13	1098年	北宋
Fig.46-37	表採	熙寧元寶	2.47	0.14	1068年	北宋

Ⅲ　博多遺跡群93次発掘調査地の地形と地質

西南学院大学　磯　　望

調査地の地形に関する従来の知見

博多遺跡群は、縄文海進の時期に一度海域となった地域であるが、縄文時代晩期以降、那珂川河口に形成された沿岸州や砂丘を核として陸化した三角州平野の上に展開している（下山1989）。現在の地表の起伏は、この平野を人為的に２ｍ前後ほど盛土した結果形成されたものである。磯ほか（1991）は、博多遺跡群の分布する地表面に海抜５～６ｍに達する３列の微高地を認め、それらが沿岸州を核として形成された３列の砂丘の高まりに対応することを明らかにした。

調査地点は、博多遺跡群北西部にあり、３列の微高地のうち最も博多湾寄りに位置し11世紀末頃に陸化した「息の濱」（おきのはま）の南部に隣接して位置している。調査地の地表は海抜高度5.1mであるが、最古の遺構面は海抜高度2.2m前後の位置に出現する。調査地点の地図上の位置は図１に示したように「息の濱」の形成過程を考える上でも重要な地点である（福岡市教育委員会，1992，博多30）。またこの地点は、福岡市教育委員会（1992,博多32）で報告された石積遺構ＳＸ32から100mほど内陸側の位置にあり、石積遺構に示された13世紀末の海岸線との関係についても検討することも必要であろう。以上の観点から、調査地では、遺構面の下を更に２ｍほど掘削したトレンチ内部を調査して、遺構成立以前の地形地質環境について検討することとした。

調査地のトレンチの地質断面

調査地点の近傍では、ボーリング調査によって、縄文海進期の海成堆積層である博多湾シルト層が海抜－5m程度の位置まで堆積し、その上に海浜砂などから構成される箱崎砂層が約７ｍ程の層厚で堆積していることが明らかになっている。調査地のトレンチ断面では、箱崎砂層上部２ｍほどを観察することができた。このトレンチの断面図（図２）と写真を示しておく。

調査地点の地質断面（図２）から、遺構を形成する以前に自然堆積した箱崎砂層の内部に、数種類の方向の異なる斜層理が発達していることが読みとれる。断面図の最下部（海抜高度１ｍ未満）に発達する斜層理は、走行Ｎ40°Ｅ傾斜35°Ｓ方向を示している。この斜層理は傾斜が大きくしかも一定方向に配列しているところから三角州前置層堆積物の斜層理と考えられる。しかし、斜層理の傾斜方向から判断される水流の方向は北西から南東方向となり、現在の那珂川の流向とは逆方向を示すことになる。この事実からは、この砂層堆積当時に調査地点の沖合いに沿岸州が形成されて、その内側の潟の方向に向けてこの砂層が堆積した可能性が考えられる。

三角州前置層の直上にあたる海抜高度１ｍ前後の層準には、黒褐色の酸化鉄や酸化マンガンの集積した砂が認められる。この集積層は、砂層堆積後地下水位の変動によってもたらされた２次的構造である。この酸化鉄などの集積層とこれより上の箱崎砂層は、北西側でＮ38°Ｅの走行を持ち数度北西に緩く傾く凹型斜層理を、南東側でＮ35°Ｅの走行と数度または一部で十数度南東側に傾く斜層理をそれぞれ有している。一般には三角州前置層は、水平な葉理を持つ頂置層に覆われるが、ここでは頂置層部分は北西から南東方向へ打ち寄せた波によって侵食された後、海浜砂が満潮位より下に形成されていた砂堆を乗り越えるように堆積した構造であるものと判断される。

箱崎砂層を覆って海抜高度２ｍ前後の層準にある人為堆積砂層には、斜層理の構造は全く認められない。また、砂丘砂などの風成堆積物の構造もみとめられなかった。この砂層の層厚は一定で15世紀前後と考えられる遺構面の直下に分布すること等から、海浜砂または砂丘砂を人為的に均した構造と推定される。なお、調査地点では15世紀以降に人工的に地上げをした盛り土が約３ｍ堆積している。

調査地点の地形環境

調査地点が陸化した年代を直接示す証拠は得られなかったが、箱崎砂層の最上部からは13世紀中頃以降の遺物が出土していることから、この年代以前には陸化していたものと判断される。大博通り付近でも「息の濱」の陸化は11世紀後半と判断されてきた。今回の調査結果はこの判断と整合的である。
また、博多遺跡群第60次調査地点で明らかになった海岸部の石塁護岸遺構の形成が13世紀の後半と考えられることなどから総合して、調査地点周辺は13世紀中頃になって一斉に陸域となったものと推定される。
今回の調査からは新たに、13世紀中頃以前に、調査地点よりも北西の位置に自然に形成された沿岸州が存在し、那珂川の河口を塞ぐように延びていた可能性があることが判明した。博多では近世に急速に海岸付近の陸化が進行しているが、その前地形として海岸の沖に沿岸州の存在があったものと考えられる。なお、調査地点は那珂川河口に隣接しており、市街地として安定した遺構が形成された時期は、第60次調査地点よりも遅れている。

引用文献

福岡市教育委員会（1992）：博多30 －博多遺跡群第60次調査報告－. 福岡市埋蔵文化財調査報告書第285集, 144pp.
福岡市教育委員会（1992）：博多32 －博多遺跡群第68次調査報告－. 福岡市埋蔵文化財調査報告書第287集, 182pp.
磯　望・下山正一・大庭康時・池崎譲二・小林　茂・佐伯弘次（1991）：博多遺跡群周辺における遺跡形成環境の変遷. 横山浩一先生退官記念事業会「日本における初期弥生文化の形成Ⅱ」, 文献出　版（株）, 506-552p.
下山正一（1989）：福岡平野における縄文海進の規模と第四紀層. 九大理研報（地質）, vol. 16, 37-58p.

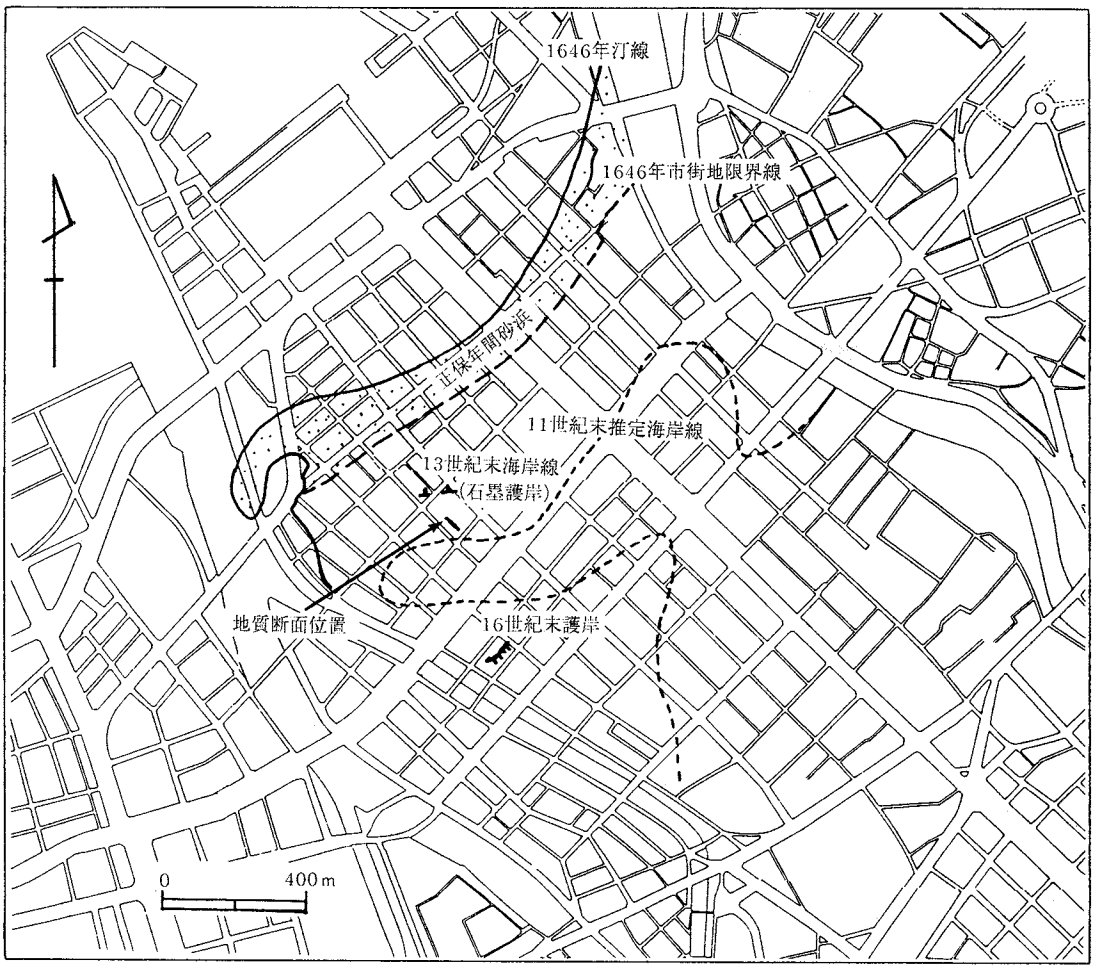
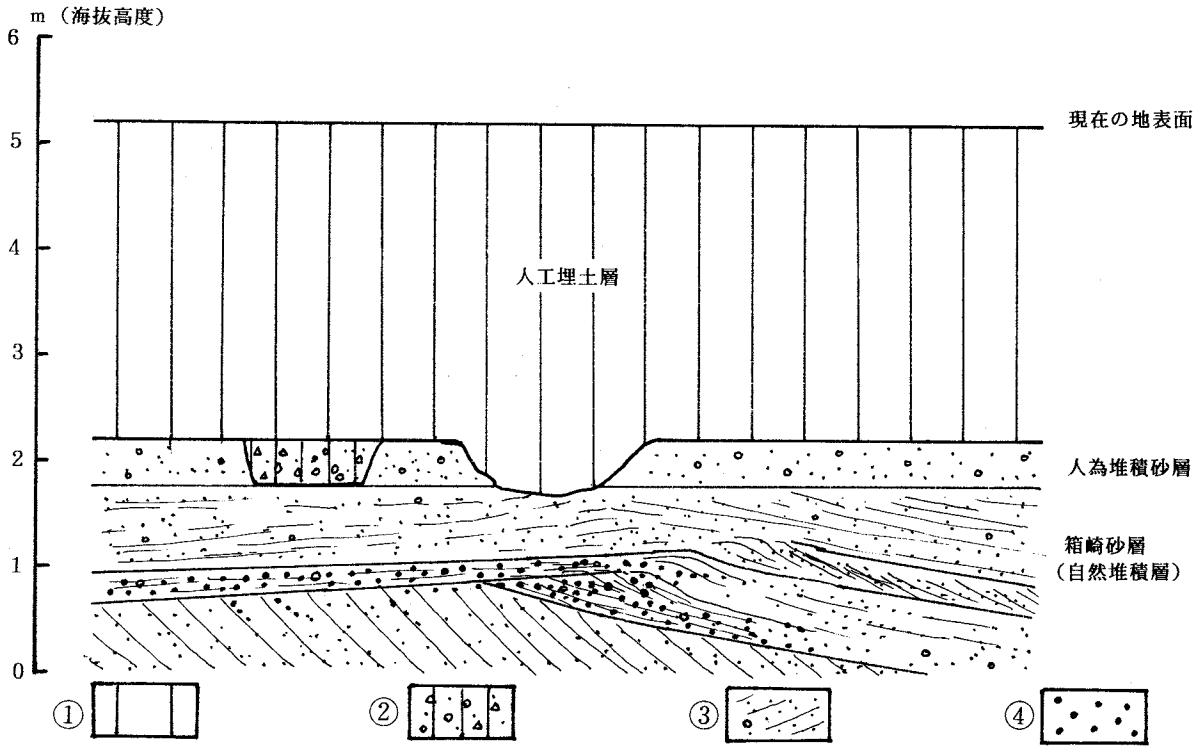
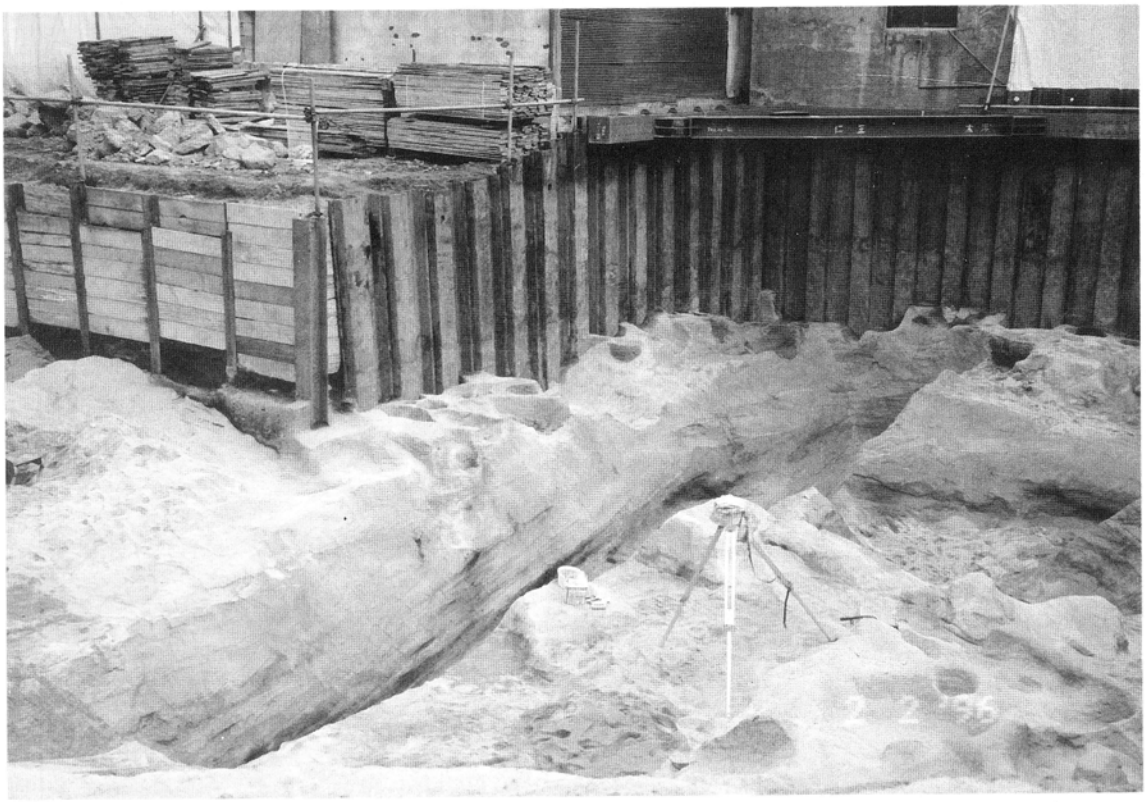


図1　博多遺跡群第93次発掘調査　地質断面位置関係図

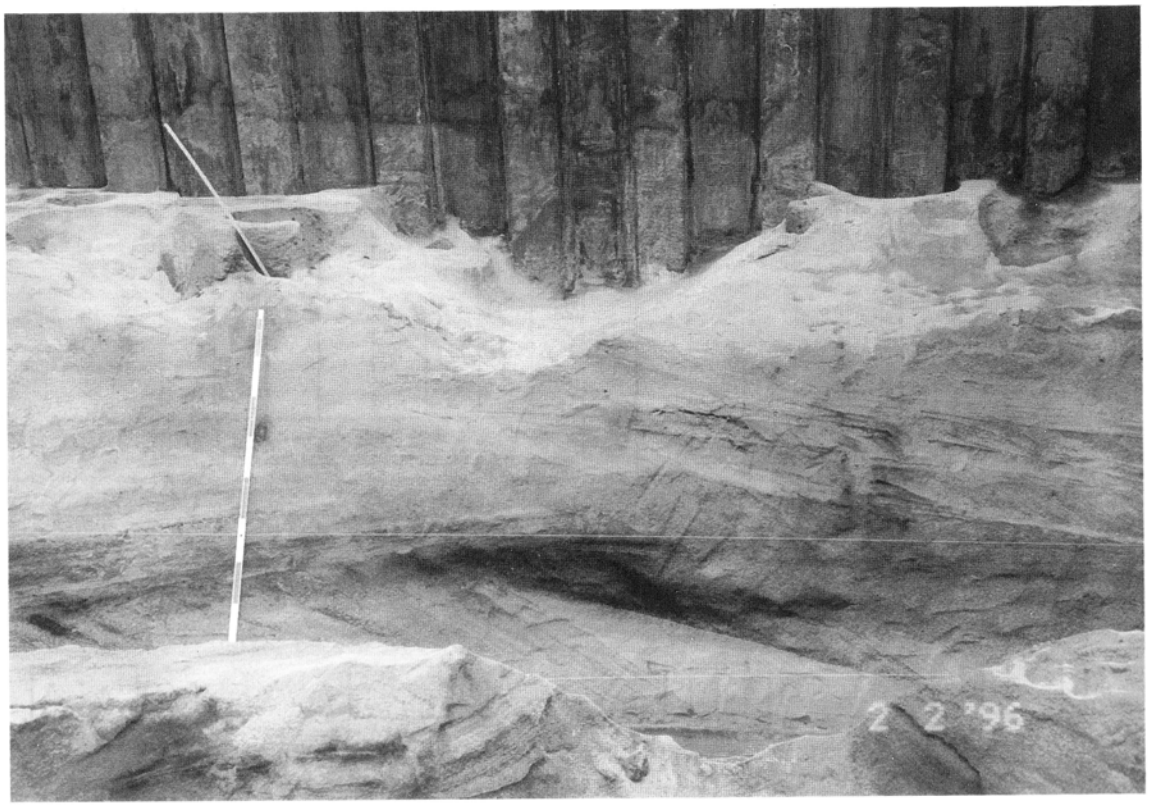


① 人工理土層　　③ 細礫まじり砂層（細線は斜層理を示す）
② 遺物包含層　　④ 酸化鉄の集積した砂層

図2　博多遺跡群第93次発掘調査の地質断面図

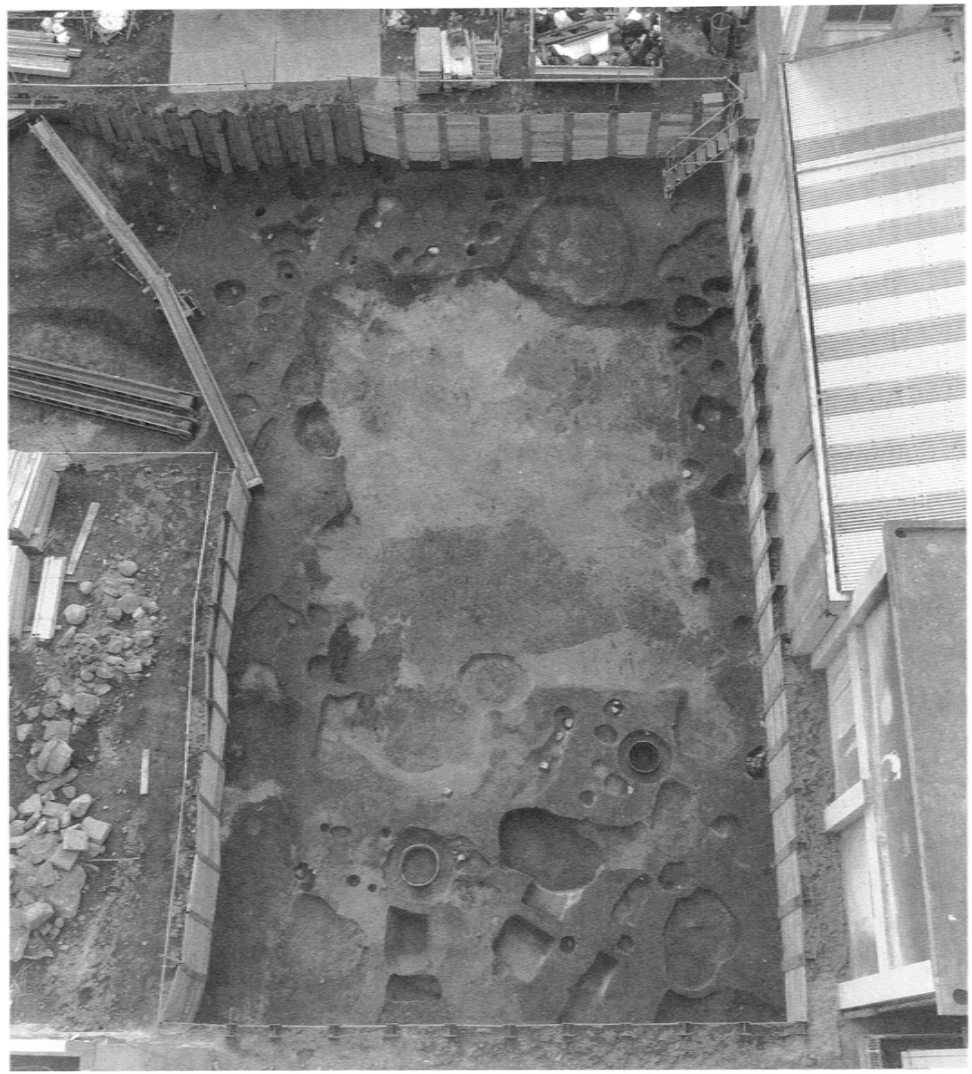


トレンチ全体写真



断面図作成位置の壁面写真

(2)　A 区第 2 面全景（北東から）



(1)　A 区第 1 面全景（北東から）

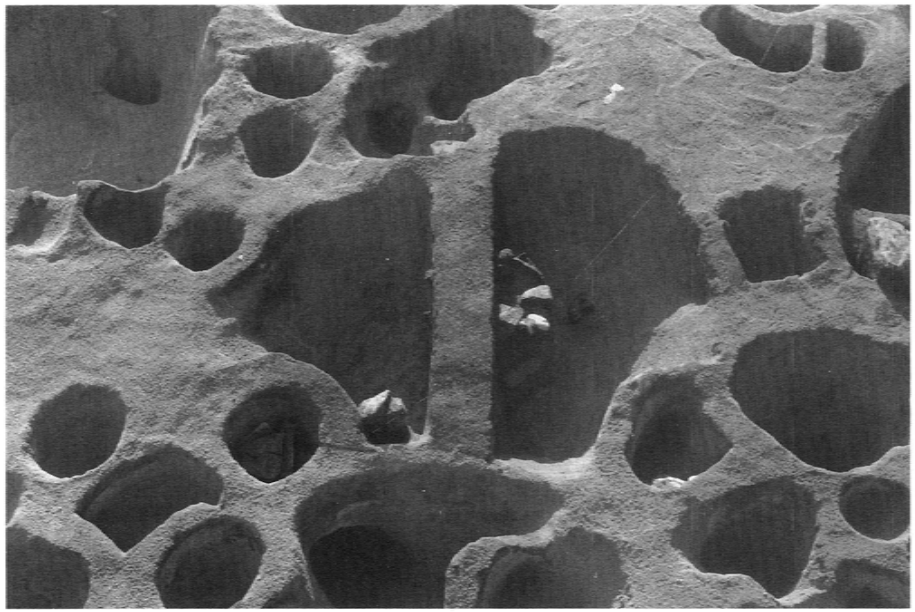
(1)　B区第1面全景（北西から）

(2)　B区第2面全景（北西から）

(1) SK-01 遺物出土状況（南東から）

(2) SK-02 検出状況（南西から）

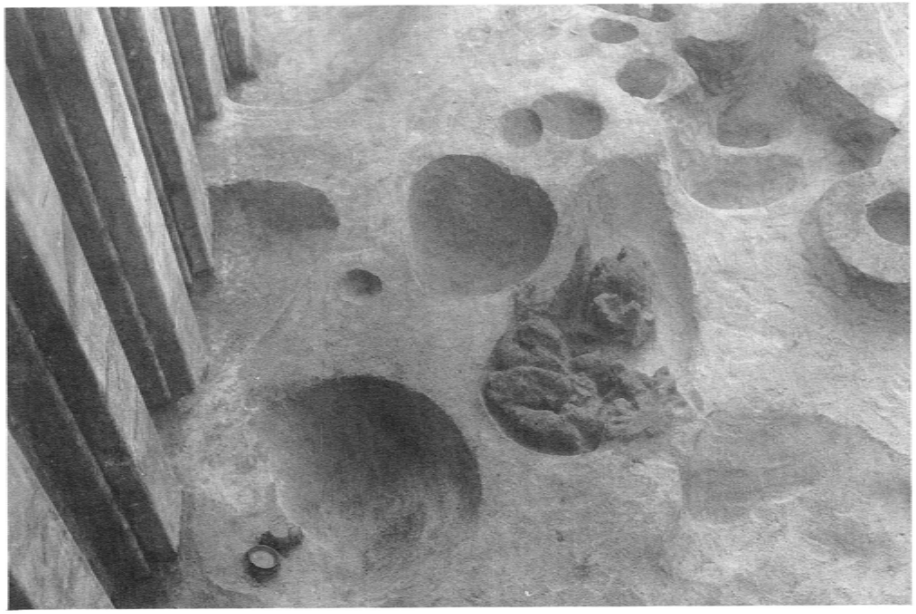
(3) SK-34 検出状況（北から）



(4) SK-45 遺物出土状況（北東から）

(1)　SK-79 検出状況（南西から）

(2)　SK-89、90 完掘状況（東から）



(3)　SK-98、100 検出状況（南東から）

(4)　SK-110 検出状況（西から）

(1)　SE-01 上面獣骨出土状況（南東から）

(2)　SE-01 検出状況（南東から）

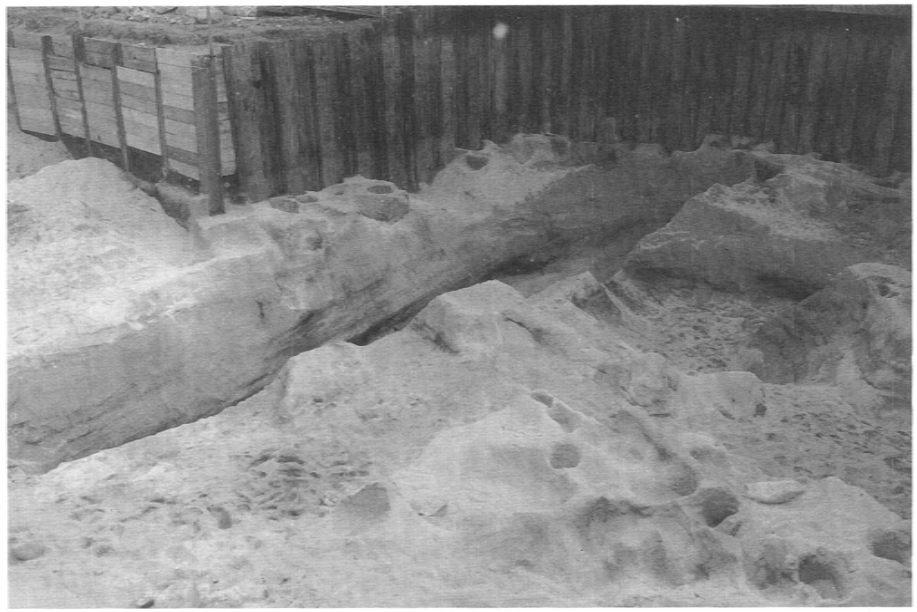
(3)　SE-02 検出状況（南東から）

(4)　SE-３、４、６、７ 検出状況（南西から）

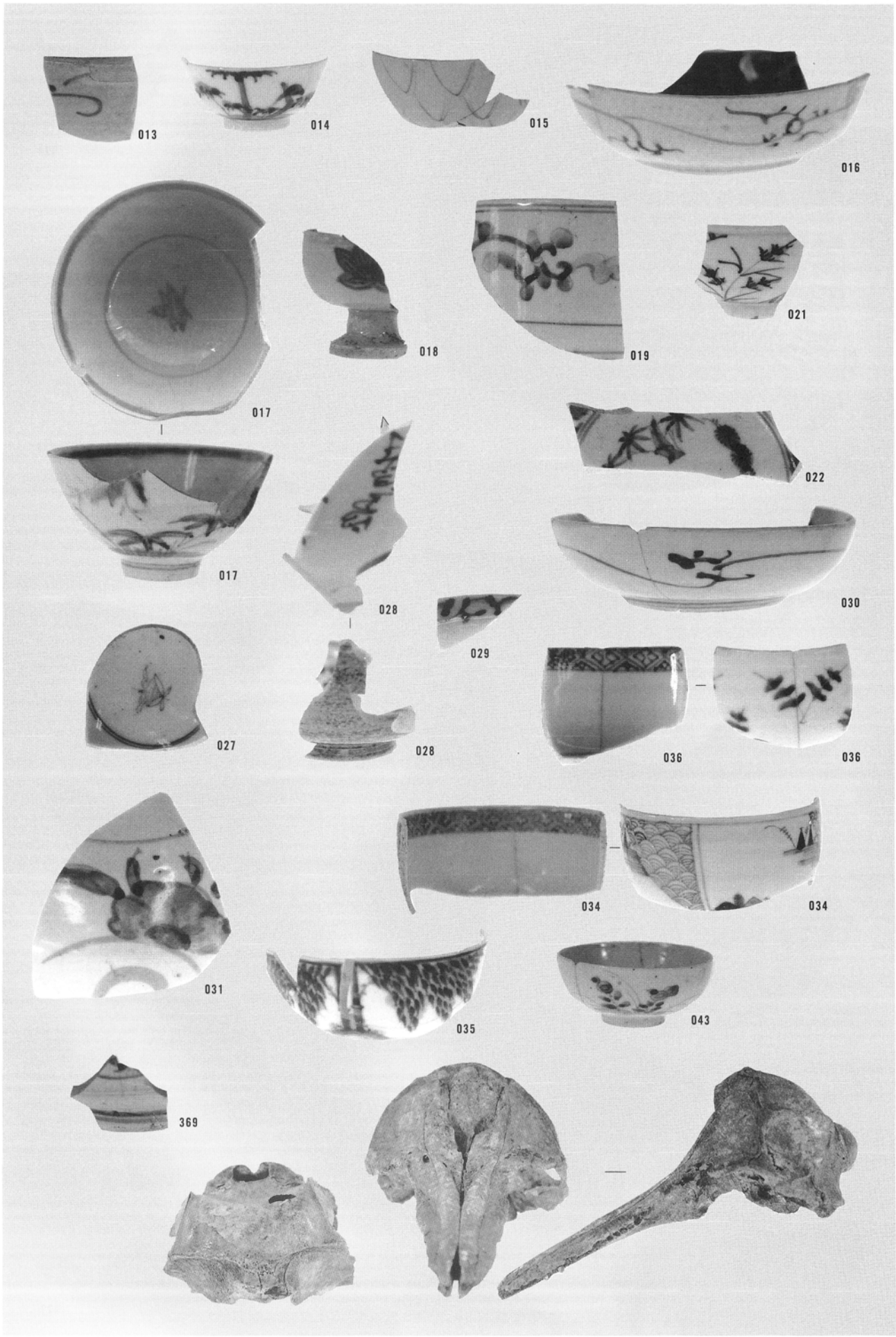
(1)　SE-03 検出状況（北から）

(2)　SE-06 検出状況（北から）

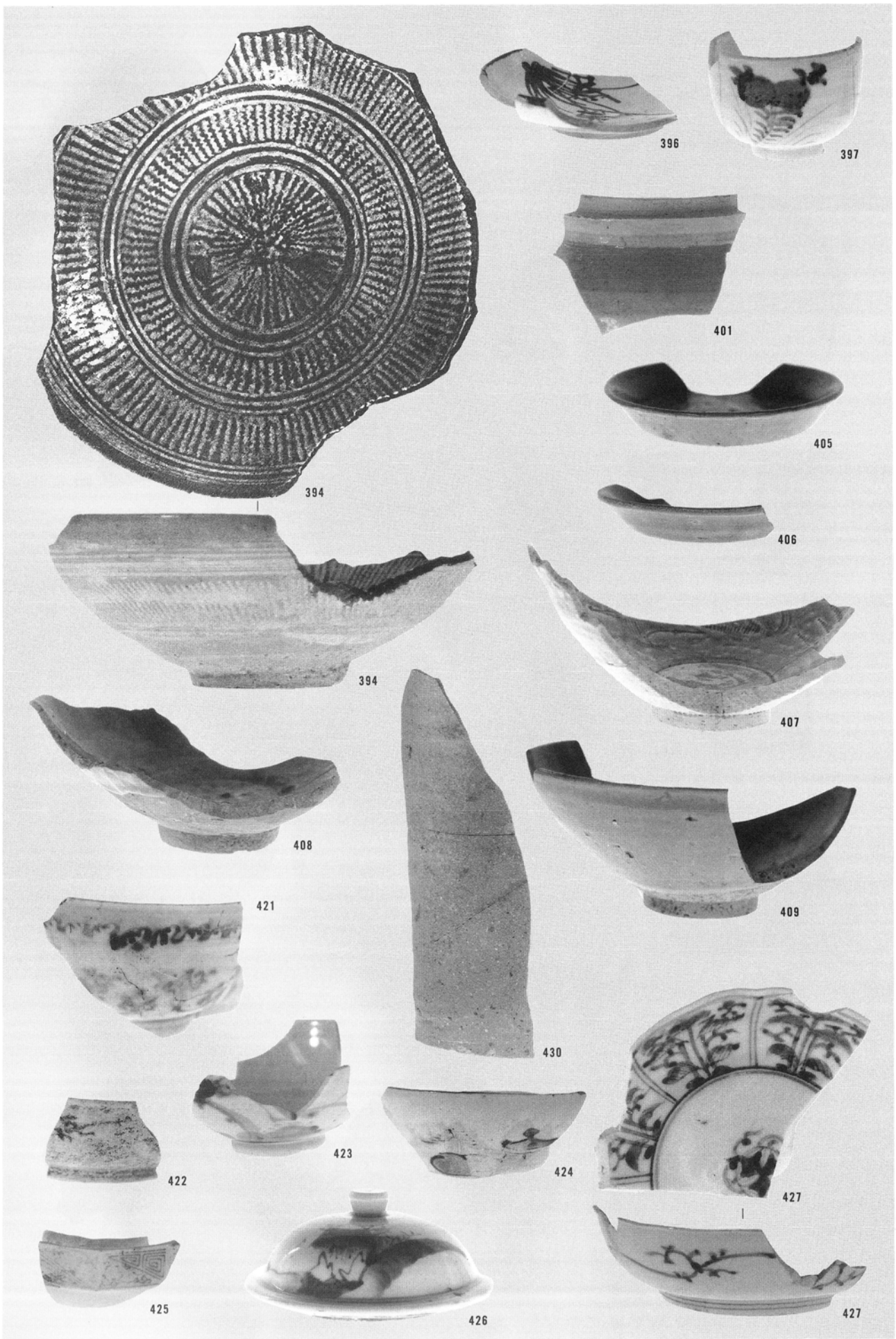
(3)　SE-07 検出状況（北から）



(4)　トレンチ調査掘削状況（西から）


013
014
015
016
017
018
019
021
017
022
028
030
029
027
028
036
036
031
034
034
035
043
369

出土遺物 1


396
397
401
405
394
406
394
407
408
409
421
430
422
423
424
427
425
426
427

出土遺物 2

博　多　59

福岡市埋蔵文化財調査報告書

第532集

平成 9 年 3 月 31 日

発　行　福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8－1

印　刷　株式会社　川島弘文社

福岡市東区箱崎ふ頭6丁目6番41号